

# 令和3年社会生活基本調査 福井県の概要

令和4年12月  
福 井 県

# 目 次

## 結果の概要（生活時間編）

1	1日の生活時間の配分	2
2	1次活動	4
3	2次活動	8
4	3次活動	18
5	夫と妻の生活時間	25
6	高齢者の生活時間	27
7	在学者の生活時間	29
8	スマートフォン・パソコンなどの使用状況	30

## 結果の概要（生活行動編）

1	学習・自己啓発・訓練	35
2	ボランティア活動	39
3	スポーツ	45
4	趣味・娯楽	52
5	旅行・行楽	60

調査の概要	64
-------	----

用語の説明	66
-------	----

## 結果の概要（生活時間編）

### － 利用上の主な用語 －

- 1 次活動……睡眠、食事など生理的に必要な活動
- 2 次活動……仕事、家事など社会生活を営む上で義務的な性格の強い活動
- 3 次活動……1次活動、2次活動以外で各人が自由に使える時間における活動
- 総平均時間……該当する種類の行動をしなかった人を含む全員の平均
- 行動者平均時間……該当する種類の行動をした人のみについての平均
- 週全体平均……平日、土曜日、日曜日の曜日別結果の平均

### － 利用上の注意 －

- 1 この結果の概要では、特に断りのない限り、総平均時間の数値を記載している。
- 2 本文および図表中の数値は、表章単位未満の位で四捨五入していること、また、総数に「不詳」の数を含むことから、総数と内訳を合計した数値とは必ずしも一致しない。
- 3 表中の「0」および「0.0」は、集計した数値が表章単位に満たないものである。
- 4 表中の「－」は、該当数字のない箇所である。
- 5 表中の「…」は、サンプルサイズが10未満で、結果精度の観点から表章していない

### 【1日の生活時間の配分の調査時期】

1日の生活時間の配分は、2021年（令和3年）10月16日から24日までのうち調査区ごとに指定された2日間（生活時間の指定日）について調査した結果である。この時期は、新型コロナウイルス感染症がいわゆる第5波として拡大した後、各地に順次発令されていた「新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言」等が2021年9月末をもって全ての地域で解除された直後となる。

福井県においても、県独自の警報が解除された直後となる。

# 1 1日の生活時間の配分

## (1) 概況

- ・ 5年前（2016年）に比べ、「休養・くつろぎ」の時間が17分増加、「仕事」の時間が9分減少

福井県に住んでいる10歳以上の人について、行動の種類別に週全体平均（以下「週全体」という。）による1日の生活時間をみると、「睡眠」の時間が8時間1分、「仕事」の時間が3時間43分、「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」の時間が2時間4分となっている。

生活時間について、総数で2016年と比べ増減が最も大きいものとして、「休養・くつろぎ」の時間は17分の増加と最も増加が大きくなっており、「仕事」の時間は9分の減少と最も減少が大きくなっている。

男女別に2016年と比べると、男性は「休養・くつろぎ」の時間が18分の増加、「睡眠」の時間が14分の増加などとなっており、「仕事」の時間が23分の減少、「移動（通勤・通学を除く）」および「交際・付き合い」の時間が6分の減少などとなっている。一方、女性は「休養・くつろぎ」の時間が16分の増加、「睡眠」の時間が14分の増加などとなっており、「移動（通勤・通学を除く）」の時間が8分の減少、「趣味・娯楽」の時間が7分の減少などとなっている。〔表1〕

表1 男女、行動の種類別生活時間（2016年、2021年）一週全体

(時間、分)

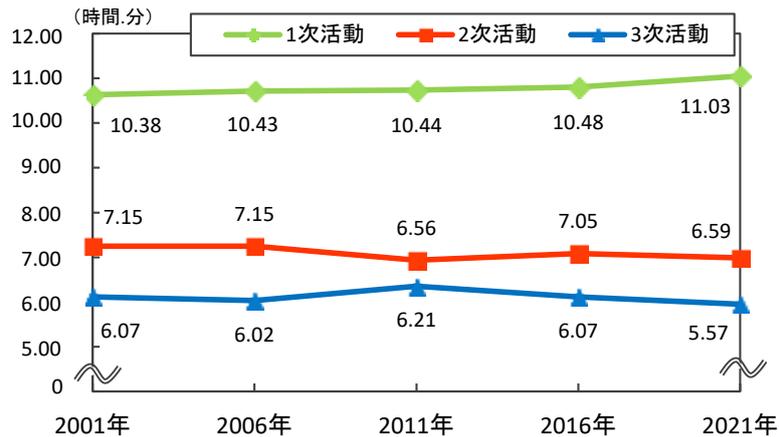
	総数			男			女		
	2016年	2021年	増減	2016年	2021年	増減	2016年	2021年	増減
<b>1次活動</b>	10.48	11.03	0.15	10.43	11.00	0.17	10.54	11.06	0.12
睡眠	7.47	8.01	0.14	7.56	8.10	0.14	7.39	7.53	0.14
身の回りの用事	1.23	1.23	0.00	1.11	1.14	0.03	1.34	1.32	▲0.02
食事	1.38	1.39	0.01	1.36	1.37	0.01	1.41	1.40	▲0.01
<b>2次活動</b>	7.05	6.59	▲0.06	6.49	6.34	▲0.15	7.19	7.24	0.05
仕事等	5.00	4.50	▲0.10	6.07	5.40	▲0.27	3.56	4.01	0.05
通勤・通学	0.26	0.26	0.00	0.31	0.29	▲0.02	0.22	0.23	0.01
仕事	3.52	3.43	▲0.09	4.54	4.31	▲0.23	2.53	2.57	0.04
学業	0.42	0.41	▲0.01	0.42	0.40	▲0.02	0.41	0.41	0.00
家事関連	2.06	2.10	0.04	0.42	0.54	0.12	3.24	3.22	▲0.02
家事	1.25	1.28	0.03	0.22	0.28	0.06	2.24	2.26	0.02
介護・看護	0.05	0.03	▲0.02	0.02	0.02	0.00	0.08	0.03	▲0.05
育児	0.14	0.15	0.01	0.04	0.08	0.04	0.22	0.22	0.00
買い物	0.22	0.24	0.02	0.14	0.16	0.02	0.30	0.31	0.01
<b>3次活動</b>	6.07	5.57	▲0.10	6.28	6.26	▲0.02	5.47	5.30	▲0.17
移動(通勤・通学を除く)	0.25	0.18	▲0.07	0.25	0.19	▲0.06	0.26	0.18	▲0.08
テレビ・ラジオ・新聞・雑誌	2.02	2.04	0.02	2.07	2.13	0.06	1.56	1.55	▲0.01
休養・くつろぎ	1.38	1.55	0.17	1.42	2.00	0.18	1.35	1.51	0.16
学習・自己啓発・訓練(学業以外)	0.12	0.12	0.00	0.12	0.14	0.02	0.12	0.10	▲0.02
趣味・娯楽	0.45	0.40	▲0.05	0.54	0.52	▲0.02	0.36	0.29	▲0.07
スポーツ	0.15	0.11	▲0.04	0.19	0.15	▲0.04	0.11	0.08	▲0.03
ボランティア活動・社会参加活動	0.06	0.02	▲0.04	0.06	0.03	▲0.03	0.05	0.02	▲0.03
交際・付き合い	0.16	0.11	▲0.05	0.15	0.09	▲0.06	0.18	0.13	▲0.05
受診・療養	0.08	0.06	▲0.02	0.09	0.05	▲0.04	0.06	0.07	0.01
その他	0.20	0.17	▲0.03	0.19	0.16	▲0.03	0.21	0.18	▲0.03

## (2) 生活時間の推移

過去 20 年間の生活時間の推移をみると、1 次活動は増加傾向、2 次活動時間は減少傾向、3 次活動時間は 2011 年までは増加傾向だったものの、それ年以降は減少傾向となっている。

20 年前の 2001 年と比べると、1 次活動時間は 25 分増加しているのに対し、2 次活動時間は 16 分減少、3 次活動時間は 10 分減少している。〔図 1〕

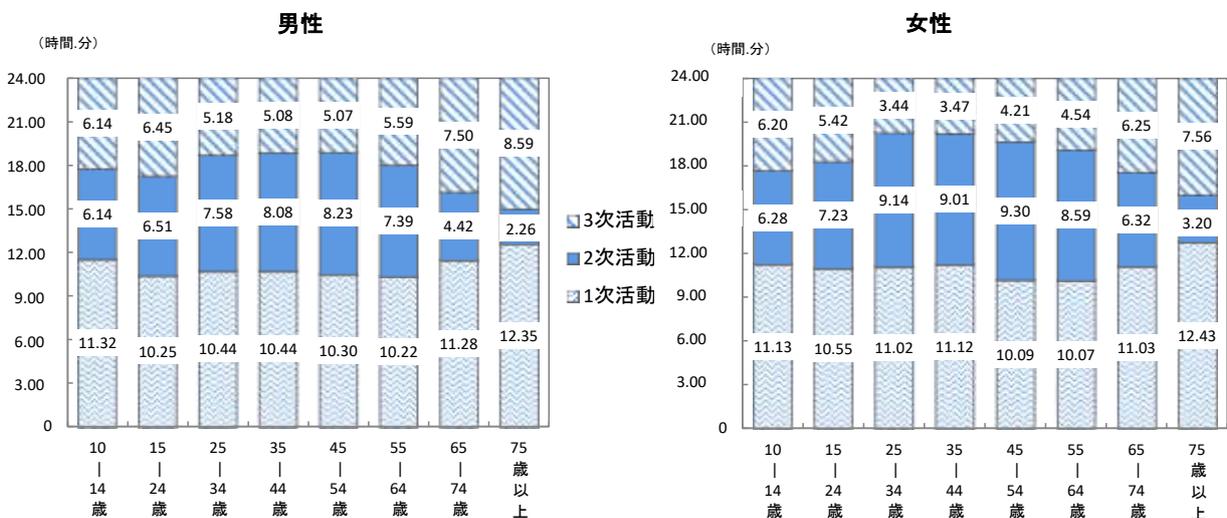
図 1 行動の種類別生活時間の推移（2001 年～2021 年）一週全体



## (3) 年齢階級別にみる生活時間

生活時間を年齢階級別にみると、1 次活動時間は、男女ともに「55～64 歳」が最も短く、「75 歳以上」が最も長くなっている。2 次活動時間は、男女ともに「75 歳以上」が最も短く、「45～54 歳」が最も長くなっている。3 次活動時間は、男性は「45～54 歳」が 5 時間 7 分、女性は「25～34 歳」が 3 時間 44 分と最も短く、男女ともに「75 歳以上」が最も長くなっている。〔図 2〕

図 2 男女別、年齢階級別、行動の種類別生活時間（2021 年）一週全体



## 2 1次活動

### (1) 睡眠

- ・ 減少傾向で推移していた「睡眠」の時間が増加に転じる

「睡眠」の時間は8時間1分となり、2016年より14分増加し、全国に比べ7分長くなっている。過去20年間の推移をみると、減少傾向で推移していたが、全国と同様に10分以上の大幅な増加となった。〔図3〕

男女別にみると、男性が女性より17分長い。男性は2016年より14分増加し、8時間10分、女性は14分増加し7時間53分となっている。〔図4〕

年齢階級別にみると、「55～64歳」が7時間21分と最も短く、「75歳以上」が9時間2分と最も長い。全国と同様に「55～64歳」を谷としたV字型になっている。〔図5〕

図3 「睡眠」の時間の推移  
(2001年～2021年) 一週全体



図4 男女別「睡眠」の時間の推移  
(2001年～2021年) 一週全体

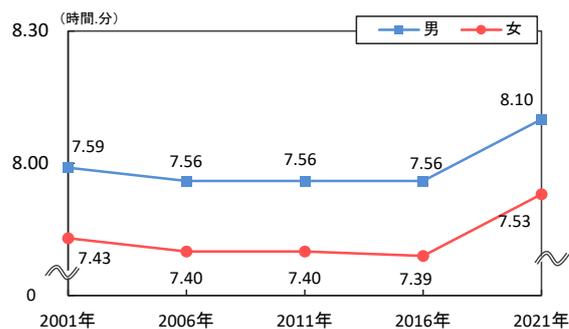
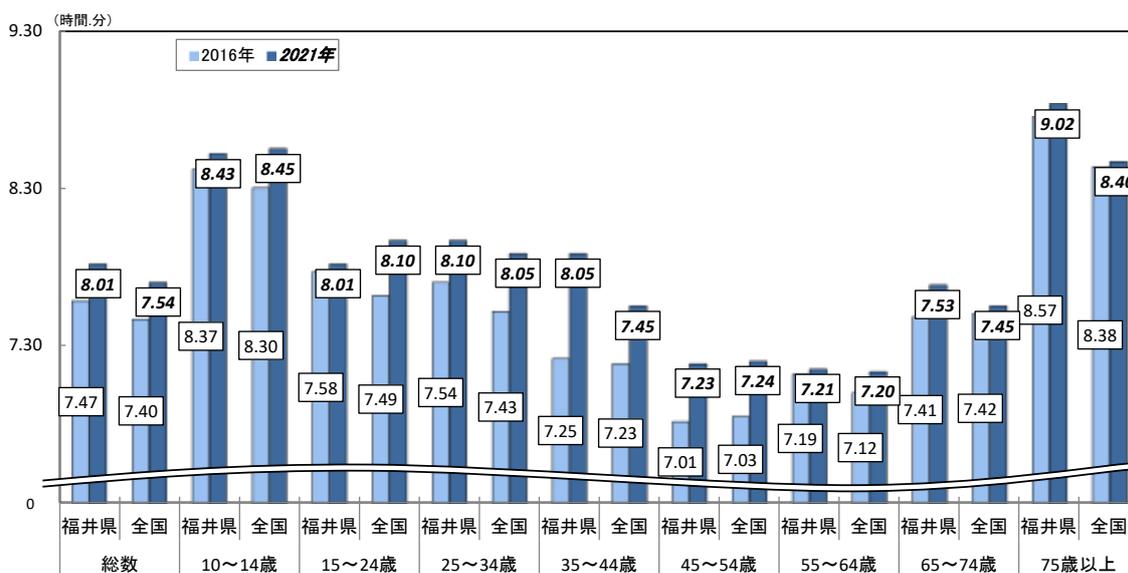


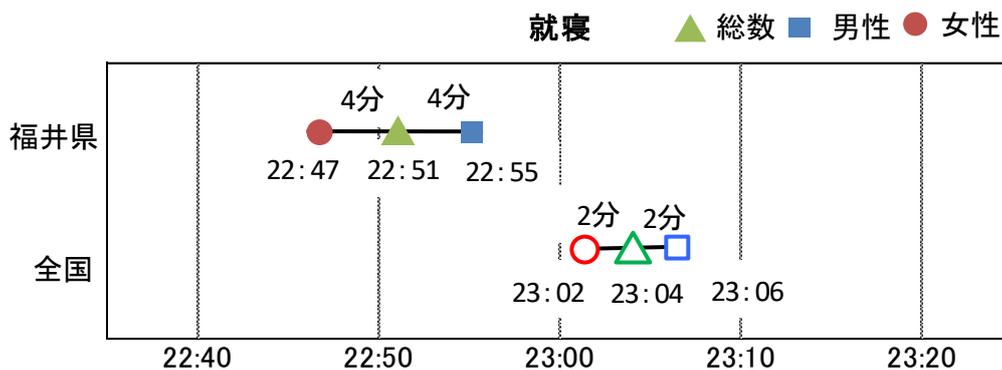
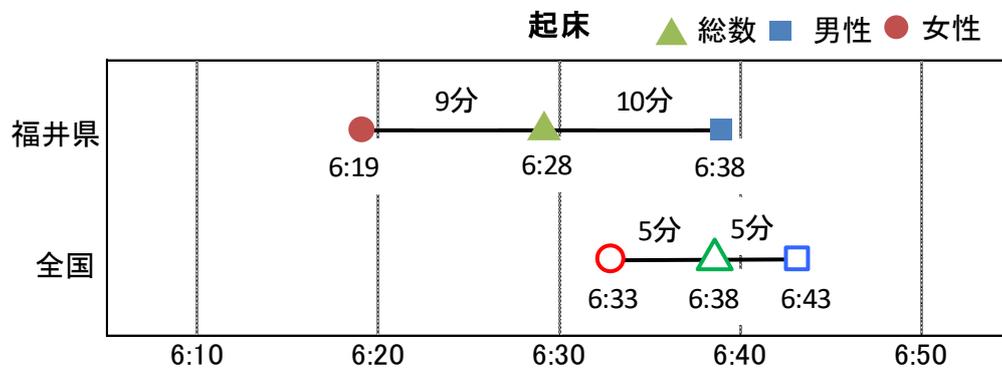
図5 年齢階級別「睡眠」の時間 (2016年、2021年) 一週全体



平均時刻をみると、起床時刻は6時28分、就寝時刻は22時51分といずれも全国より早くなっている。男女別にみると、起床時刻は男性が6時38分、女性が6時19分となり、女性が男性より19分早くなっている。就寝時刻は男性が22時55分、女性が22時47分となり、女性が男性より8分早く、男女とも起床および就寝時刻は全国より早くなっている。〔表2〕

表2 男女別平均起床時刻および平均就寝時刻（2021年）一平日

	起床			就寝		
	総数	男	女	総数	男	女
福井県	6:28	6:38	6:19	22:51	22:55	22:47
全国	6:38	6:43	6:33	23:04	23:06	23:02
全国との比較	▲10分	▲5分	▲14分	▲13分	▲11分	▲15分



## (2) 食事

- ・ 女性の朝食開始時刻が全国で2番目に早い

「食事」の時間は、2016年より1分増加して1時間39分となり、全国と同時間となった。過去20年間の推移をみると、ほぼ横ばいで推移している。〔図6〕

男女別にみると、男性が1時間37分、女性が1時間40分と女性が男性より3分長い。〔図7〕

年齢階級別にみると、「25～34歳」が1時間22分と最も短く、35歳以上では年齢とともに時間が長くなり、「75歳以上」が2時間5分と最も長くなっている。〔図8〕

図6 「食事」の時間の推移  
(2001年～2021年) 一週全体

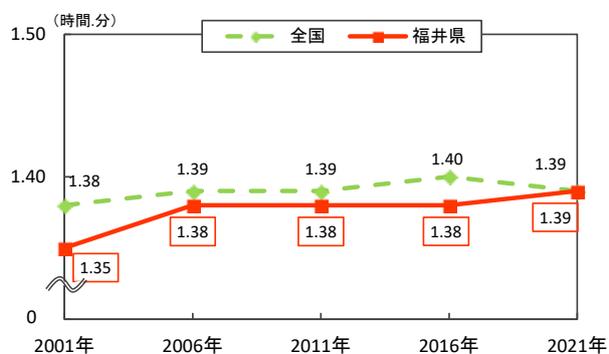


図7 男女別「食事」の時間の推移  
(2001年～2021年) 一週全体

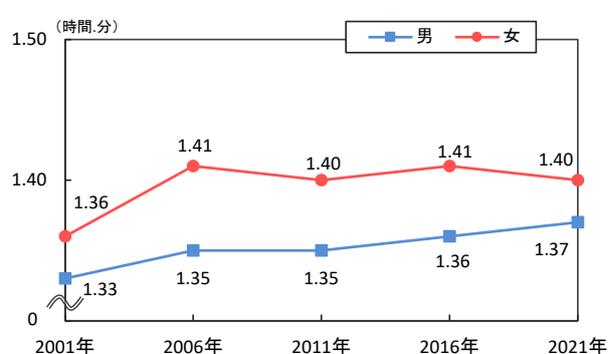
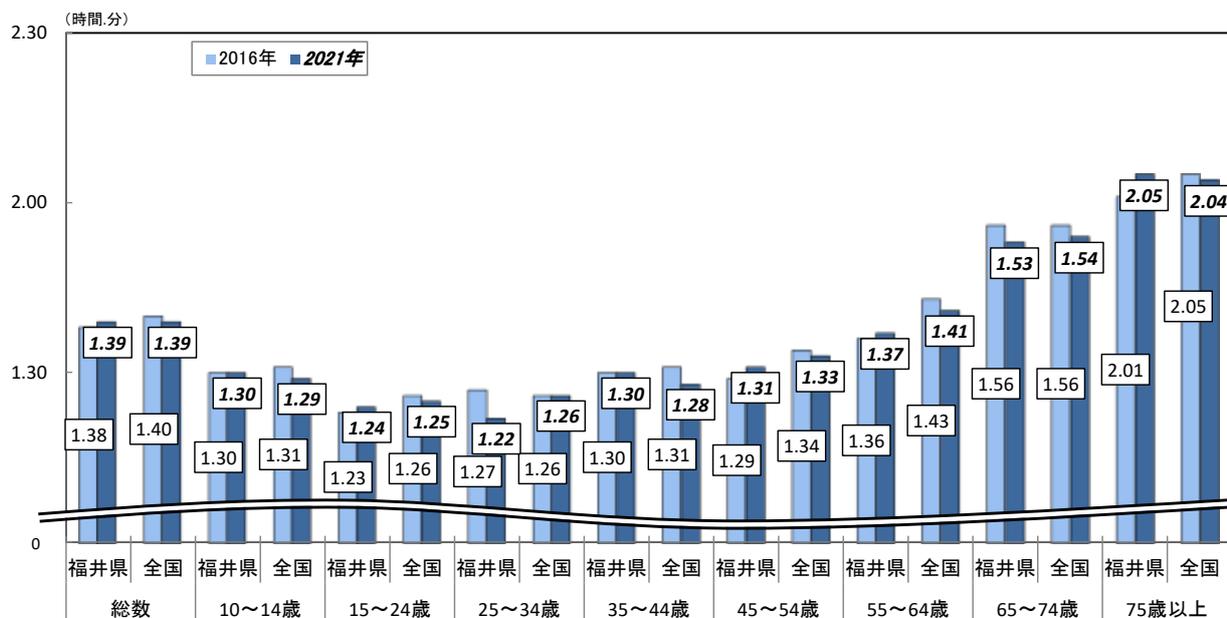


図8 年齢階級別「食事」の時間 (2016年、2021年) 一週全体

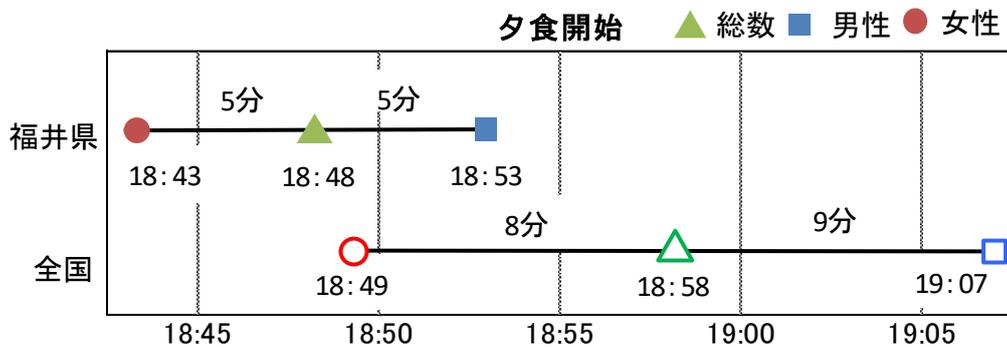
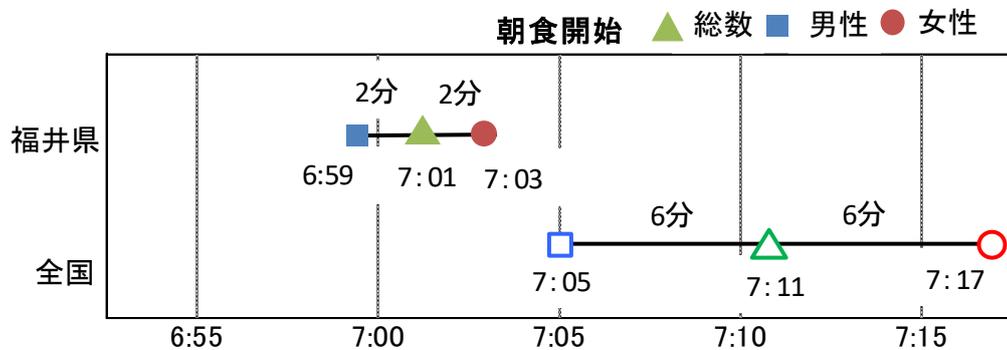


平均時刻をみると、朝食開始時刻は7時1分、夕食開始時刻は18時48分といずれも全国より10分早くまっている。男女別では、朝食開始時刻は男性が6時59分、女性が7時3分となり、女性が男性より4分遅くなっているが、女性の朝食開始時刻は全国で2番目に早い。一方、夕食開始時刻は男性が18時53分、女性が18時43分となり、女性が男性より10分早くまっている。〔表3〕

表3 男女別平均朝食開始時刻および平均夕食開始時刻（2021年）－平日

(時：分)

	朝食開始			夕食開始		
	総数	男	女	総数	男	女
福井県	7:01	6:59	7:03	18:48	18:53	18:43
全国	7:11	7:05	7:17	18:58	19:07	18:49
全国との比較	▲10分	▲6分	▲14分	▲10分	▲14分	▲6分



### 3 2次活動

#### (1) 仕事

・ 5年前に比べ、男性の「仕事」の時間は35分の減少、女性は4分の増加

有業者（15歳以上。以下同じ。）についてみると、有業者数は42万6千人、有業率は66.4%となっており、2016年と比べると、有業率が0.3ポイント上昇している。特に、女性の有業率が1.2ポイント上昇し59.8%となっており、全国第3位となった。〔表4〕

有業者の「仕事」の時間は5時間51分となり、2016年より17分減少したが、全国に比べ11分長くなっている。過去20年間の推移をみると、常に全国を上回っているが、全国と同様に減少傾向となっており、2001年に比べ23分の減少となった。

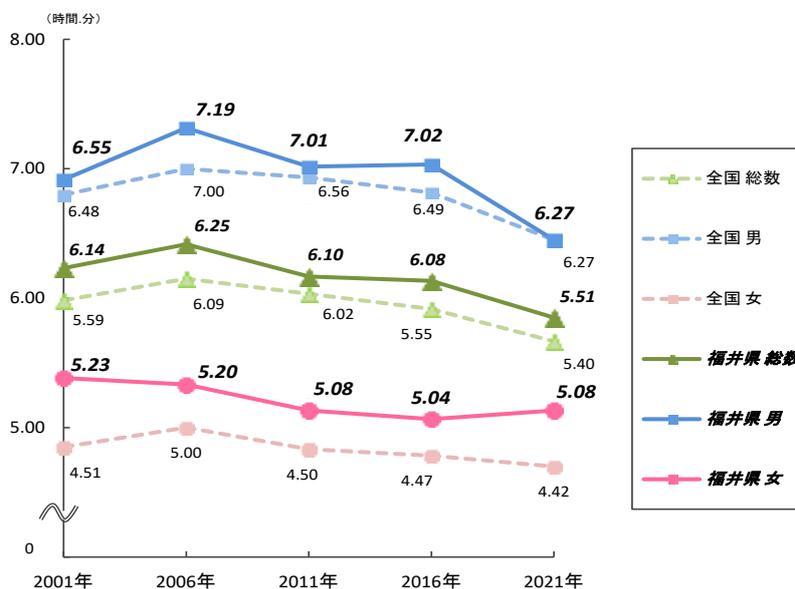
男女別にみると、男性が6時間27分、女性が5時間8分と男性が女性より1時間19分長くなっており、2016年と比べると、男性は35分の減少、女性は4分の増加となっている。過去20年間の推移をみると、2001年に比べ、男性は28分の減少、女性は15分の減少となっており、男性の減少傾向が大きい。〔図9〕

表4 男女別有業者数および有業率（2016年、2021年）一週全体、15歳以上

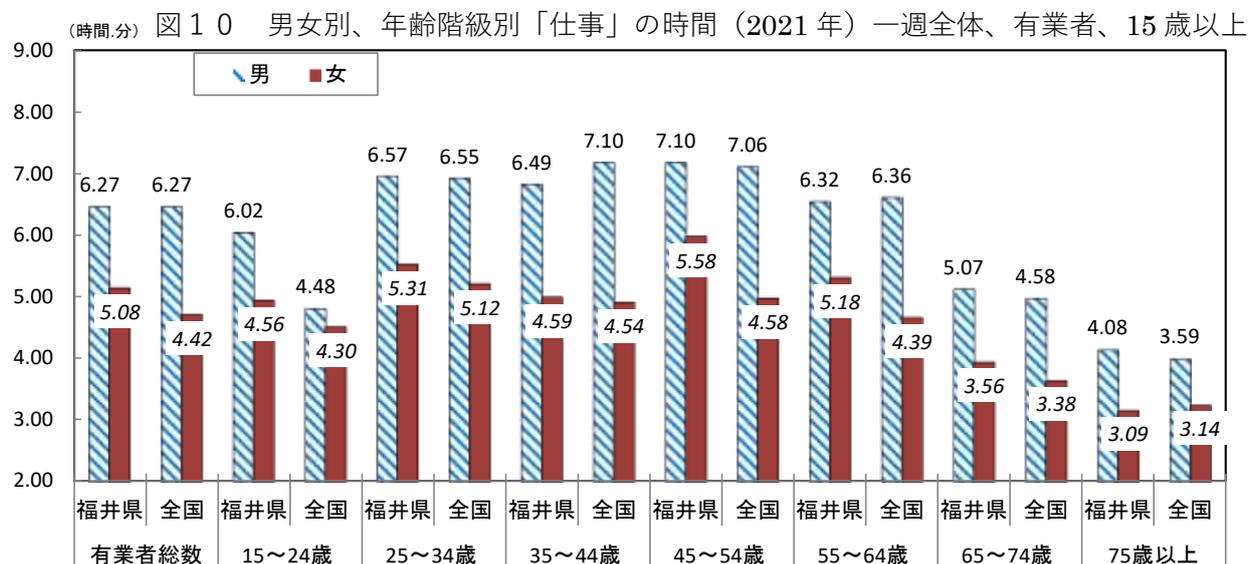
		福井県			全国		
		2016年	2021年	増減	2016年	2021年	増減
有業者数 (千人)	総数	433	426	▲7	67,291	68,204	913
	男	235	230	▲5	37,590	37,530	▲60
	女	198	196	▲2	29,701	30,674	973
有業率 (%、増減は ポイント)	総数	66.0	66.4	0.3	62.6	63.7	1.1
	男	73.7	73.2	▲0.5	72.1	72.0	▲0.0
	女	58.6	59.8	1.2	51.6	55.7	4.2

※有業率・・・人口に占める有業者の割合（ふだんの就業状態不詳を除き算出）

図9 男女別「仕事」の時間の推移（2001年～2021年）一週全体、有業者、15歳以上



年齢階級別にみると、男女とも「45～54歳」が最も長く、「75歳以上」が最も短くなっている。全国と比較すると、女性は、75歳未満のすべての年齢階級において全国を上回っており、特に「45～54歳」が5時間58分となり全国で3番目に長い。〔図10〕



- ・ 5年前に比べ、「正規の職員・従業員」の仕事時間は24分減少、「正規の職員・従業員以外」の仕事時間は1分増加

有業者のうち雇用されている人の仕事時間を雇用形態別にみると、「正規の職員・従業員」が6時間36分、「正規の職員・従業員以外」が4時間28分となっている。2016年と比べると、「正規の職員・従業員」は24分の減少、「正規の職員・従業員以外」は1分の増加となっている。全国と比較すると、「正規の職員・従業員」は7分短く、「正規の職員・従業員以外」は23分長くなっている。

男女別に2016年と比べると、「正規の職員・従業員」は男性が30分の減少、女性が9分の減少、「正規の職員・従業員以外」は、男性は10分の減少、女性が1分の増加となっている。〔表5〕

表5 男女、雇用形態別「仕事」の時間(2016年、2021年)一週全体、雇用されている人、15歳以上

		2016年		2021年		増減	
		人口 (千人)	仕事時間 (時間.分)	人口 (千人)	仕事時間 (時間.分)	人口 (千人)	仕事時間 (時間.分)
総数	雇用されている人	355	6.09	356	5.55	1	▲0.14
	正規の職員・従業員	238	7.00	240	6.36	2	▲0.24
	正規の職員・従業員以外	117	4.27	116	4.28	▲1	0.01
	パート	60	4.19	55	4.30	▲5	0.11
	アルバイト	24	3.14	23	3.28	▲1	0.14
男	雇用されている人	186	7.03	185	6.31	▲1	▲0.32
	正規の職員・従業員	151	7.28	145	6.58	▲6	▲0.30
	正規の職員・従業員以外	34	5.10	40	5.00	6	▲0.10
	パート	6	4.36	8	4.57	2	0.21
	アルバイト	10	3.41	11	3.28	1	▲0.13
女	雇用されている人	170	5.11	171	5.16	1	0.05
	正規の職員・従業員	86	6.12	95	6.03	9	▲0.09
	正規の職員・従業員以外	83	4.12	76	4.13	▲7	0.01
	パート	54	4.23	47	4.26	▲7	0.03
	アルバイト	14	2.59	12	3.38	▲2	0.39

## (2) 家事関連

・ 家事関連時間は男性が増加傾向、男女差は縮小しているが依然として大きい

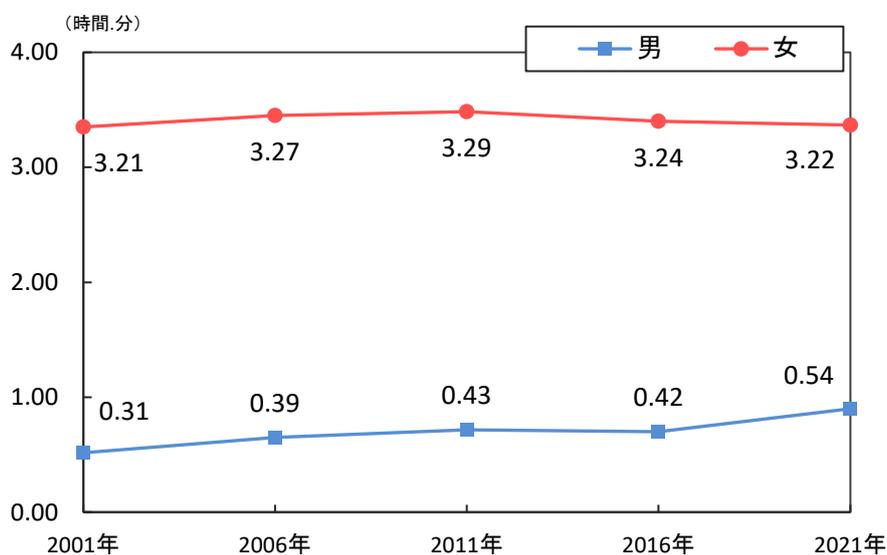
家事関連時間（「家事」、「介護・看護」、「育児」および「買い物」。以下同じ。）を男女別にみると、男性は54分、女性は3時間22分となり、2016年に比べ、男性は12分の増加、女性は2分の減少となっている。

過去20年間の推移をみると、2001年に比べ、男性は23分の増加、女性は1分の増加となっている。男女の差は2時間28分と2001年の2時間50分に比べ22分縮小しているが、依然として差は大きい。〔表6、図11〕

表6 男女別家事関連時間の推移（2001年～2021年）一週全体

	福井県			全国		
	男	女	男女差	男	女	男女差
2001年	0.31	3.21	▲ 2.50	0.31	3.34	▲ 3.03
2006年	0.39	3.27	▲ 2.48	0.38	3.35	▲ 2.57
2011年	0.43	3.29	▲ 2.46	0.42	3.35	▲ 2.53
2016年	0.42	3.24	▲ 2.42	0.44	3.28	▲ 2.44
2021年	0.54	3.22	▲ 2.28	0.51	3.24	▲ 2.33

図11 男女別家事関連時間の推移（2001年～2021年）一週全体



- ・ 5年前に比べ、男性の「家事」の時間および「育児」の時間、「買い物」の時間が増加、女性は「介護・看護」の時間が減少

家事関連時間の内訳を男女別にみると、男性は「家事」の時間が6分増加、「育児」の時間が4分増加している。一方、女性は「介護・看護」の時間が5分減少している。〔表7〕

表7 男女別家事関連時間（2016年、2021年）一週全体

(時間.分)

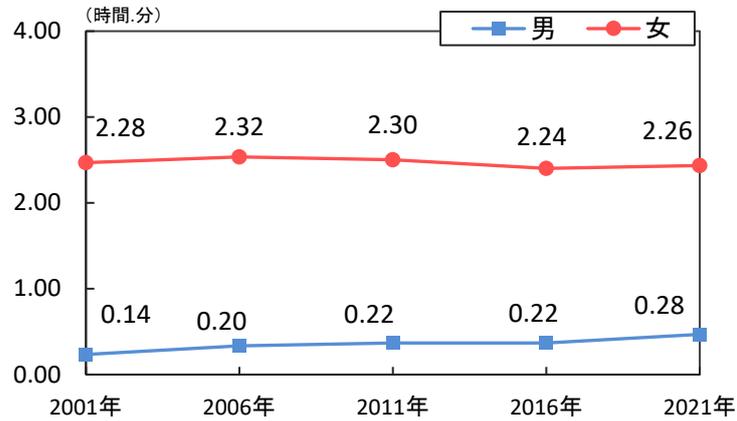
	男			女		
	2016年	2021年	増減	2016年	2021年	増減
家事関連	0.42	0.54	▲ 0.12	3.24	3.22	▲ 0.02
家事※	0.22	0.28	▲ 0.06	2.24	2.26	▲ 0.02
介護・看護	0.02	0.02	▲ 0.00	0.08	0.03	▲ 0.05
育児	0.04	0.08	▲ 0.04	0.22	0.22	▲ 0.00
買い物	0.14	0.16	▲ 0.02	0.30	0.31	▲ 0.01

※家事：料理、食器洗い、掃除、片付け、洗濯、アイロンがけ、繕いもの、家の補修、車の洗車、家計管理など

- ・ 「家事」の時間は男性が増加傾向。男女差は縮小しているが依然として一定時間存在

家事関連時間のうち「家事」の時間について、過去 20 年間の推移を男女別にみると、2001 年に比べ男性は 14 分の増加、女性は 2 分の減少となっている。男女の差は 1 時間 58 分と 2001 年の 2 時間 14 分と比べると 16 分縮小しているが、依然として大きい。〔図 12〕

図 1 2 男女別「家事」の時間の推移（2001 年～2021 年）一週全体



- ・ 「家事」の時間は、「35～64歳」において男性は増加、女性は減少

年齢階級別にみると、男性は「75歳以上」が55分と最も長く、女性は「65～74歳」が3時間49分と最も長くなっており、特に「75歳以上」の男性の「家事」の時間は全国で5番目に長い。また、2016年と比べると、「35～64歳」においては、男性は10分以上増加し、女性は減少している。〔図13、表8〕

図13 男女別、年齢階級別「家事」の時間（2021年）一週全体

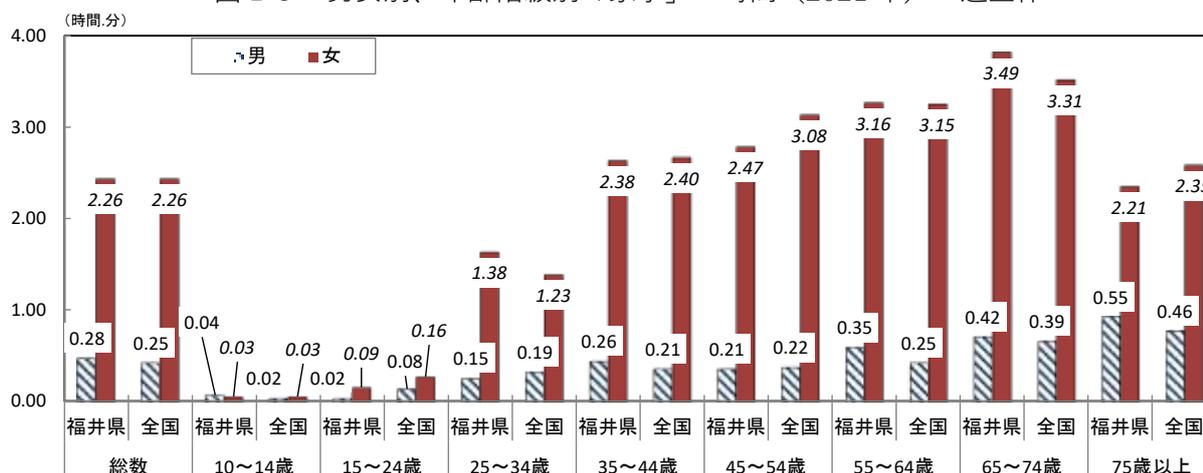


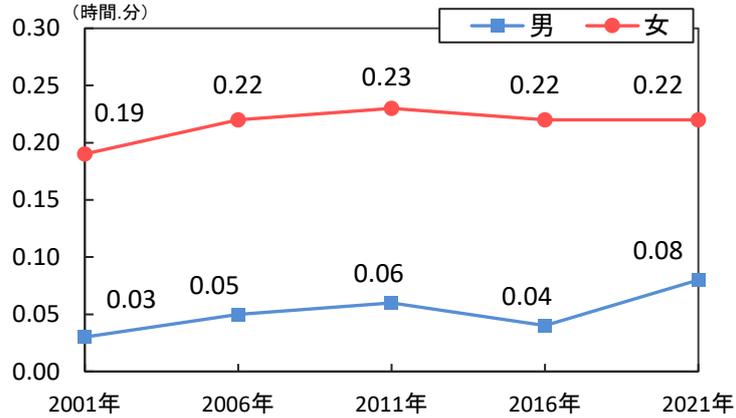
表8 男女別、年齢階級別「家事」の時間（2021年）一週全体

年齢階級	福井県				全国			
	男		女		男		女	
	2016からの増減		2016からの増減		2016からの増減		2016からの増減	
総数	0.28	0.06	2.26	0.02	0.25	0.06	2.26	0.02
10～14歳	0.04	0.00	0.03	0.00	0.02	0.00	0.03	▲ 0.01
15～24歳	0.02	▲ 0.03	0.09	0.00	0.08	0.02	0.16	0.02
25～34歳	0.15	0.05	1.38	0.12	0.19	0.08	1.23	▲ 0.08
35～44歳	0.26	0.10	2.38	▲ 0.11	0.21	0.08	2.40	▲ 0.08
45～54歳	0.21	0.10	2.47	▲ 0.17	0.22	0.08	3.08	▲ 0.01
55～64歳	0.35	0.13	3.16	▲ 0.09	0.25	0.04	3.15	0.01
65～74歳	0.42	0.04	3.49	0.24	0.39	0.06	3.31	0.13
75歳以上	0.55	▲ 0.02	2.21	0.05	0.46	0.05	2.35	0.10

- ・ 5年前に比べ、男性の「育児」の時間が4分増加し8分、女性は22分で横ばい

家事関連時間のうち「育児」の時間について、過去20年間の推移を男女別にみると、男性は前回調査の2016年は減少に転じたものの全体としては増加傾向、女性は増加傾向ではあるが、2016年以降では変化していない。〔図14〕

図14 男女別「育児」の時間の推移（2001年～2021年）一週全体



- ・ 「35～44歳」の男性の「育児」の時間が全国4位、「55～64歳」の女性の「育児」時間が全国4位

年齢階級別にみると、男女とも「25～44歳」の「育児」の時間が突出して長く、「25～34歳」は男性が28分、女性が1時間35分と最も長くなっている。また、全国との比較では、「35～44歳」の男性の「育児」の時間が26分と全国より7分長く、全国4位、「55～64歳」の女性の「育児」の時間が8分と全国より4分長く、全国第4位となった。〔図15、表9〕

図15 男女別、年齢階級別「育児」の時間（2021年）一週全体

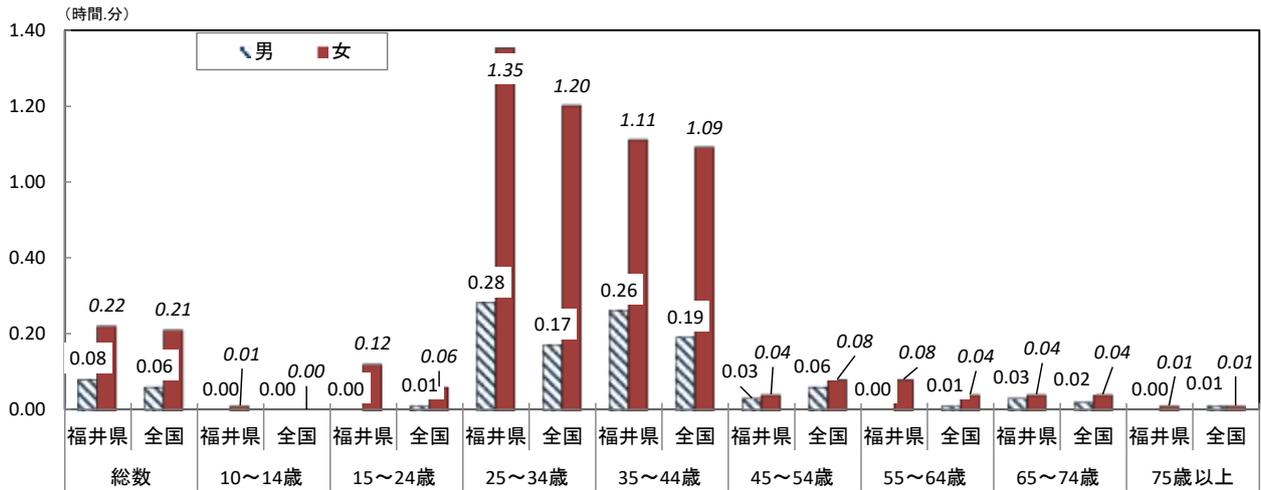


表9 男女別、年齢階級別「育児」の時間（2021年）一週全体

年齢階級	福井県				全国			
	男		女		男		女	
	2016からの増減	2021	2016からの増減	2021	2016からの増減	2021	2016からの増減	2021
総数	0.08	0.04	0.22	0.00	0.06	0.00	0.21	▲ 0.03
10～14歳	-	-	0.01	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
15～24歳	0.00	0.00	0.12	0.11	0.01	0.00	0.06	▲ 0.01
25～34歳	0.28	0.14	1.35	0.11	0.17	0.03	1.20	▲ 0.10
35～44歳	0.26	0.15	1.11	0.09	0.19	0.03	1.09	0.02
45～54歳	0.03	0.01	0.04	▲ 0.01	0.06	0.02	0.08	0.00
55～64歳	0.00	▲ 0.02	0.08	▲ 0.10	0.01	▲ 0.01	0.04	▲ 0.03
65～74歳	0.03	0.02	0.04	▲ 0.05	0.02	▲ 0.01	0.04	▲ 0.02
75歳以上	-	-	0.01	0.00	0.01	0.00	0.01	0.00

・ 5年前に比べて女性の「介護・看護」の時間は5分減少し3分、男性は2分で横ばい

家事関連時間のうち「介護・看護」の時間について、過去20年間の推移を男女別にみると、2011年までは男女とも横ばいであったが、女性は2016年に増加、2021年に減少となった。〔図16〕

年齢階級別にみると、2016年に比べ、男女ともに65～74歳のみ増加となっている。〔図17、表10〕

図16 「介護・看護」の時間の推移（2001年～2021年）一週全体

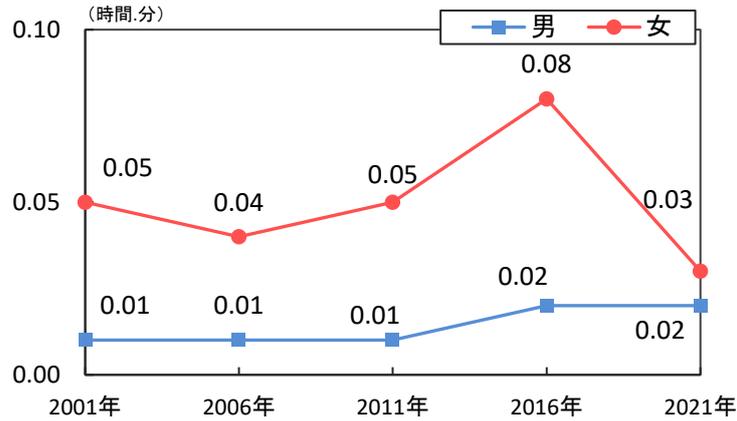


図17 男女別、年齢階級別「介護・看護」の時間（2016年、2021年）一週全体

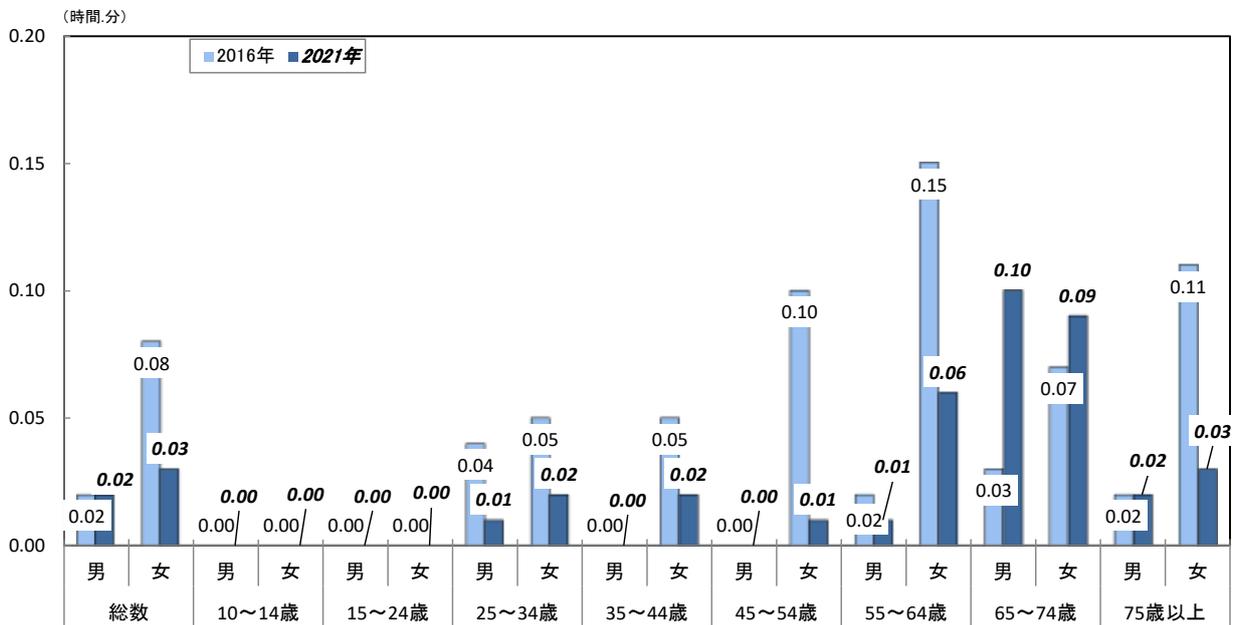


表10 男女別、年齢階級別「介護・看護」の時間（2016年、2021年）一週全体

(時間.分)

年齢階級	男			女		
	2016年	2021年	増減	2016年	2021年	増減
総数	0.02	0.02	0.00	0.08	0.03	▲ 0.05
10～14歳	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
15～24歳	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
25～34歳	0.04	0.01	▲ 0.03	0.05	0.02	▲ 0.03
35～44歳	0.00	0.00	0.00	0.05	0.02	▲ 0.03
45～54歳	0.00	0.00	0.00	0.10	0.01	▲ 0.09
55～64歳	0.02	0.01	▲ 0.01	0.15	0.06	▲ 0.09
65～74歳	0.03	0.10	0.07	0.07	0.09	0.02
75歳以上	0.02	0.02	0.00	0.11	0.03	▲ 0.08

・ ふだん家族を介護している人は前回調査と比べ4千人増加し、約5割が60歳以上

15歳以上でふだん家族を介護している人（以下「介護者」という。）は4万1千人となり、2016年と比べ4千人増加した。男女別にみると、男性が1万9千人、女性が2万1千人となっており、5年前に比べて、男性が5千人増加し、女性は2千人減少となっている。また、年齢階級別にみると、60歳以上の介護者が1万9千人となり、介護者全体の約5割を占めている。

介護者のうち、調査当日に実際に介護・看護を行った人の平均時間（行動者平均時間）は、男性が2時間5分、女性が2時間52分となり、5年前と比べ、男性が1分減少、女性は変わらなかった。〔表11〕

表11 男女別、年齢階級別介護者数および行動者平均時間（2016年、2021年）一週全体、15歳以上

	介護者数									行動者平均時間			
	2016年			2021年			増減			2016年	2021年	増減	
	実数 (千人)	人口比 (%)	構成比 (%)	実数 (千人)	人口比 (%)	構成比 (%)	実数 (千人)	人口比 (ポイント)	構成比 (ポイント)	(時間.分)	(時間.分)	(時間.分)	
総数	37	5.6	100.0	41	6.4	100.0	4	0.8	0.0	2.50	2.20	▲ 0.30	
40～49歳	2	1.9	5.4	4	3.9	9.8	2	2.0	4.4	7.03	1.18	▲ 5.45	
50～59歳	11	11.6	29.7	13	13.4	31.7	2	1.8	2.0	1.59	2.27	0.28	
60～69歳	14	11.9	37.8	11	11.2	26.8	▲ 3	▲ 0.6	▲ 11.0	3.06	3.56	0.50	
70歳以上	8	5.6	21.6	8	4.8	19.5	0	▲ 0.7	▲ 2.1	3.33	1.57	▲ 1.36	
男	14	4.4	37.8	19	6.1	46.3	5	1.7	8.5	2.06	2.05	▲ 0.01	
40～49歳	...	...	...	2	4	...	...	...	...	...	...	...	
50～59歳	3	6.4	8.1	6	12.2	14.6	3	5.9	6.5	1.17	2.23	1.06	
60～69歳	6	10.3	16.2	6	12.8	14.6	0	2.4	▲ 1.6	2.45	2.29	▲ 0.16	
70歳以上	3	4.9	8.1	3	4.2	7.3	0	▲ 0.8	▲ 0.8	1.21	2.15	0.54	
女	23	6.8	62.2	21	6.4	51.2	▲ 2	▲ 0.4	▲ 10.9	2.52	2.52	0.00	
40～49歳	2	3.8	5.4	2	4.0	4.9	0	0.2	▲ 0.5	7.03	2.34	▲ 4.29	
50～59歳	7	14.6	18.9	7	14.3	17.1	0	▲ 0.3	▲ 1.8	2.06	2.27	0.21	
60～69歳	8	13.3	21.6	5	10.0	12.2	▲ 3	▲ 3.3	▲ 9.4	2.54	3.49	0.55	
70歳以上	5	6.0	13.5	5	5.3	12.2	0	▲ 0.6	▲ 1.3	4.36	1.39	▲ 2.57	

## 4 3次活動

### (1) テレビ・ラジオ・新聞・雑誌

・ 「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」の時間は5年前に比べて増加したものの減少傾向

「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」の時間は2時間4分となり、2016年より2分増加したものの、過去20年間の推移をみると、全国と同様に減少傾向となっており、2001年に比べ13分減少している。〔図18〕

男女別にみると、男性が女性より長く、過去20年間、同様な傾向となっている。〔図19〕

図18 「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」の時間の推移（2001年～2021年）一週全体

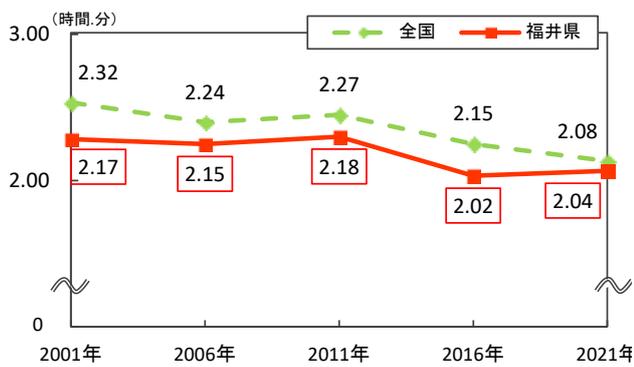
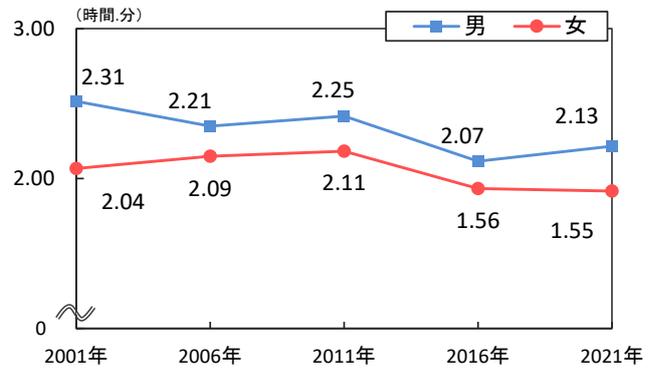


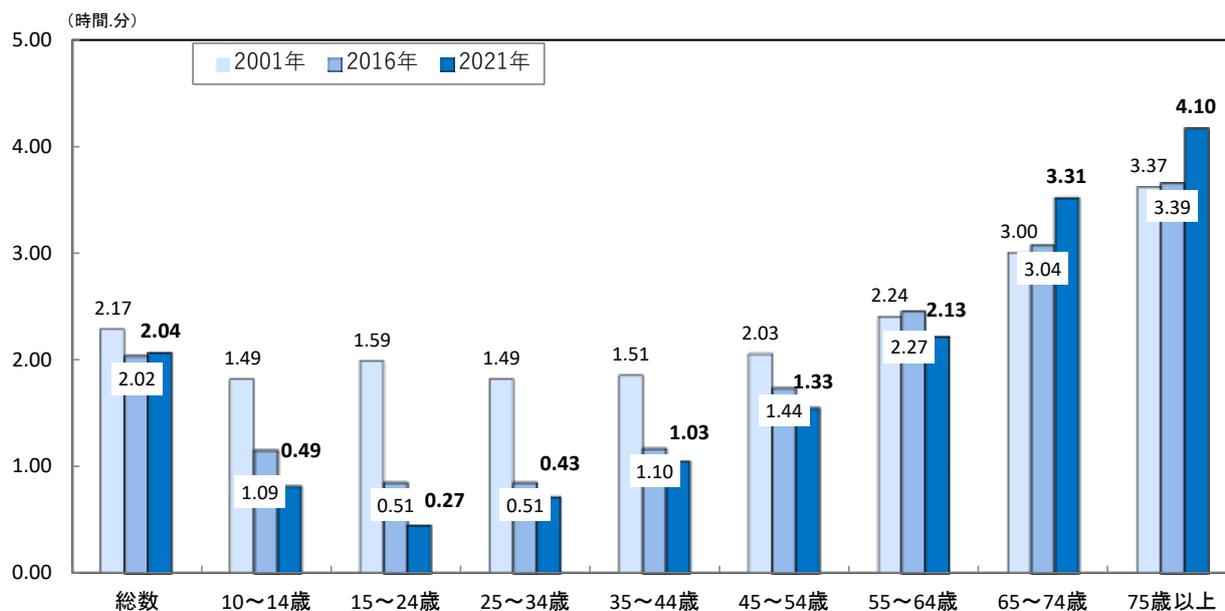
図19 男女別「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」の時間の推移（2001年～2021年）一週全体



・ 過去 20 年間に於いて、「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」の時間は 55 歳未満で減少

年齢階級別に比較可能な 2001 年からの推移をみると、20 年前（2001 年）および 5 年前（2016 年）と比べ、「10 歳～54 歳」の年齢階級において年々減少している。特に「10～34 歳」は、2001 年に比べ約 1 時間以上減少している。一方、「55～64 歳」は変動が少なく、65 歳以上では増加傾向にあり、若年層と高齢層の差が拡大している。〔図 20〕

図 20 年齢階級別「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」の時間の推移  
（2001 年、2016 年、2021 年）一週全体



## (2) 休養・くつろぎ

- ・ 「休養・くつろぎ」の時間は増加傾向

「休養・くつろぎ」の時間は1時間55分となり、2016年より17分増加している。過去20年間の推移をみると、全国と同様に増加傾向となっており、2001年に比べ36分増加している。

〔図 21〕

男女別にみると、2011年までは女性が男性より長くなっていたが、2016年以降は男性が女性より長くなっている。〔図 22〕

図 2 1 「休養・くつろぎ」の時間の推移  
(2001年～2021年) 一週全体

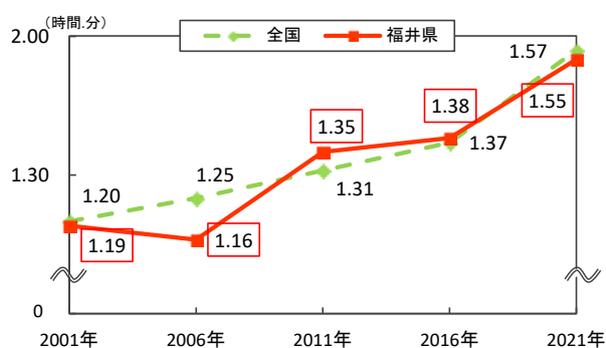
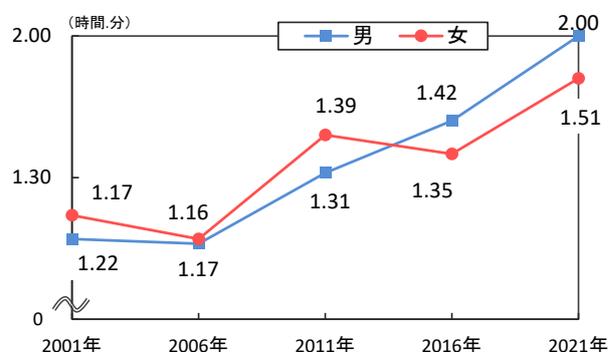


図 2 2 男女別「休養・くつろぎ」の時間の推移  
(2001年～2021年) 一週全体

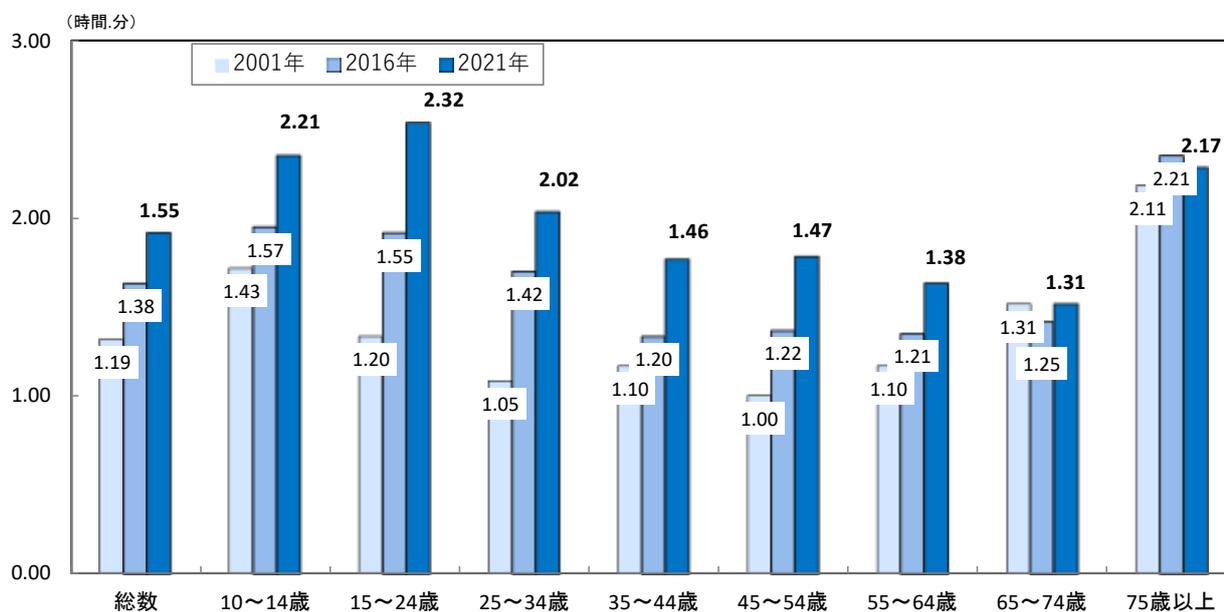


- ・ 過去20年間に於いて、「休養・くつろぎ」の時間は65歳未満が増加傾向

年齢階級別に比較可能な2001年からの推移をみると、20年前(2001年)および5年前(2016年)と比べ、65歳未満のすべての年齢階級において年々増加している傾向がみられる。

〔図 23〕

図 2 3 年齢階級別「休養・くつろぎ」の時間の推移 (2001年、2016年、2021年) 一週全体



### (3) スポーツ

- ・ 「スポーツ」の時間は5年前より減少している

「スポーツ」の時間は11分となり、2016年より4分減少しており、20年前と同時間となった。

〔図24〕

男女別にみると、男性が女性を上回っており、2021年は男性が女性より7分長い。〔図25〕

図24 「スポーツ」の時間の推移  
(2001年～2021年) 一週全体

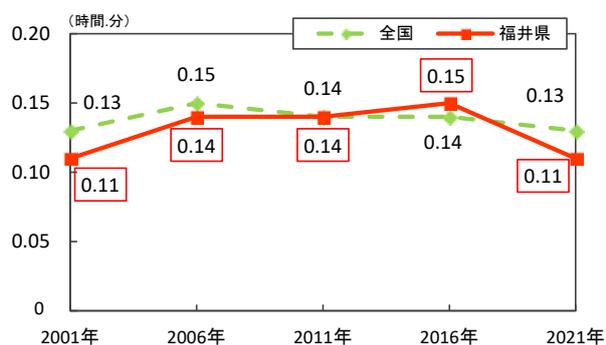
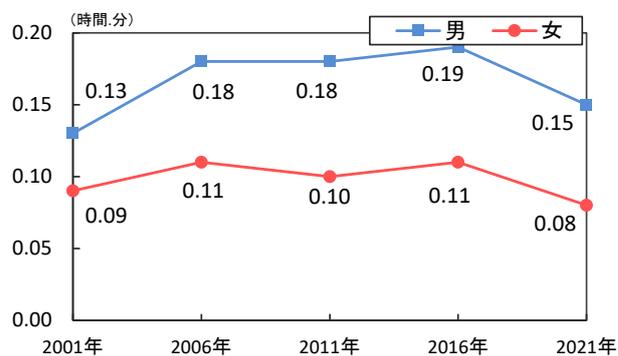


図25 男女別「スポーツ」の時間の推移  
(2001年～2021年) 一週全体



年齢階級別にみると、男女とも「10～14歳」が最も長く、男性は「25～34歳」、女性は「25～44歳」が最も短くなっている。全国と比較すると、男女ともに24歳以下では全国を上回っているが、25歳以上では全国と同時間もしくは下回っている。〔図26、表12〕

図26 男女別、年齢階級別「スポーツ」の時間（2021年）一週全体

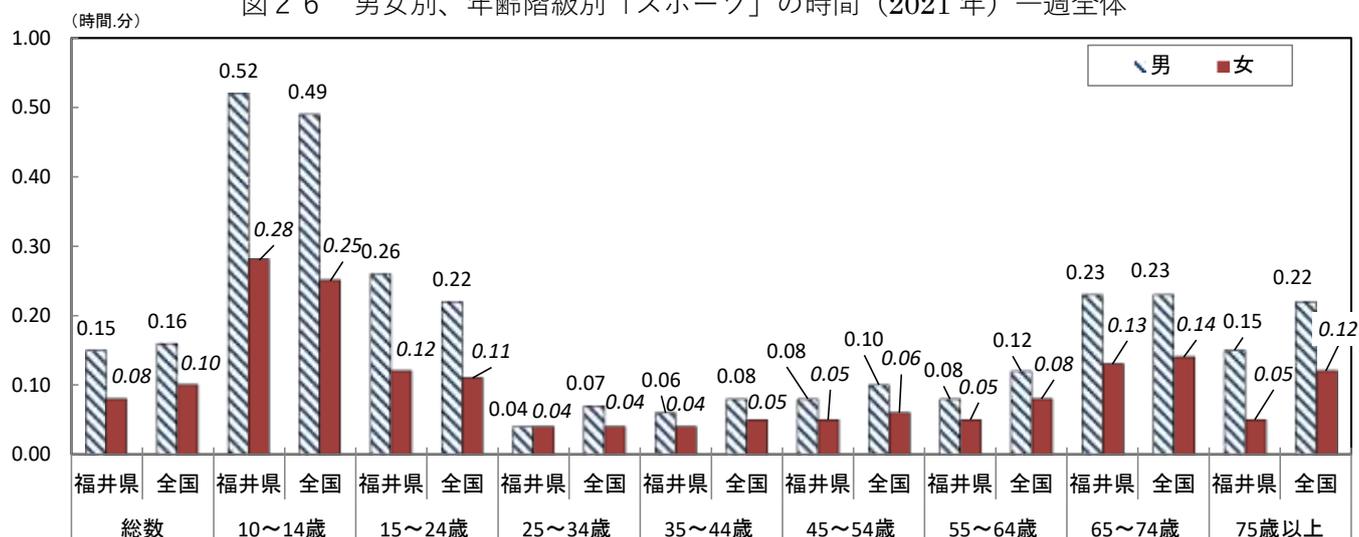


表12 男女別、年齢階級別「スポーツ」の時間（2021年）一週全体

(時間.分)

年齢階級	福井県				全国			
	男		女		男		女	
	2016からの増減		2016からの増減		2016からの増減		2016からの増減	
総数	0.15	▲ 0.04	0.08	▲ 0.03	0.16	▲ 0.02	0.10	0.00
10～14歳	0.52	▲ 0.13	0.28	▲ 0.19	0.49	▲ 0.16	0.25	▲ 0.13
15～24歳	0.26	0.02	0.12	▲ 0.01	0.22	▲ 0.07	0.11	▲ 0.02
25～34歳	0.04	▲ 0.04	0.04	0.00	0.07	0.00	0.04	0.00
35～44歳	0.06	▲ 0.05	0.04	▲ 0.01	0.08	▲ 0.01	0.05	0.00
45～54歳	0.08	▲ 0.07	0.05	0.01	0.10	0.00	0.06	▲ 0.01
55～64歳	0.08	▲ 0.02	0.05	▲ 0.05	0.12	▲ 0.01	0.08	▲ 0.01
65～74歳	0.23	0.01	0.13	▲ 0.03	0.23	▲ 0.02	0.14	▲ 0.02
75歳以上	0.15	▲ 0.13	0.05	▲ 0.05	0.22	0.02	0.12	0.02

(4) ボランティア活動・社会参加活動

・ 「ボランティア活動・社会参加活動」の時間は5年前と比べて減少している。

「ボランティア活動・社会参加活動」の時間は2分となり、全国と同じとなった。2016年と比べると4分減少している。〔図27〕

男女別にみると、男性が3分、女性が2分と男性が女性より1分長くなっている。〔図28〕

図27 「ボランティア活動・社会参加活動」の時間の推移（2001年～2021年）一週全体

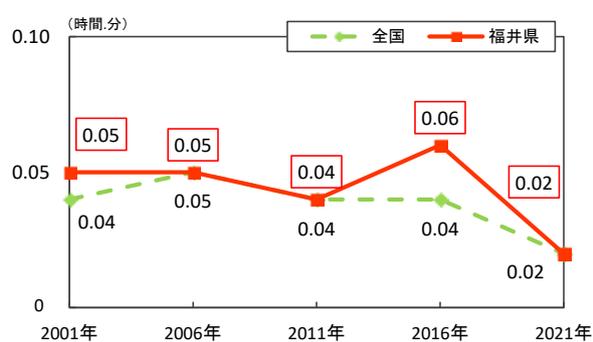
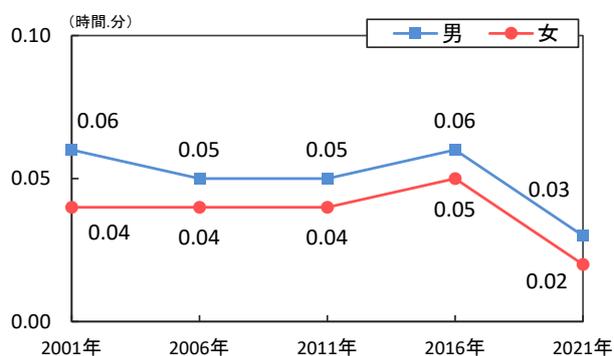


図28 男女別「ボランティア活動・社会参加活動」の時間の推移（2001年～2021年）一週全体



年齢階級別にみると、男性は「25～34歳」および「65～74歳」、女性は「65～74歳」が最も長くなっている。2016年に比べ増加が大きいのは、男性は「25～34歳」で5分の増加、女性は「45～54歳」で2分の増加となっている。特に「45～54歳」の女性は、全国より2分長く全国第2位となっている。〔図29、表13〕

図29 男女別、年齢階級別「ボランティア活動・社会参加活動」の時間（2021年）一週全体

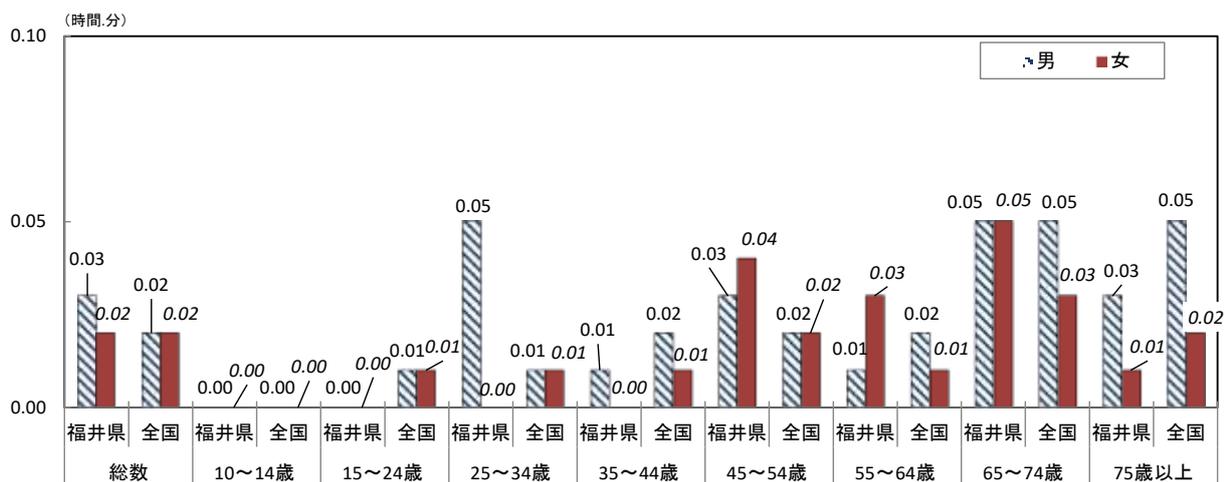


表13 男女別、年齢階級別「ボランティア活動・社会参加活動」の時間（2021年）一週全体

(時間.分)

年齢階級	福井県				全国			
	男		女		男		女	
	2016からの増減							
総数	0.03	▲ 0.03	0.02	▲ 0.03	0.02	▲ 0.02	0.02	▲ 0.02
10～14歳	0.00	▲ 0.03	0.00	▲ 0.02	0.00	▲ 0.02	0.00	▲ 0.03
15～24歳	-	-	0.00	▲ 0.02	0.01	▲ 0.01	0.01	▲ 0.01
25～34歳	0.05	0.05	0.00	▲ 0.02	0.01	▲ 0.01	0.01	▲ 0.01
35～44歳	0.01	▲ 0.08	0.00	▲ 0.05	0.02	▲ 0.01	0.01	▲ 0.03
45～54歳	0.03	▲ 0.03	0.04	0.02	0.02	▲ 0.01	0.02	▲ 0.02
55～64歳	0.01	▲ 0.06	0.03	▲ 0.02	0.02	▲ 0.03	0.01	▲ 0.05
65～74歳	0.05	▲ 0.10	0.05	▲ 0.10	0.05	▲ 0.04	0.03	▲ 0.04
75歳以上	0.03	▲ 0.02	0.01	▲ 0.04	0.05	▲ 0.02	0.02	▲ 0.01

## 5 夫と妻の生活時間

### (1) 6歳未満の子供がいる世帯（夫婦と子供の世帯）

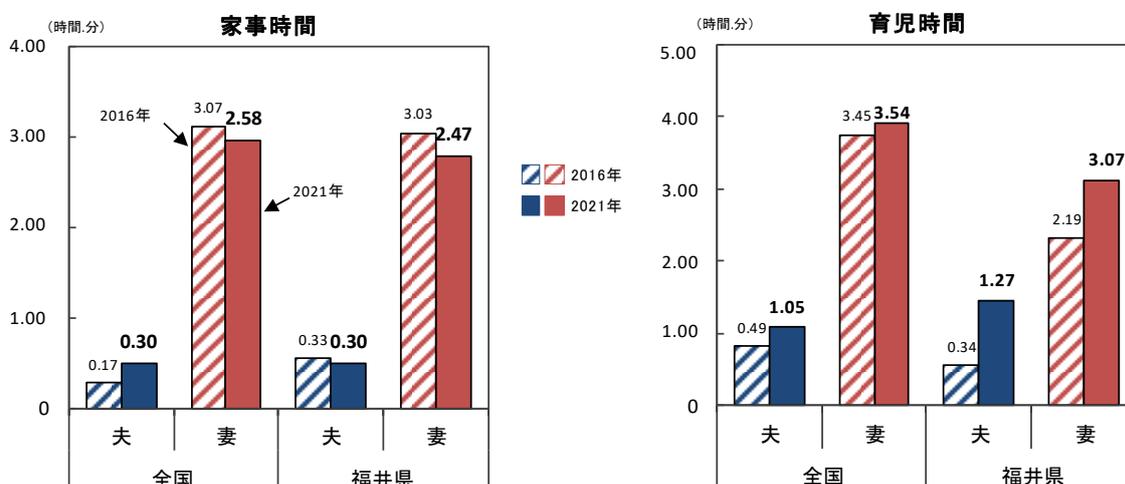
・ 6歳未満の子供がいる世帯の夫の「育児」の時間が全国第4位

子供がいる世帯のうち、6歳未満の子供がいる世帯について、夫と妻の家事関連時間をみると、2016年に比べ、夫の「家事」の時間は3分減少し30分となったものの、「育児」の時間は53分増加し1時間27分となっている。妻の「家事」の時間は16分減少し2時間47分、「育児」の時間は48分増加し3時間7分となっている。全国と比較すると、夫の「育児」の時間が全国より22分長く、全国第4位となっている。〔表14、図30〕

表14 6歳未満の子供を持つ夫・妻の家事関連時間（2016年、2021年）  
一週全体、夫婦と子供の世帯

		福井県			全国			全国との比較	
		2016年	2021年	増減	2016年	2021年	増減	2016年	2021年
夫	家事関連	1.21	2.17	0.56	1.23	1.54	0.31	▲0.02	0.23
	家事	0.33	0.30	▲0.03	0.17	0.30	0.13	0.16	0.00
	介護・看護	0.02	0.02	0.00	0.01	0.01	0.00	0.01	0.01
	育児	0.34	1.27	0.53	0.49	1.05	0.16	▲0.15	0.22
	買い物	0.12	0.18	0.06	0.16	0.18	0.02	▲0.04	0.00
妻	家事関連	6.04	6.24	0.20	7.34	7.28	▲0.06	▲1.30	▲1.04
	家事	3.03	2.47	▲0.16	3.07	2.58	▲0.09	▲0.04	▲0.11
	介護・看護	0.10	0.04	▲0.06	0.06	0.03	▲0.03	0.04	0.01
	育児	2.19	3.07	0.48	3.45	3.54	0.09	▲1.26	▲0.47
	買い物	0.32	0.26	▲0.06	0.36	0.33	▲0.03	▲0.04	▲0.07

図30 6歳未満の子供を持つ夫・妻の「家事」の時間および「育児」の時間（2016年、2021年）  
一週全体、夫婦と子供の世帯



## (2) 共働き世帯

- ・ 子供のいる共働き世帯の夫の家事関連時間が増加傾向

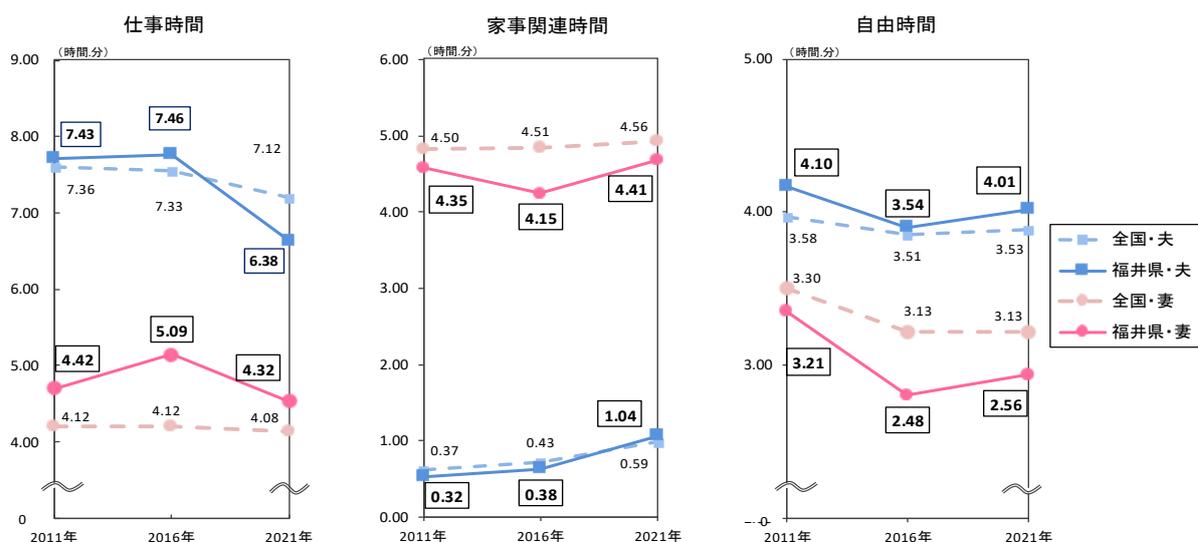
子供のいる世帯のうち、共働き世帯について、夫と妻の生活時間をみると、夫・妻ともに2016年に比べ、家事関連時間が26分増加、自由時間<sup>1)</sup>は夫が7分、妻が8分増加している。過去10年間の推移をみると、夫の家事関連時間は全国と同様に増加傾向となっている。

夫婦の差をみると、「仕事」の時間は夫が妻より2時間6分長く、家事関連時間は妻が夫より3時間37分長くなっている。2016年に比べ「仕事」時間の差は約30分縮小しているが、依然として「仕事」時間の差以上に家事関連時間の差が大きい。〔表15、図31〕

表15 共働き世帯の夫・妻の行動の種類別生活時間（2016年、2021年）  
一週全体、子供のいる世帯の夫・妻

		福井県			全国			全国との比較	
		2016年	2021年	増減	2016年	2021年	増減	2016年	2021年
夫	仕事	7.46	6.38	▲ 1.08	7.33	7.12	▲ 0.21	0.13	▲ 0.34
	家事関連	0.38	1.04	▲ 0.26	0.43	0.59	0.16	▲ 0.05	0.05
	うち 家事	0.15	0.28	0.13	0.14	0.23	0.09	0.01	0.05
	育児	0.09	0.21	0.12	0.14	0.19	0.05	▲ 0.05	0.02
	自由時間	3.54	4.01	0.07	3.51	3.53	0.02	0.03	0.08
妻	仕事	5.09	4.32	▲ 0.37	4.12	4.08	▲ 0.04	0.57	0.24
	家事関連	4.15	4.41	0.26	4.51	4.56	0.05	▲ 0.36	▲ 0.15
	うち 家事	2.58	3.05	0.07	3.16	3.15	▲ 0.01	▲ 0.18	▲ 0.10
	育児	0.37	1.01	0.24	0.53	1.01	0.08	▲ 0.16	0.00
	自由時間	2.48	2.56	0.08	3.13	3.13	0.00	▲ 0.25	▲ 0.17
夫婦差	仕事	2.37	2.06	▲ 0.31	3.21	3.04	▲ 0.17	▲ 0.23	▲ 0.58
	家事関連	▲ 3.37	▲ 3.37	0.00	▲ 4.07	▲ 3.57	▲ 0.11	▲ 0.10	▲ 0.20
	自由時間	1.06	1.05	▲ 0.01	0.21	0.40	0.02	0.21	0.25

図31 共働き世帯の夫・妻の行動の種類別生活時間の推移（2011年～2021年）  
一週全体、子供のいる世帯の夫・妻



1) 「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」、「休養・くつろぎ」、「学習・自己啓発・訓練（学業以外）」、「趣味・娯楽」、「スポーツ」および「ボランティア活動・社会参加活動」

## 6 高齢者の生活時間

・ 高齢者の「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」の時間が男女ともに増加

65歳以上の高齢者の生活時間について、2016年と比べると、「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」の時間が29分の増加と最も大きく増加しており、「交際・付き合い」の時間が12分の減少と最も大きく減少している。また、「趣味・娯楽」の時間が9分の減少、「ボランティア活動・社会参加活動」の時間が7分の減少などとなっている。男女別にみると、2016年に比べ、男女とも「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」の時間が最も大きく増加しており、男性は「趣味・娯楽」の時間が18分の減少、女性は「交際・付き合い」の時間が14分の減少と最も大きく減少している。〔表16〕

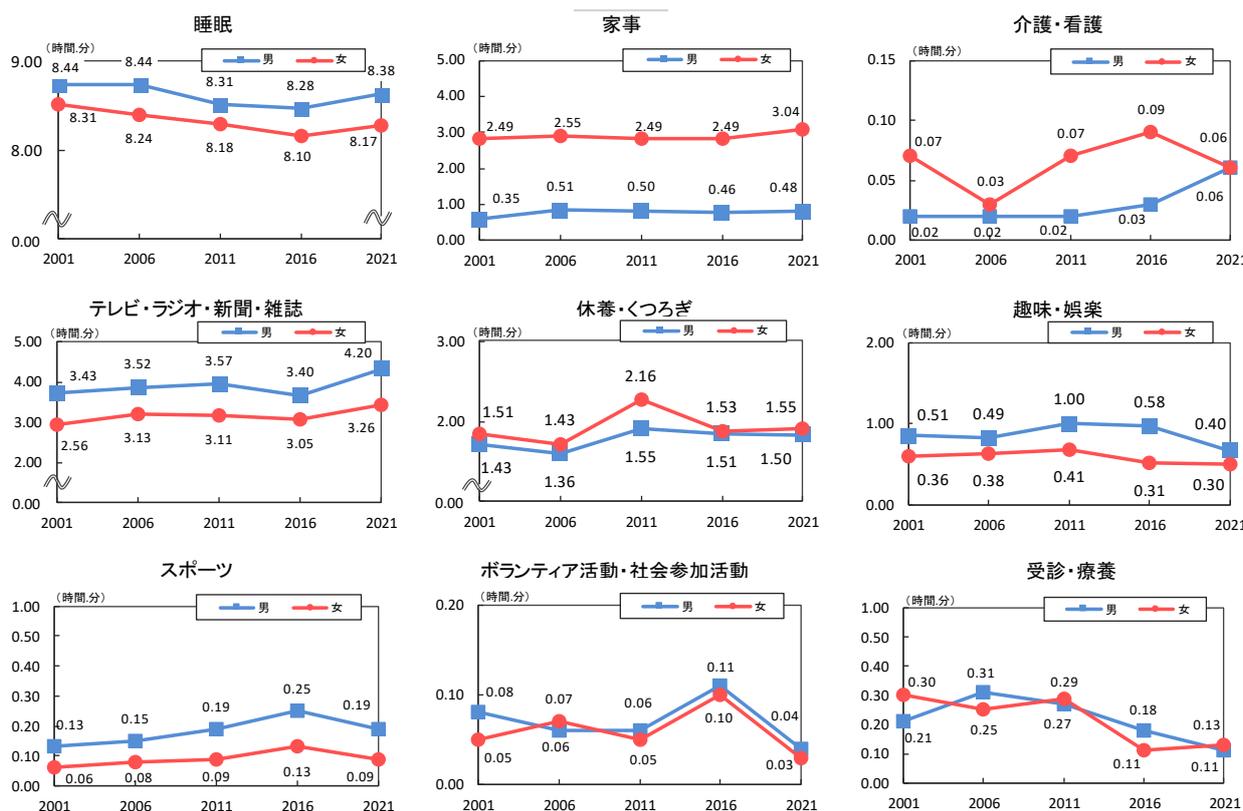
また、主な行動の種類について、過去20年間の推移をみると、「受診・療養」の時間が減少傾向となっており、一方、「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」の時間が増加傾向となっている。〔図32〕

表16 65歳以上の男女別、行動の種類別生活時間（2016年、2021年）一週全体

(時間, 分)

	総数			男			女		
	2016年	2021年	増減	2016年	2021年	増減	2016年	2021年	増減
<b>1次活動</b>	11.49	11.56	0.07	11.48	11.58	0.10	11.49	11.55	0.06
睡眠	8.18	8.27	0.09	8.28	8.38	0.10	8.10	8.17	0.07
身の回りの用事	1.33	1.30	▲0.03	1.21	1.22	0.01	1.42	1.36	▲0.06
食事	1.58	1.59	0.01	2.00	1.57	▲0.03	1.57	2.01	0.04
<b>2次活動</b>	4.12	4.21	0.09	3.30	3.42	0.12	4.45	4.53	0.08
通勤・通学	0.06	0.09	0.03	0.08	0.12	0.04	0.05	0.06	0.01
仕事	1.33	1.34	0.01	2.09	2.13	0.04	1.05	1.02	▲0.03
学業	0.01	0.01	0.00	0.01	0.00	▲0.01	0.01	0.01	0.00
家事関連	2.31	2.38	0.07	1.14	1.17	0.03	3.35	3.44	0.09
家事	1.54	2.03	0.09	0.46	0.48	0.02	2.49	3.04	0.15
介護・看護	0.06	0.06	0.00	0.03	0.06	0.03	0.09	0.06	▲0.03
育児	0.03	0.02	▲0.01	0.02	0.02	0.00	0.05	0.02	▲0.03
買い物	0.28	0.27	▲0.01	0.23	0.21	▲0.02	0.32	0.32	0.00
<b>3次活動</b>	7.59	7.43	▲0.16	8.41	8.21	▲0.20	7.26	7.12	▲0.14
移動(通勤・通学を除く)	0.23	0.15	▲0.08	0.25	0.16	▲0.09	0.22	0.15	▲0.07
テレビ・ラジオ・新聞・雑誌	3.21	3.50	0.29	3.40	4.20	0.40	3.05	3.26	0.21
休養・くつろぎ	1.52	1.53	0.01	1.51	1.50	▲0.01	1.53	1.55	0.02
学習・自己啓発・訓練(学業以外)	0.08	0.07	▲0.01	0.10	0.10	0.00	0.07	0.05	▲0.02
趣味・娯楽	0.43	0.34	▲0.09	0.58	0.40	▲0.18	0.31	0.30	▲0.01
スポーツ	0.18	0.14	▲0.04	0.25	0.19	▲0.06	0.13	0.09	▲0.04
ボランティア活動・社会参加活動	0.10	0.03	▲0.07	0.11	0.04	▲0.07	0.10	0.03	▲0.07
交際・付き合い	0.21	0.09	▲0.12	0.17	0.07	▲0.10	0.25	0.11	▲0.14
受診・療養	0.14	0.12	▲0.02	0.18	0.11	▲0.07	0.11	0.13	0.02
その他	0.27	0.25	▲0.02	0.26	0.23	▲0.03	0.29	0.27	▲0.02

図 3 2 65 歳以上の男女別、主な行動の種類別生活時間の推移 (2001 年～2021 年) 一週全体



- ・ 高齢者の有業率が上昇
- ・ 高齢者女性の「仕事」の時間が全国を上回る

65 歳以上の高齢者の有業者数は 7 万 4 千人、有業率は 34.3% となり、2016 年と比べると、有業者数は 4 千人増加し、有業率は 0.8 ポイント上昇した。男女別に 2016 年と比べると、有業率は男性が 1.8 ポイント、女性が 0.2 ポイント上昇している。〔表 17〕

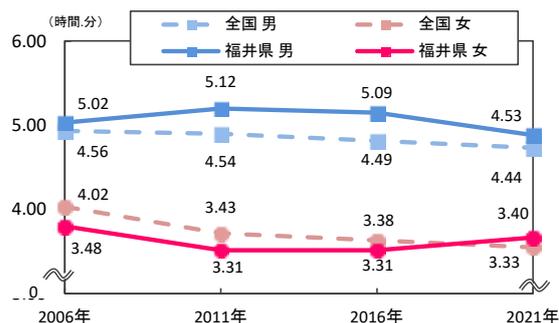
また、65 歳以上の有業者の「仕事」の時間を男女別にみると、男性が 4 時間 53 分、女性が 3 時間 40 分となり、2016 年に比べ男性の「仕事」の時間は減少し、女性の「仕事」の時間は増加している。15 年前の 2006 年からの推移をみると、男性は常に全国を上回っており、女性は 2021 年に初めて全国を上回った。〔図 33〕

表 1 7 65 歳以上の男女別有業者数および有業率 (2016 年、2021 年) 一週全体

		福井県			全国		
		2016年	2021年	増減	2016年	2021年	増減
有業者数 (千人)	総数	70	74	4	9,071	9,877	806
	男	39	42	3	5,350	5,796	446
	女	31	32	1	3,721	4,082	361
有業率 (%、増減は ポイント)	総数	33.5	34.3	0.8	28.7	29.7	1.0
	男	41.9	43.8	1.8	38.3	39.2	0.8
	女	26.5	26.7	0.2	21.0	22.1	1.0

※有業率・・・人口に占める有業者の割合(ふだんの就業状態不詳を除き算出)

図 3 6 65 歳以上の有業者の男女別「仕事」の時間の推移 (2006 年～2021 年) 一週全体

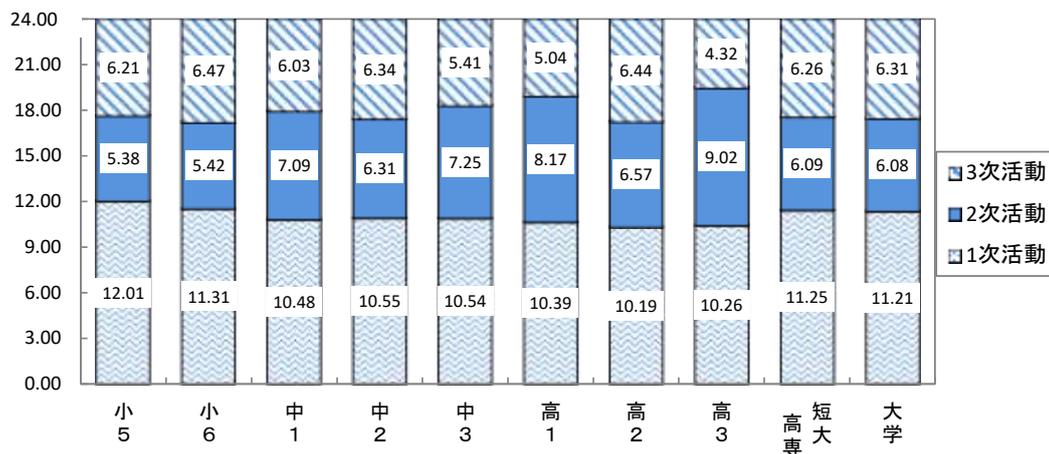


## 7 在学者の生活時間

・ 2次活動時間が最も長く、3次活動時間が最も短い高校3年生

在学者（10歳以上。以下同じ。）について、生活時間を在学する学校の種類・学年別にみると、1次活動時間は、小学5年生が12時間1分と最も長く、高校2年生が10時間19分と最も短くなっている。また、2次活動時間は、高校3年生が9時間2分と最も長く、小学生が5時間台と短くなっている。一方、3次活動時間は、小学生6年生が6時間47分と最も長く、高校3年生が4時間32分と最も短くなっている。小学生と中学2年生、短大・高専生、大学生においては、2次活動時間が3次活動時間より短い、中学1年生および中学3年、高校生においては、2次活動時間が3次活動時間より長くなっている。〔図34〕

図34 在学する学校の種類・学年別、行動の種類別生活時間（2021年）一週全体、在学者（時間、分）



・ 「学業」の時間は高校3年生が最も長い

在学者の「学業」の時間をみると、高校3年生が7時間28分と最も長く、次いで高校1年生が6時間53分などとなっている。全国と比較すると、中学生～高校生および大学生では全国を上回っている。〔図35〕

男女別にみると、男女ともに高校3年生が7時間20分台と最も長くなっている。小学6年生および中学3年生～高校1年生、大学生では女性が男性より長く、それ以外では男性が長くなっている。〔図36〕

図35 在学する学校の種類・学年別「学業」の時間（2021年）一週全体、在学者

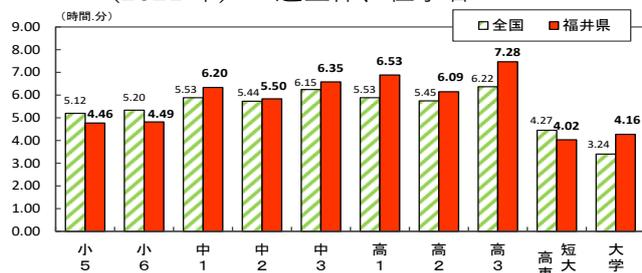
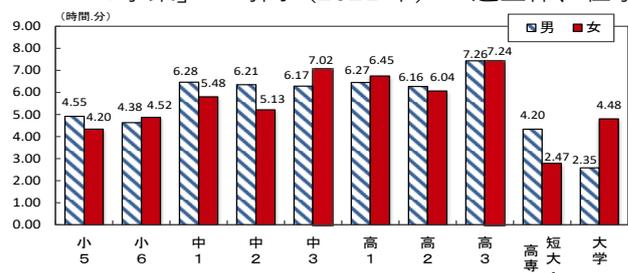


図36 在学する学校の種類・学年、男女別「学業」の時間（2021年）一週全体、在学者



## 8 スマートフォン・パソコンなどの使用状況

・ 60%以上の方がスマートフォン・パソコンなどを使用している

スマートフォン・パソコンなどを使用した人の割合<sup>1)</sup>（以下「使用割合」という。）は、男性が65.1%、女性が62.0%となっており、男女ともに全国より低い。

男女、年齢階級別にみると、男女ともに「20～24歳」が最も高く、男性は88.2%、女性は93.3%となっている。60歳代までは男女とも50%を超えており、10歳代～20歳代では女性の使用割合が男性より高く、60歳代以上では男性が高くなっている。〔図37、表18〕

図37 男女別、年齢階級別スマートフォン・パソコンなどの使用割合（2021年）一週全体

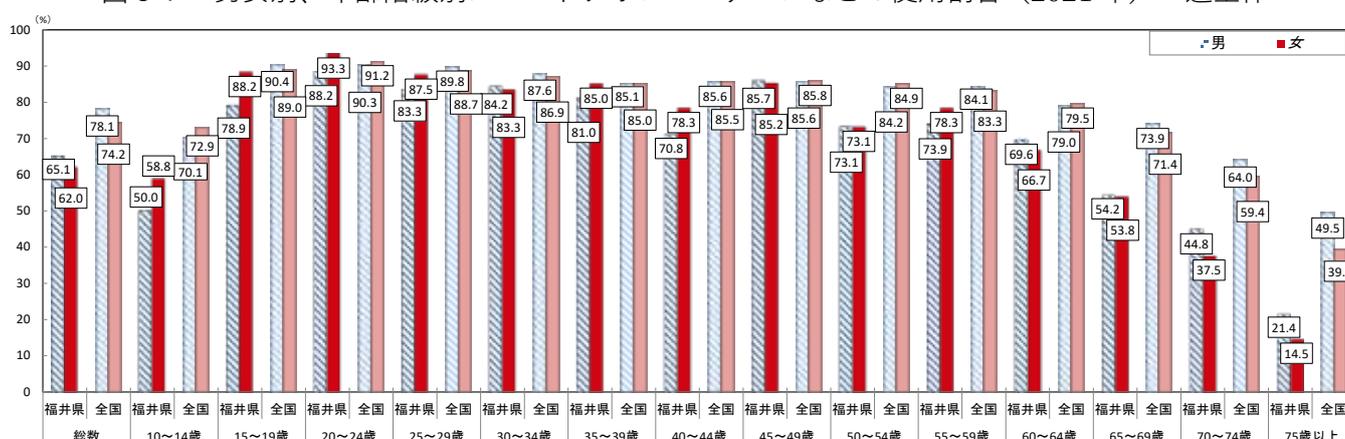


表18 男女別、年齢階級別スマートフォン・パソコンなどを使用した人の人数および割合（2021年）一週全体

	福井県						全国					
	男			女			男			女		
	人口 (千人)	使用した人 (千人)	使用割合 (%)									
総数	332	216	65.1	345	214	62.0	54,829	42,828	78.1	57,633	42,743	74.2
10～14歳	18	9	50.0	17	10	58.8	2,736	1,918	70.1	2,602	1,897	72.9
15～19歳	19	15	78.9	17	15	88.2	2,844	2,570	90.4	2,708	2,409	89.0
20～24歳	17	15	88.2	15	14	93.3	3,163	2,856	90.3	3,039	2,772	91.2
25～29歳	18	15	83.3	16	14	87.5	3,244	2,913	89.8	3,090	2,742	88.7
30～34歳	19	16	84.2	18	15	83.3	3,324	2,913	87.6	3,187	2,768	86.9
35～39歳	21	17	81.0	20	17	85.0	3,708	3,156	85.1	3,599	3,059	85.0
40～44歳	24	17	70.8	23	18	78.3	4,107	3,514	85.6	4,007	3,425	85.5
45～49歳	28	24	85.7	27	23	85.2	4,880	4,178	85.6	4,776	4,096	85.8
50～54歳	26	19	73.1	26	19	73.1	4,595	3,868	84.2	4,556	3,870	84.9
55～59歳	23	17	73.9	23	18	78.3	3,853	3,240	84.1	3,881	3,231	83.3
60～64歳	23	16	69.6	24	16	66.7	3,574	2,824	79.0	3,685	2,930	79.5
65～69歳	24	13	54.2	26	14	53.8	3,729	2,757	73.9	3,980	2,842	71.4
70～74歳	29	13	44.8	32	12	37.5	4,393	2,811	64.0	4,957	2,942	59.4
75歳以上	42	9	21.4	62	9	14.5	6,680	3,309	49.5	9,566	3,761	39.3

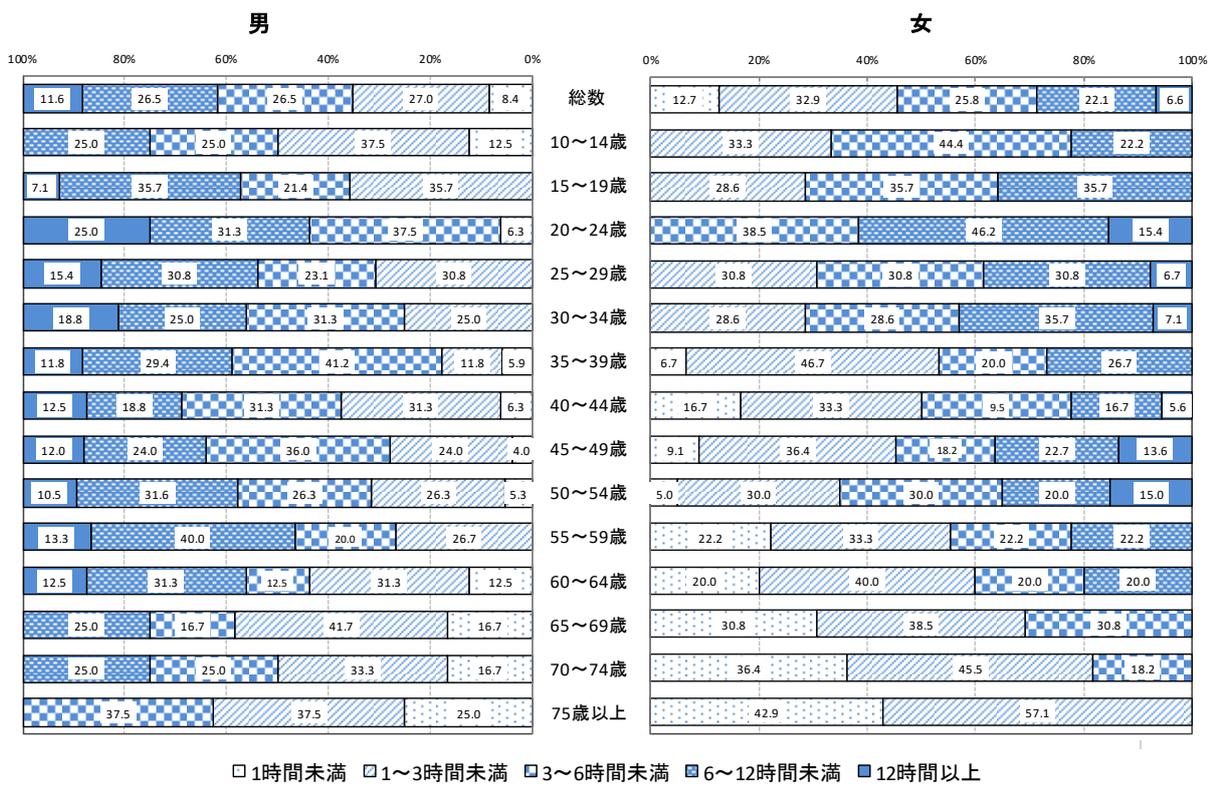
注) ここでいう「スマートフォン・パソコンなど」とは、スマートフォン・パソコンのほか、スマートフォン以外の携帯電話、タブレット型端末を含む。また、「スマートフォン・パソコンなどの使用」とは、学業、仕事以外の目的で使用した場合をいう。

1) スマートフォン・パソコンなどの使用割合は、人口に占めるスマートフォン・パソコンなどを使用した人の割合

・ スマートフォン・パソコンなどの使用時間は、「15～19 歳」および「20～24 歳」が長い傾向  
 スマートフォン・パソコンなどの使用時間についてみると、男女ともに 1～3 時間未満が最も高  
 くなっている。

年齢階級別にみると、「15～19 歳」および「20～24 歳」では、男女ともに 6 時間以上が 35% 以  
 上と使用時間が長い傾向がみられる。〔図 38〕

図 38 男女別、年齢階級別スマートフォン・パソコンなどの使用時間構成比（2021 年）  
 一週全体、スマートフォン・パソコンなどを使用した人

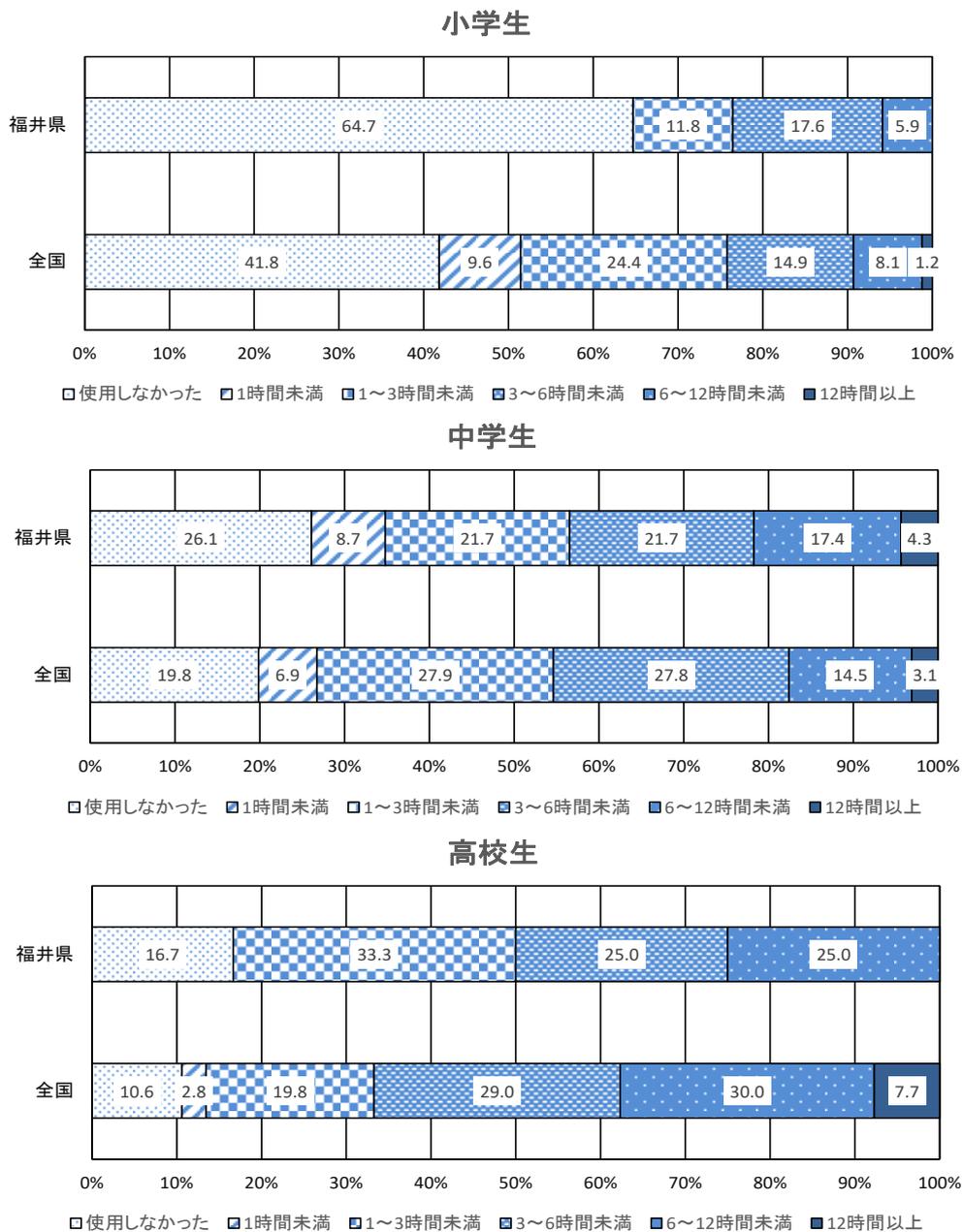


注) 使用時間別の構成比については、使用した人における割合（使用時間不詳を除く）

・ スマートフォン・パソコンなどを6時間以上使用する中学生は2割を超えている

在学者について、スマートフォン・パソコンなどの使用時間をみると、小学生および中学生は使用しなかった人が最も多く、高校生は「1～3時間未満」が33.3%と最も多くなっている。小学生、中学生、高校生のいずれも使用時間が3時間以上である者の割合が全国より小さい一方で、中学生では「6～12時間」および「12時間以上」使用するものの割合が全国より高く、2割を超えている。〔図39〕

図39 在学する学校の種類別スマートフォン・パソコンなどの使用時間構成比（2021年）  
一週全体、在学者

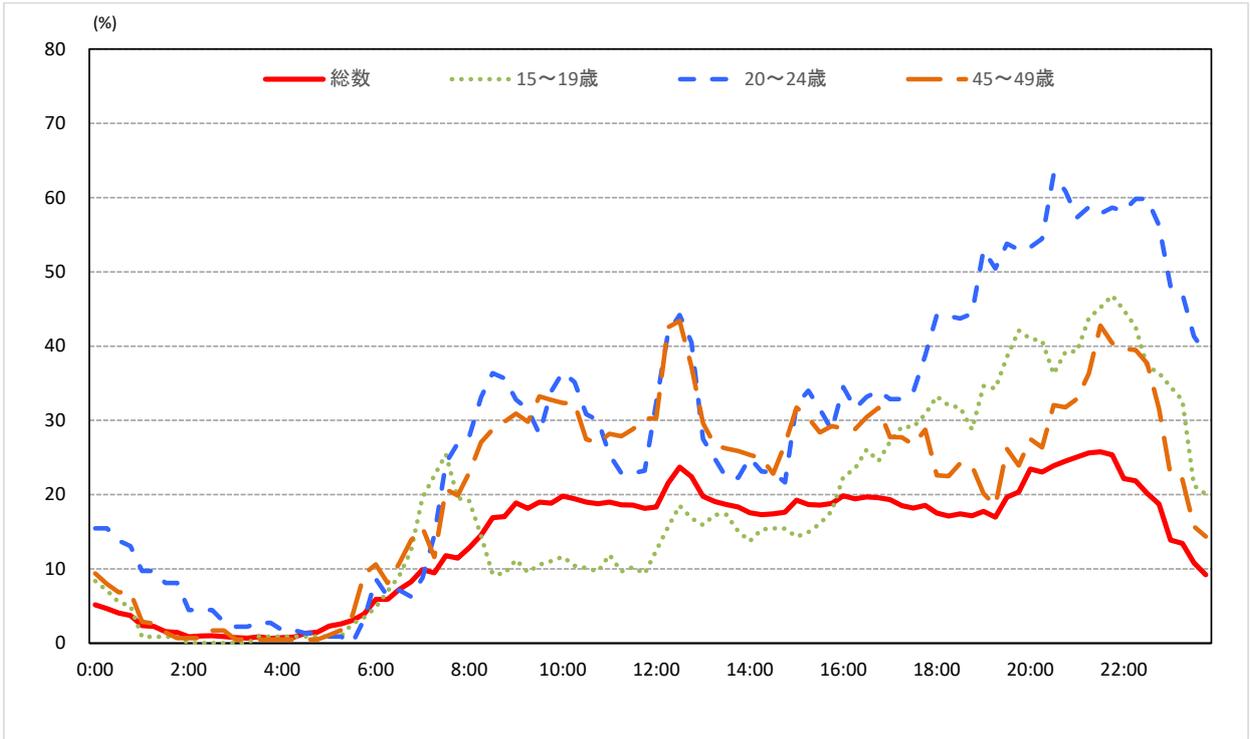


注) 使用時間別の構成比については、使用しなかった人と使用時間別の人数の合計における割合（使用時間不詳を除く）

・ スマートフォン・パソコンなどの使用は、主に 20～22 時の時間帯に行動者率が高い

スマートフォン・パソコンなどを使用した人のうち、使用割合が高かった「15～19 歳」、「20～24 歳」および「45～49 歳」について、年齢階級別に使用した時間帯別の行動者率<sup>1)</sup>をみると、「15～19 歳」は 21 時台、「20～24 歳」では 20 時台、「45～49 歳」は 12 時台の時間帯において行動者率が高く、「20～24 歳」は 20 時台前半の行動者率が 60%を超えている。〔図 40〕

図 40 年齢階級別、スマートフォン・パソコンなどの使用時間帯別行動者率（2021 年）  
— 平日、総数、15～19 歳、20～24 歳、45～49 歳



) 複数回答あり

## 結果の概要（生活行動編）

### － 利用上の主な用語 －

○行動者数……過去1年間（2020年（令和2年）10月20日～2021年（令和3年）10月19日）に該当する種類の活動を行った人（10歳以上）の数。なお、数値は母集団における行動者数の推定値である。

○行動者率……10歳以上人口に占める行動者数の割合（％）。

ただし、「1 学習・自己啓発・訓練」以外の項目で、年齢階級の表記があるものについては、15歳以上人口に占める行動者数の割合（％）を記載している。

### － 利用上の注意 －

- 1 本文および図表中の数値は、表章単位未満の位で四捨五入していること、また、総数に「不詳」の数を含むことから、総数と内訳を合計した数値とは必ずしも一致しない。
- 2 表中の「0」および「0.0」は、集計した数値が表章単位に満たないものである。

### 【1年間の主な生活行動の調査時期】

1年間の主な生活行動は、2020年（令和2年）10月20日から2021年（令和3年）10月19日までの過去1年間の自由時間において該当する活動を行った状況について調査した結果である。この時期は、2回の「新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言」を含んだ期間となっていた。

福井県においても、3回の県独自の「緊急事態宣言」を含んだ期間となっていた。

## 1 学習・自己啓発・訓練

- ・ 「学習・自己啓発・訓練」の行動者率は35.8%、5年前より1.5ポイント上昇
- ・ 男性が34.5%、女性が37.1%と女性が男性より2.6ポイント高い

「学習・自己啓発・訓練※」について、過去1年間（2020年10月20日～2021年10月19日。以下同じ。）に何らかの種類の活動を行った人（10歳以上）の数（以下「行動者数」という。）は243千人となり、10歳以上人口に占める割合（以下「行動者率」という。）は35.8%となった。前回調査の2016年との比較では、行動者率は1.5ポイント上昇したものの、全国と比較すると3.8ポイント低く、全国第22位となった（前回第17位）。〔図41〕

行動者率を年齢階級別にみると、「25～34歳」を除くすべての年齢階級において2016年より上昇している。また、「10～14歳」および「55～64歳」の行動者率が全国を上回っており、「10～14歳」では全国第4位、「55～64歳」では全国8位となった。〔図42〕

図41 「学習・自己啓発・訓練」の行動者率の推移（1996年～2021年）

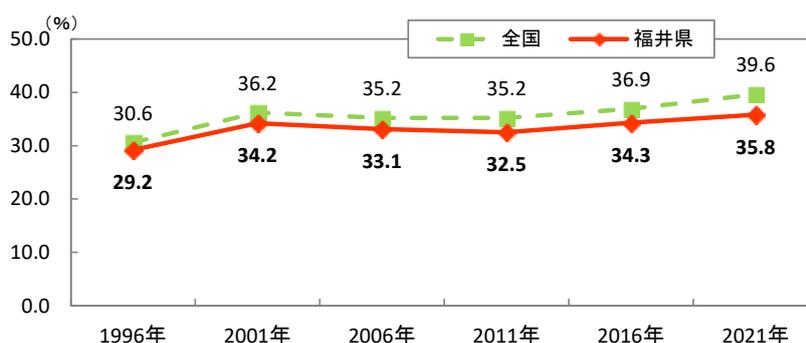
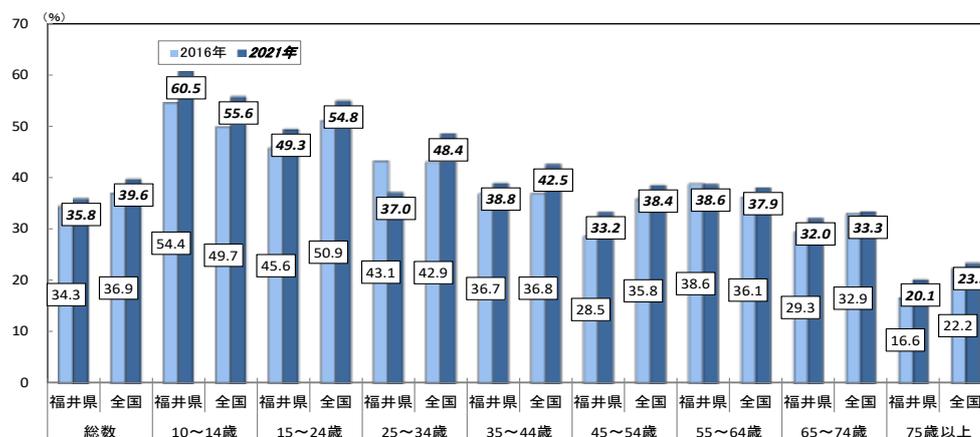


図42 「学習・自己啓発・訓練」の年齢階級別行動者率（2016年、2021年）



※) 学校教育や仕事中の研修を除く学習、訓練等（稽古事、資格試験の勉強、通信教育、講座の受講など）

男女別にみると、行動者数は男性が115千人、女性が128千人となり、行動者率は男性が34.5%、女性が37.1%となった。女性の行動者率が男性より2.6ポイント高くなっており、2016年との比較では、男性は1.2ポイント上昇、女性は1.9ポイント上昇した。〔図43〕

行動者率を年齢階級別にみると、65歳以上の年齢階級において男性の方が高く、それ以外の年齢階級において女性のほうが高くなっている。〔図44〕

図43 「学習・自己啓発・訓練」の男女別行動者率の推移（1996年～2021年）

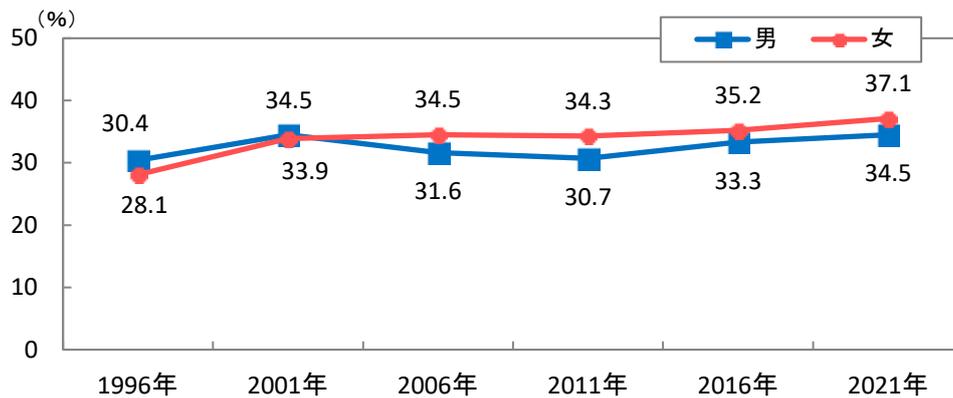
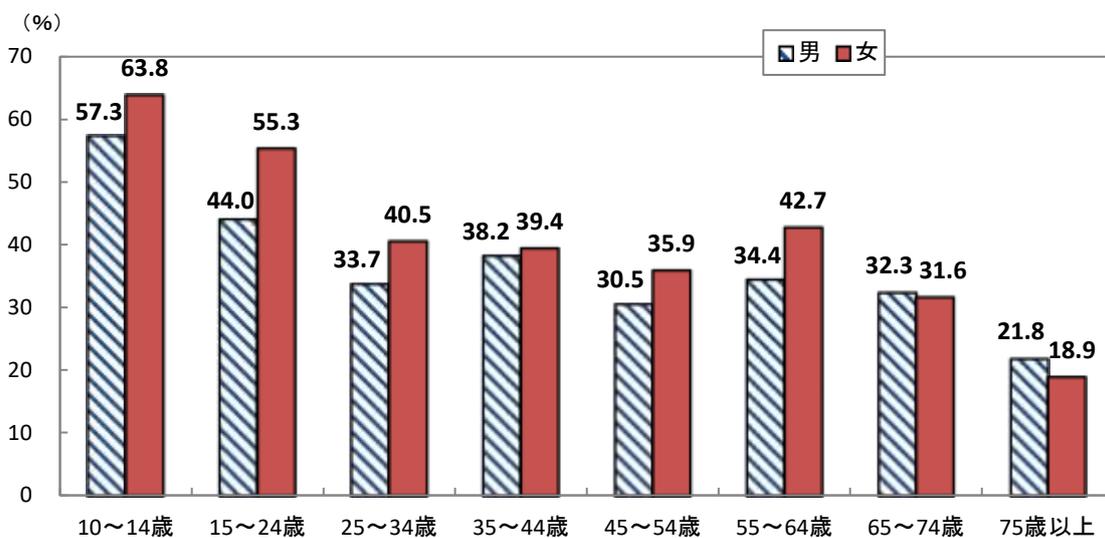


図44 「学習・自己啓発・訓練」の男女別、年齢階級別行動者率（2021年）



- 「学習・自己啓発・訓練」の種類別では、男性は「パソコンなどの情報処理」、女性は「家政・家事」の行動者率が最も高い

「学習・自己啓発・訓練」の種類別に行動者率をみると、「パソコンなどの情報処理」が13.4%と最も高く、次いで「家政・家事」が12.8%、「芸術・文化」が10.0%などとなっている。2016年との比較では、「介護関係」および「その他」以外のすべての種類において行動者率が上昇したものの、全国と比べると、すべての種類において全国を下回っている。〔図45〕

男女別にみると、男性は「パソコンなどの情報処理」が16.1%と最も高く、次いで「人文・社会・自然科学」が10.0%、「商業実務・ビジネス関係」が9.8%などとなっている。女性は「家政・家事」が16.8%と最も高く、次いで「芸術・文化」が10.9%、「パソコンなどの情報処理」が10.8%などとなっている。〔図46〕

図45 「学習・自己啓発・訓練」の種類別行動者率（2016年、2021年）

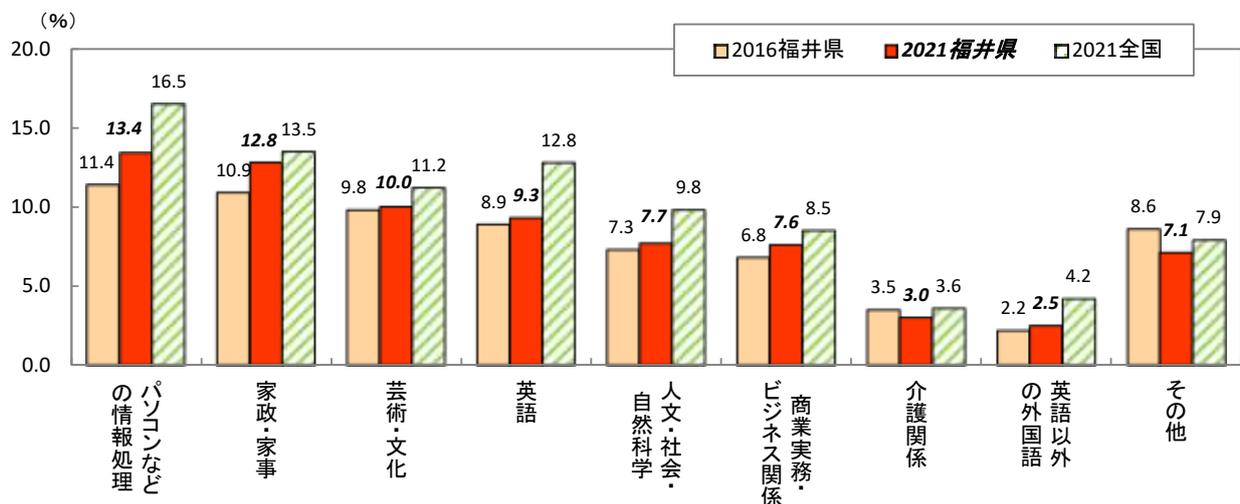
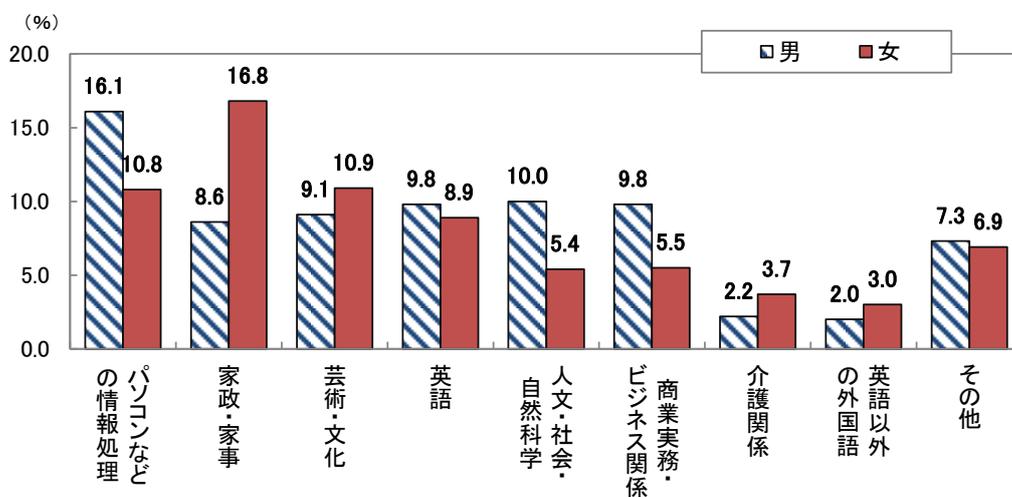


図46 「学習・自己啓発・訓練」の種類別、男女別行動者率（2021年）



行動者率が高い種類について年齢階級別にみると、「パソコンなどの情報処理」は2016年と比べて、「25～34歳」および「55～64歳」を除くすべての年齢階級において上昇しており、「家政・家事」は、「25～34歳」を除くすべての年齢階級において上昇している。〔図47〕

男女別年齢階級別にみると、「パソコンなどの情報処理」は15歳以上の男性の行動者率が女性より高い。また、「家政・家事」はすべての年齢階級において、「芸術・文化」は「75歳以上」を除くすべての年齢階級において、女性の行動者率が男性より高くなっている。また、「10～14歳」においては、男女とも特に「英語」の行動者率が高く、40%を超えている。〔図48〕

図47 主な「学習・自己啓発・訓練」の種類別、年齢階級別行動者率（2016年、2021年）

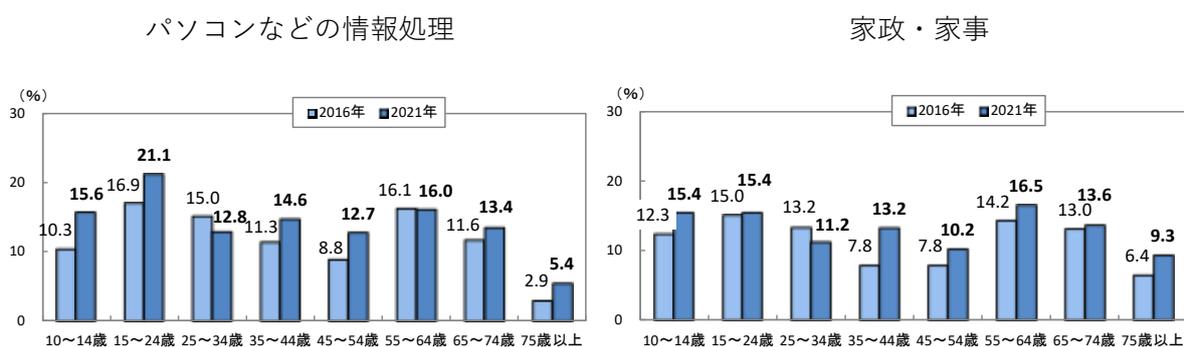
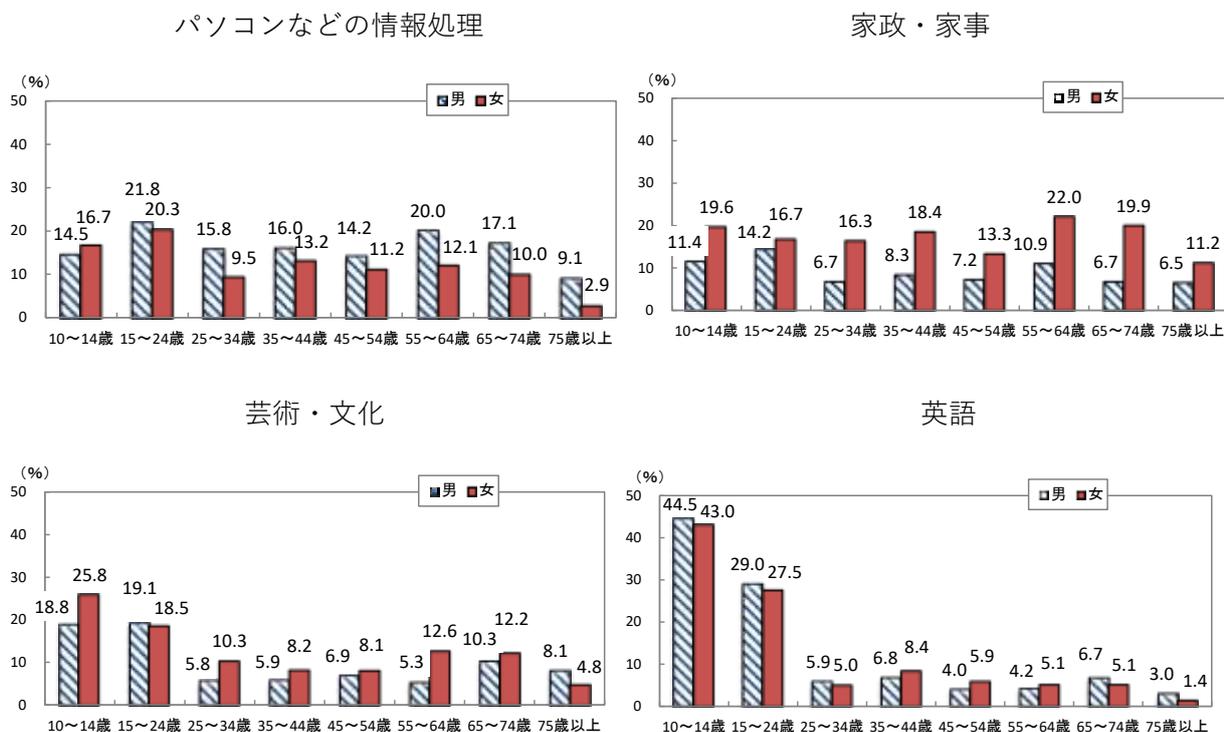


図48 主な「学習・自己啓発・訓練」の種類別、男女別、年齢階級別行動者率（2021年）



## 2 ボランティア活動

- ・ 「ボランティア活動」の行動者率は21.7%、5年前より10.5ポイント低下し全国第11位
- ・ 男性が24.9%、女性が18.7%と男性が女性より6.2ポイント高い

「ボランティア活動」の行動者数は147千人となり、行動者率は21.7%となった。2016年との比較では、行動者率は10.5ポイント低下しており、全国と比較すると3.9ポイント高く、全国第11位となった（前回第9位）。〔図49〕

行動者率を年齢階級別にみると、「55～64歳」が33.4%と最も高く、「15～24歳」が5.5%と最も低くなっており、「15～24歳」および「75歳以上」で全国を下回っている。2016年との比較では、すべての年齢階級において低下しており、特に「15～24歳」の低下が大きい。〔図50〕

図49 「ボランティア活動」の行動者率の推移（2001年～2021年）

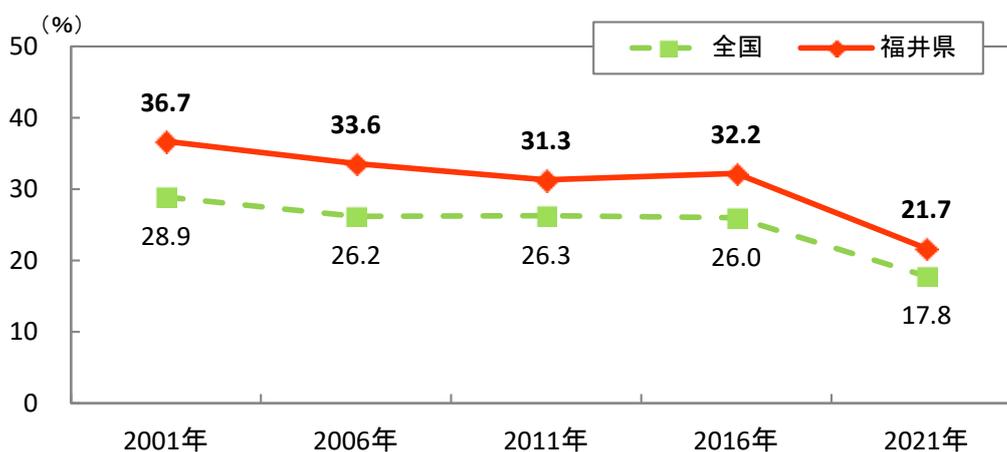
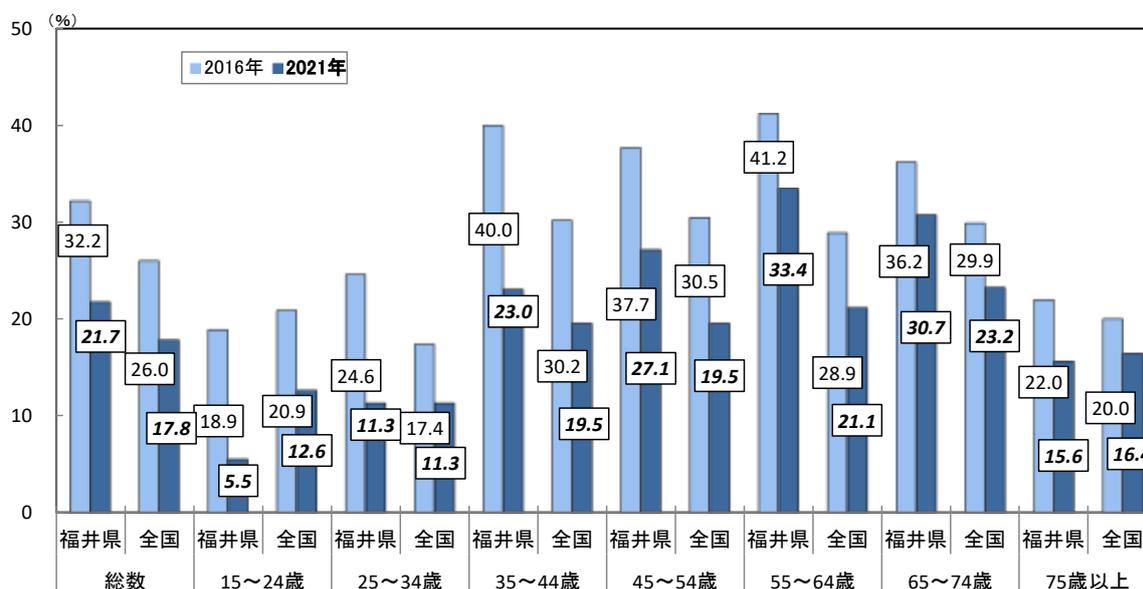


図50 「ボランティア活動」の年齢階級別行動者率（2016年、2021年）



男女別にみると、行動者数は男性が83千人、女性が64千人となり、行動者率は男性が24.9%、女性が18.7%となった。男性の行動者率が女性より6.2ポイント高くなっており、2016年との比較では、男性は8.8ポイント低下、女性は12.2ポイント低下した。〔図51〕

行動者率を男女別年齢階級別にみると、男女とも「15～24歳」が最も低く、男女ともに「55～64歳」が最も高くなっている。また、25歳以上のすべての年齢階級において男性のほうが高くなっている。〔図52〕

図51 「ボランティア活動」の男女別行動者率の推移（2001年～2021年）

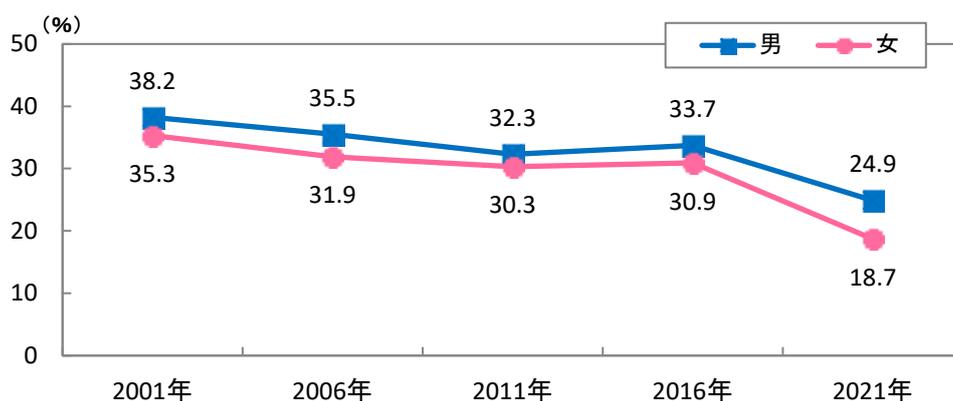
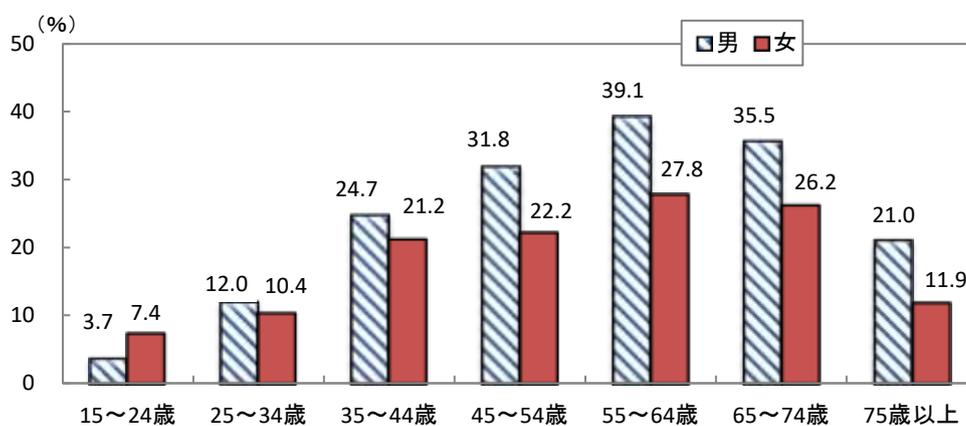


図52 「ボランティア活動」の男女別、年齢階級別行動者率（2021年）

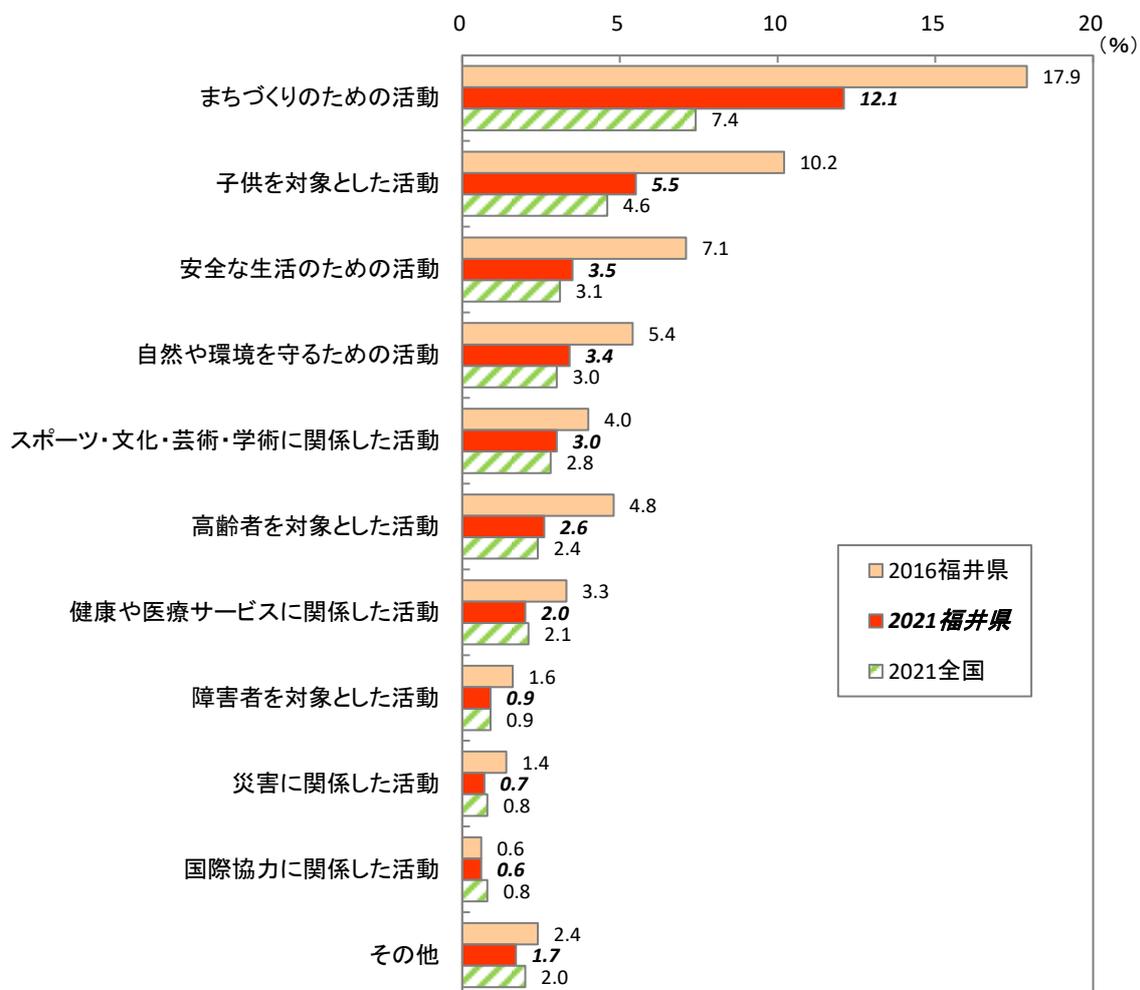


- ・ 「まちづくりのための活動」の行動者率が最も高く、全国第7位
- ・ 男性の「まちづくりのための活動」の行動者率が全国第5位

「ボランティア活動」の種類別に行動者率をみると、「まちづくりのための活動」が12.1%と最も高く、次いで「子供を対象とした活動」が5.5%、「安全な生活のための活動」が3.5%などとなっている。2016年との比較では、「まちづくりのための活動」が5.8ポイント低下、「子供を対象とした活動」が4.7ポイント低下などとなっており、「国際協力に関係した活動」以外のすべての活動において低下している。

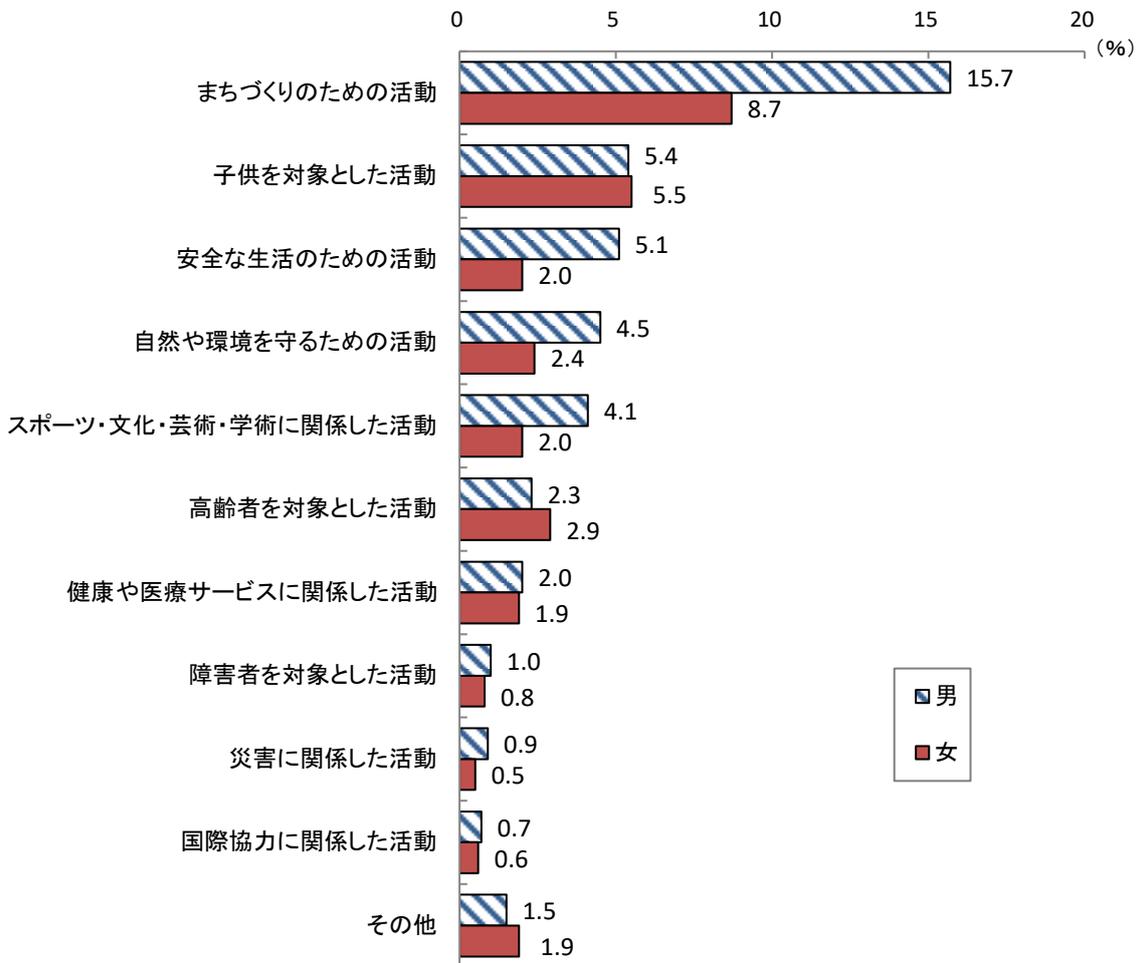
全国と比較すると、「まちづくりのための活動」、「子供を対象とした活動」、「安全な生活のための活動」、「自然や環境を守るための活動」、「スポーツ・文化・学術に関係した活動」、「高齢者を対象とした活動」において全国を上回っている。特に「まちづくりのための活動」に全国第7位となった。〔図53〕

図53 「ボランティア活動」の種類別行動者率（2016、2021年）



男女別にみると、男女とも「まちづくりのための活動」が最も高く、特に男性の行動者率が15.7%（全国8.5%）の全国第5位となった。また、男性の「障害者を対象とした活動」の行動者率が1.0%（全国0.8%）、「子供を対象とした活動」の行動者率が5.4%（全国3.6%）、と全国と比べて高く、ともに全国第6位となった。〔図54〕

図54 「ボランティア活動」の種類別、男女別行動者率（2021年）



- ・ 「スポーツ・文化・芸術・学術に関係した活動」および「まちづくりのための活動」を行う「45～54歳」の男性の行動者率が全国第1位
- ・ 「スポーツ・文化・芸術・学術に関係した活動」を行う「65～74歳」の女性の行動者率が全国第1位

行動者率が高い「まちづくりのための活動」および「子供を対象とした活動」について、年齢階級別にみると、2016年と比べて、すべての年齢階級において低下している。〔図55〕

男女別年齢階級別にみると、「まちづくりのための活動」は、男性は「55～64歳」、女性は「65～74歳」が最も高くなっており、すべての年齢階級において男性が女性より高くなっている。「子供を対象とした活動」は女性の「35～44歳」が突出して高くなっている。〔図56〕

全国と比較すると、「スポーツ・文化・芸術・学術に関係した活動」および「まちづくりのための活動」を行う「45～54歳」の男性の行動者率、「スポーツ・文化・芸術・学術に関係した活動」を行う「65～74歳」の女性の行動者率が高く、全国第1位となった。

図55 主な「ボランティア活動」の種類別、年齢階級別行動者率（2016年、2021年）  
まちづくりのための活動 子供を対象とした活動

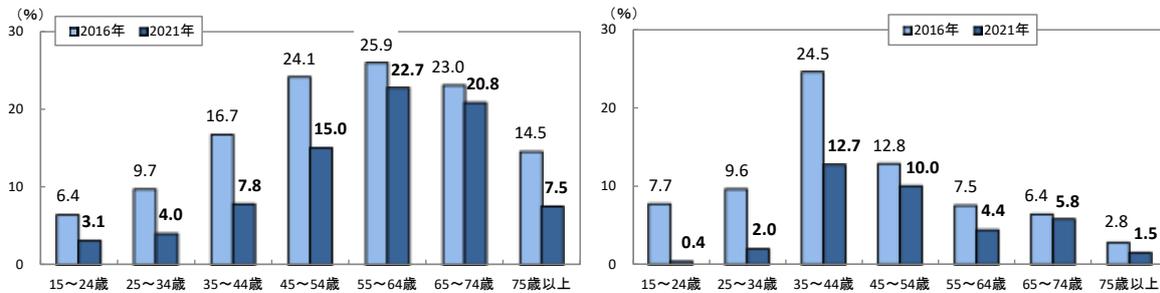
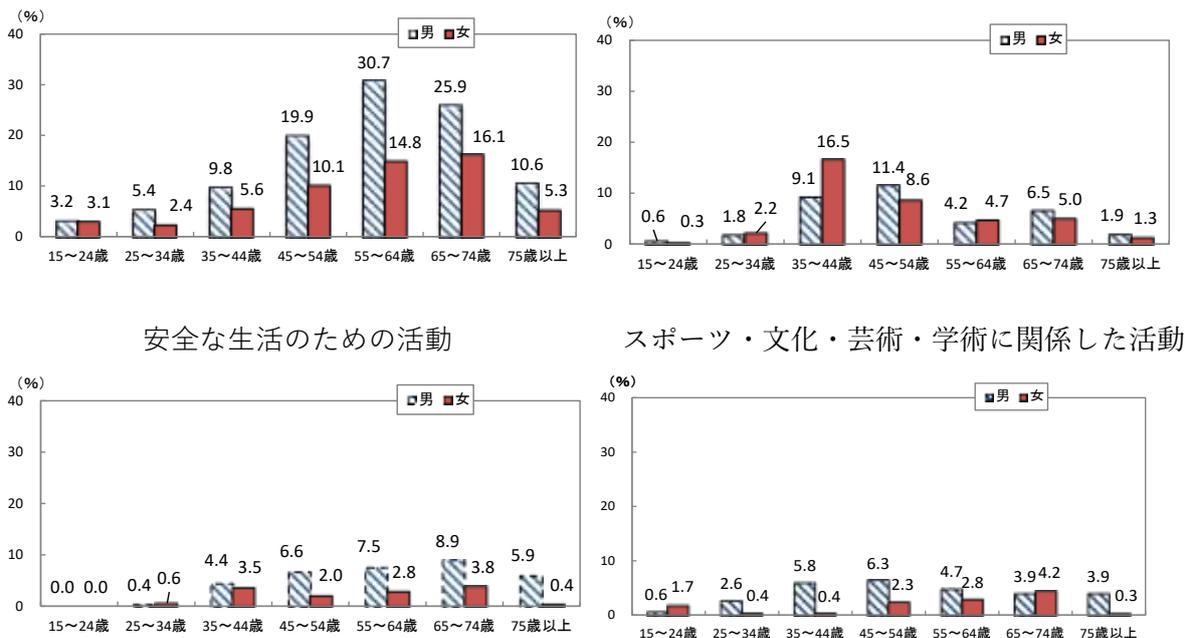


図56 主な「ボランティア活動」の種類別、男女別、年齢階級別行動者率（2021年）  
まちづくりのための活動 子供を対象とした活動



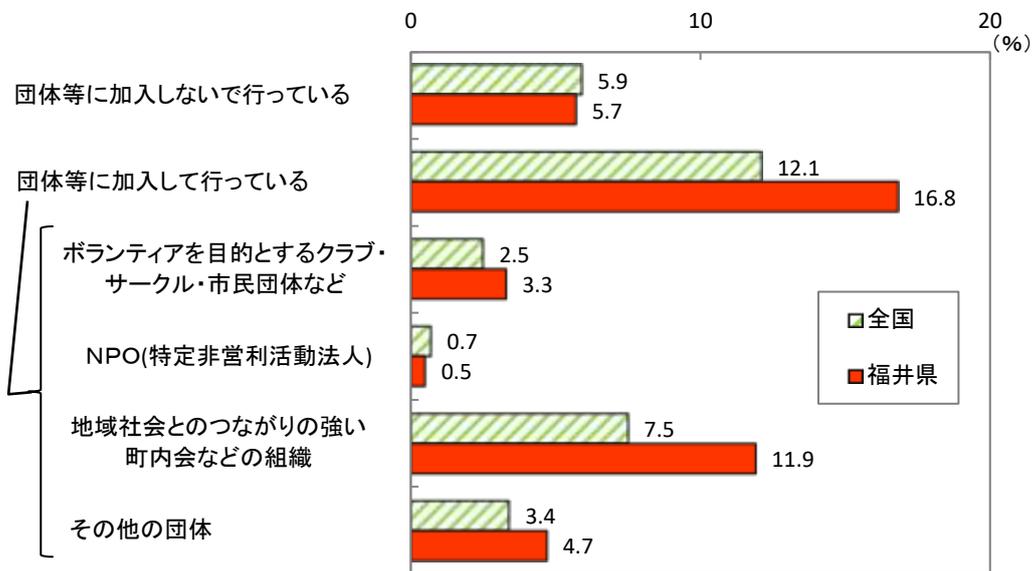
- ・ 町内会やサークル・市民団体などの団体等に加入してボランティア活動を行っている人が多い

「ボランティア活動」の形態別に行動者率をみると、「団体等に加入して行っている」が、「加入しないで行っている」よりも高くなっている。

「団体等に加入して行っている」について内訳をみると、「地域社会とのつながりの強い町内会などの組織」に加入して行った場合の行動者率が最も高く 11.9%となっている。

全国と比較すると、「ボランティアを目的とするクラブ・サークル・市民団体など」に加入して行った場合の行動者率は全国第 4 位となった。〔図 57〕

図 5 7 「ボランティア活動」の形態別行動者率（2021 年）



### 3 スポーツ

- ・ 「スポーツ」の行動者率は61.5%、5年前より3.5ポイント低下
- ・ 男性が65.3%、女性が57.9%と男性が女性より7.4ポイント高い

「スポーツ」の行動者数は416千人で、行動者率は61.5%となり、2016年との比較では、3.5ポイント低下した。また、全国と比較すると5.0ポイント低くなり、比較可能な1996年以降、常に全国を下回っている。〔図58〕

行動者率を年齢階級別にみると、2016年に比べ、「45～54歳」および「75歳以上」を除くすべての年齢階級において低下している。「15～24歳」が75.6%と最も高く、年齢が高くなるにつれて低下する傾向がみられる。また、全国と比較すると、「15～24歳」では全国を上回っているが、25歳以上では全国を下回っており、特に「25～34歳」の行動者率が全国40位と低くなっている。〔図59〕

図58 「スポーツ」の行動者率の推移（1996～2021年）

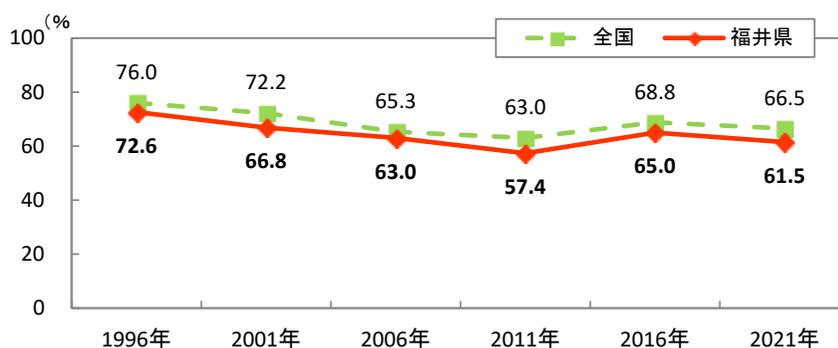
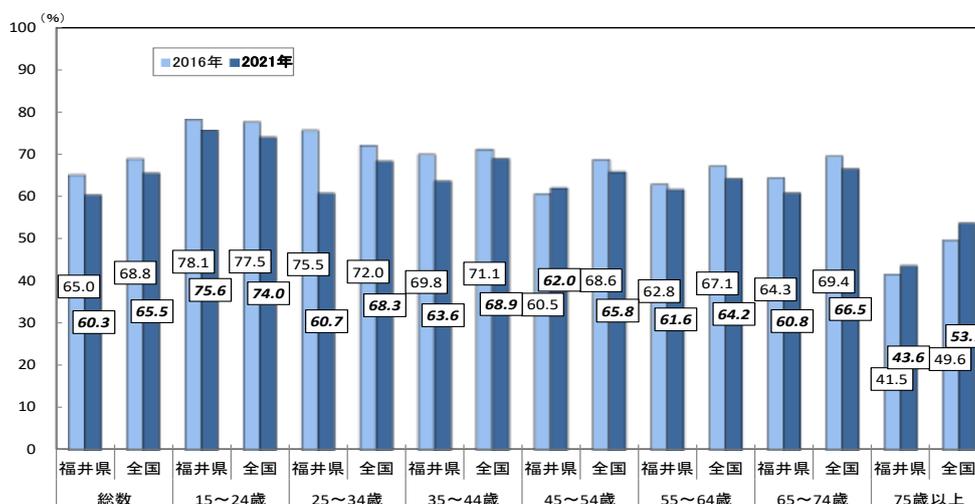


図59 「スポーツ」の年齢階級別行動者率（2016年、2021年）



男女別にみると、行動者数は男性が217千人、女性が200千人となり、行動者率は男性が65.3%、女性が57.9%となり、男性の行動者率が女性より7.4ポイント高くなった。2016年との比較では、男性は4.8ポイント、女性は2.3ポイント低下した。〔図60〕

行動者率を年齢階級別にみると、すべての年齢階級において男性のほうが高くなっており、特に「75歳以上」においては16ポイントの差がある。〔図61〕

図60 「スポーツ」の男女別行動者率の推移（1996年～2021年）

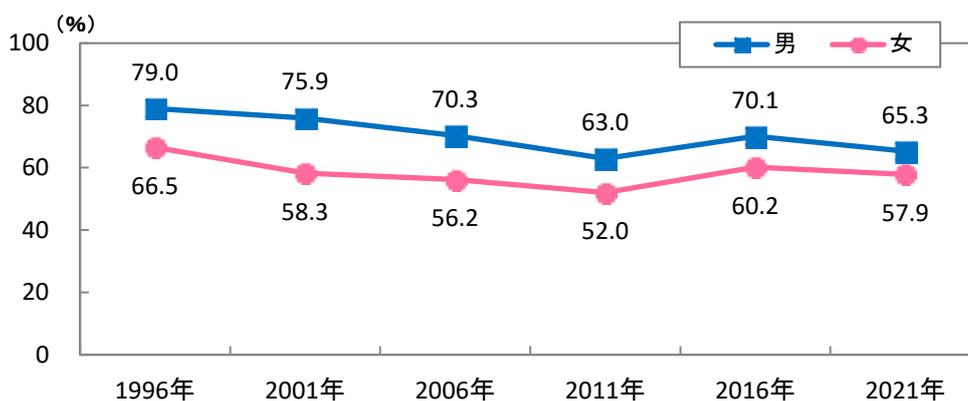
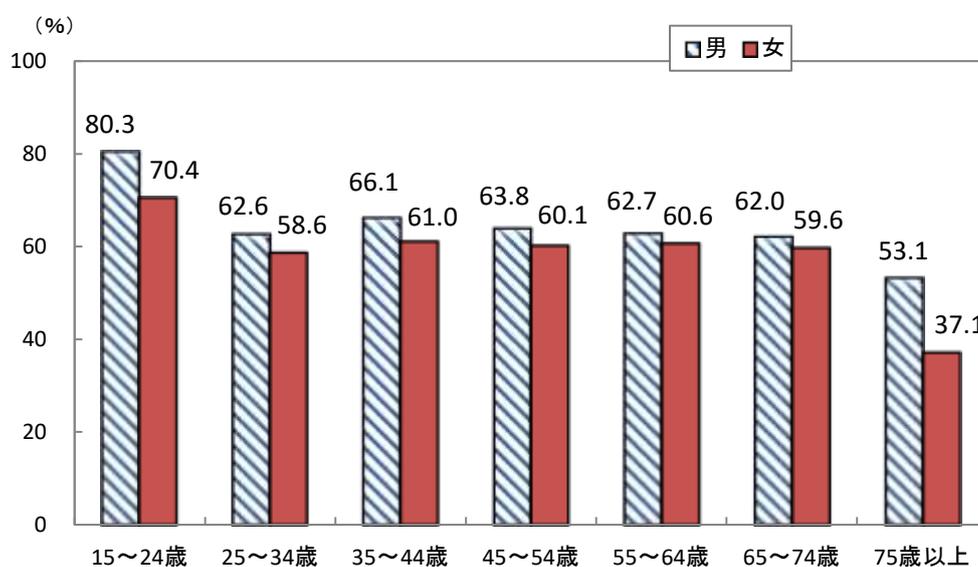


図61 「スポーツ」の男女別、年齢階級別行動者率（2021年）



- ・ 「ウォーキング・軽い体操」の行動者率が最も高い
- ・ ほとんどのスポーツの行動者率が5年前より低下した中、「ウォーキング・軽い体操」と「バスケットボール」の行動者率が上昇
- ・ 男性の「バドミントン」、女性の「ボウリング」の行動者率が全国第2位

「スポーツ」の種類別に行動者率をみると、「ウォーキング・軽い体操」が38.8%と最も高く、次いで「器具を使ったトレーニング」が11.5%などとなっている。2016年との比較では、「ウォーキング・軽い体操」が4.6ポイント上昇、「器具を使ったトレーニング」が2.4ポイント低下などとなっている。また、2016年と比べると「ウォーキング・軽い体操」、「バスケットボール」以外のすべての項目で同じく低下している。〔図62-1〕

また、全国に比べ「ウォーキング・軽い体操」は5.5ポイント低いのが、前回の全国第46位から第34位に上昇している。〔図62-2〕

図62-1 「スポーツ」の種類別行動者率（2016年、2021年）

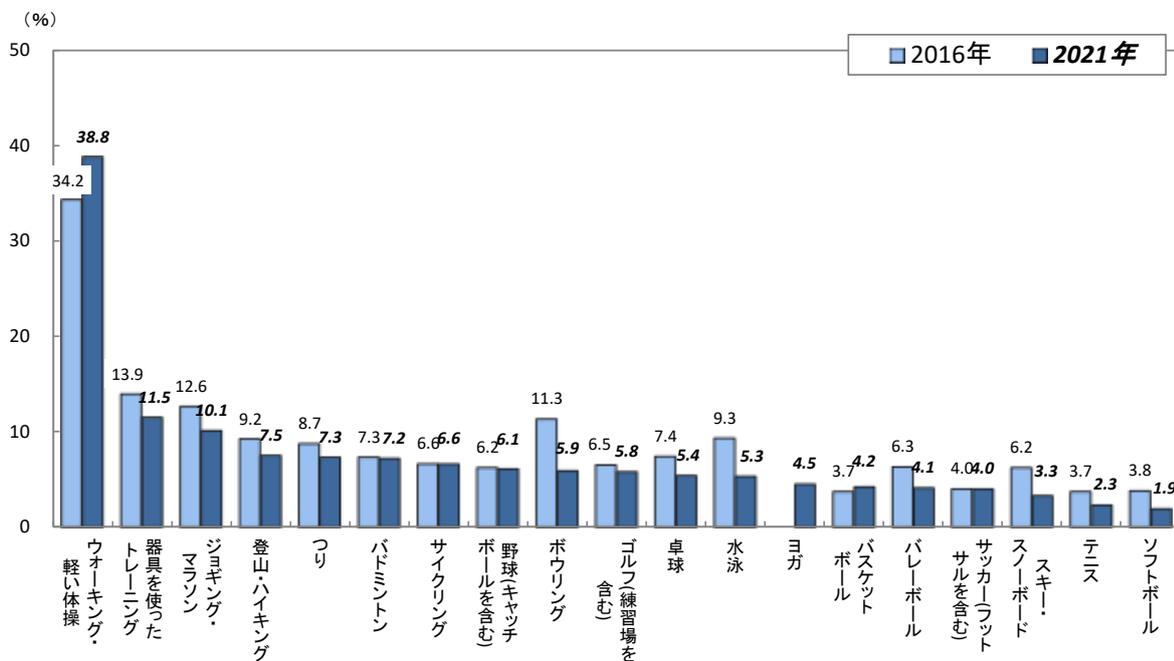


図62-2 「スポーツ」の種類別行動者率（2021年）

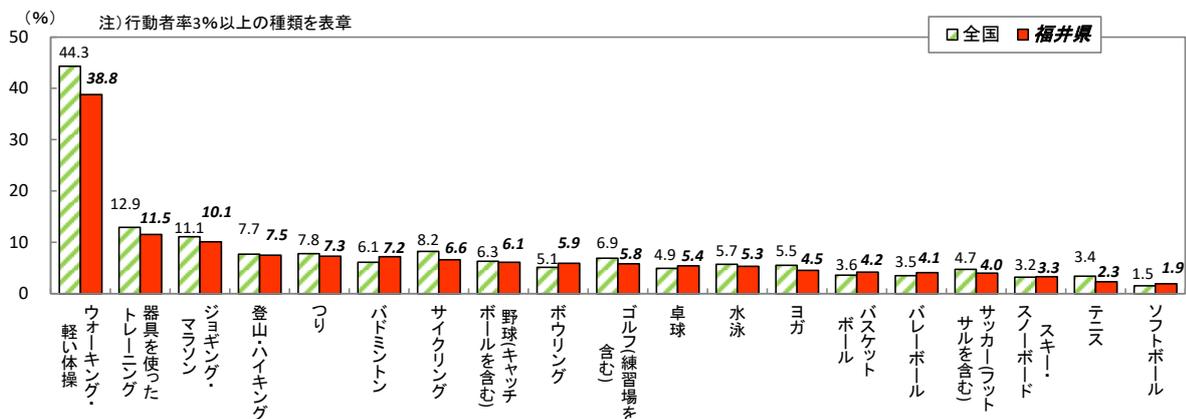


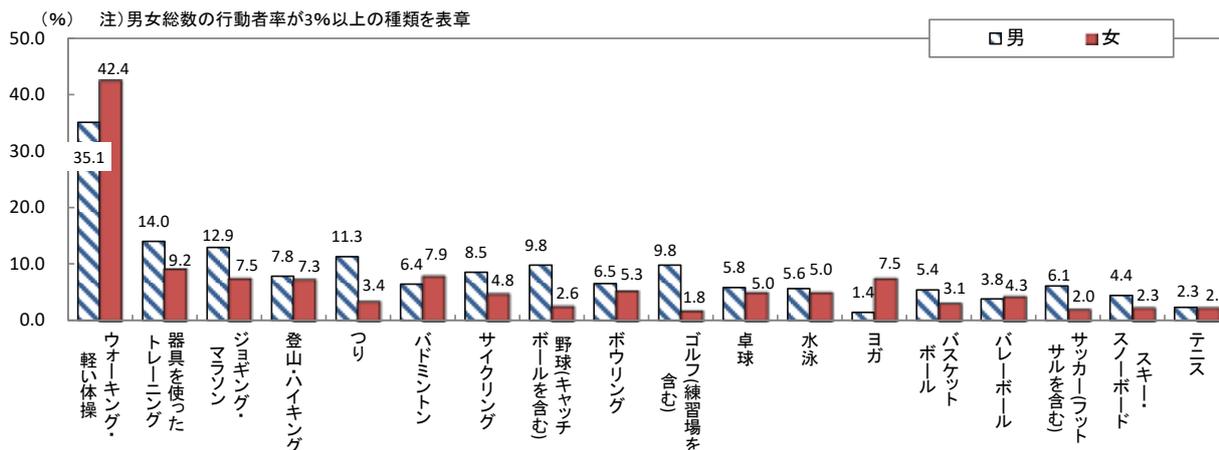
表19 「スポーツ」の種類別行動者率（2016年、2021年）

	2016年 (%)	2021年 (%)	増減 (ポイント)	2021年(全国) (%)
ウォーキング・軽い体操	34.2	38.8	4.6	44.3
器具を使ったトレーニング	13.9	11.5	▲ 2.4	12.9
ジョギング・マラソン	12.6	10.1	▲ 2.5	11.1
登山・ハイキング	9.2	7.5	▲ 1.7	7.7
つり	8.7	7.3	▲ 1.4	7.8
バドミントン	7.3	7.2	▲ 0.1	6.1
サイクリング	6.6	6.6	0.0	8.2
野球(キャッチボールを含む)	6.2	6.1	▲ 0.1	6.3
ボウリング	11.3	5.9	▲ 5.4	5.1
ゴルフ(練習場を含む)	6.5	5.8	▲ 0.7	6.9
卓球	7.4	5.4	▲ 2.0	4.9
水泳	9.3	5.3	▲ 4.0	5.7
ヨガ	...	4.5	...	5.5
バスケットボール	3.7	4.2	0.5	3.6
バレーボール	6.3	4.1	▲ 2.2	3.5
バレーボール	6.3	4.1	▲ 2.2	4.6
サッカー(フットサルを含む)	4.0	4.0	0.0	4.7
スキー・スノーボード	6.2	3.3	▲ 2.9	3.2
テニス	3.7	2.3	▲ 1.4	3.4

男女別に行動者率をみると、男女とも「ウォーキング・軽い体操」が最も高く（男性 35.1%、女性 42.4%）、次いで、「器具を使ったトレーニング」（男性 14.0%、女性 9.2%）となっている。多くのスポーツにおいて男性が女性を上回っているが、「ウォーキング・軽い体操」および「バドミントン」、「ヨガ」、「バレーボール」においては、女性が男性を上回っている。

全国と比較すると、男性の「バドミントン」が 6.4%（全国 5.4%）、女性の「ボウリング」が 5.3%（全国 3.9%）と高く、ともに全国第 2 位となっている。〔図 63〕

図 6 3 「スポーツ」の種類別、男女別行動者率（2021 年）



行動者率が上昇した主な「スポーツ」の種類について、年齢階級別の行動者率を 2016 年と比べると、「ウォーキング・軽い体操」は「25～34 歳」を除く全ての階級で上昇しており、「バスケットボール」は「15～24 歳」および「35～64 歳」において上昇している。〔図 64〕

行動者率が高い種類について男女別年齢階級別にみると、「ジョギング・マラソン」および「つり」はすべての年齢階級において男性が女性を上回っている。一方、「ウォーキング・軽い体操」は 74 歳までは女性が男性を上回っている。〔図 65〕

図 6 4 行動者率が上昇した主な「スポーツ」の種類別、年齢階級別行動者率（2016 年、2021 年）

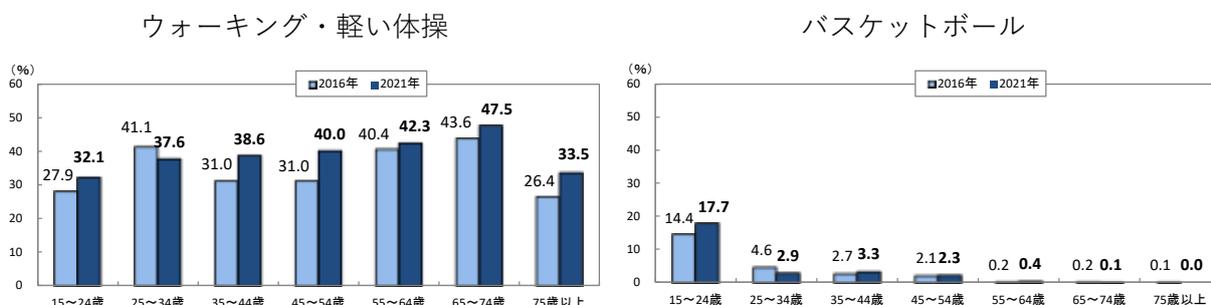
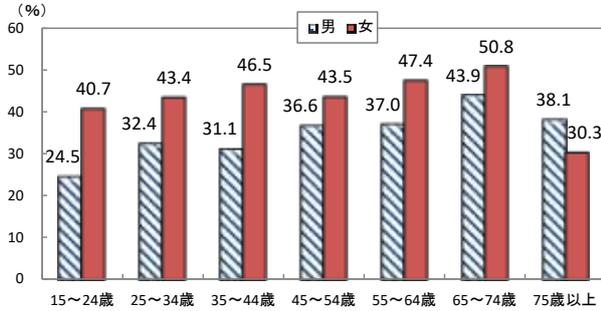
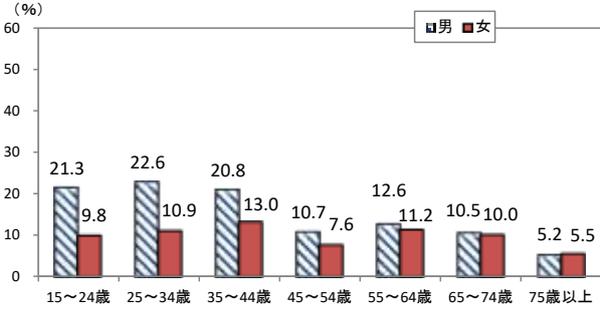


図 6 5 主な「スポーツ」の種類、男女別、年齢階級別行動者率（2021 年）

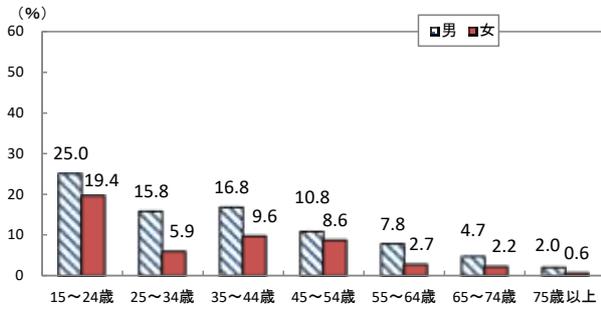
ウォーキング・軽い体操



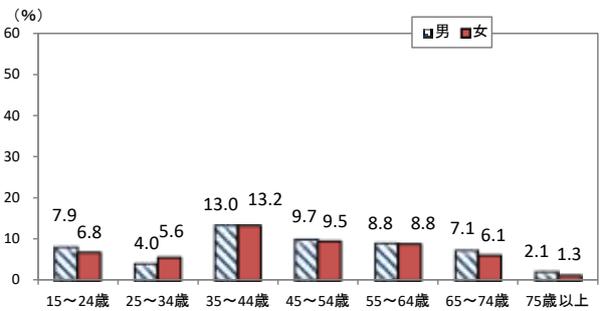
器具を使ったトレーニング



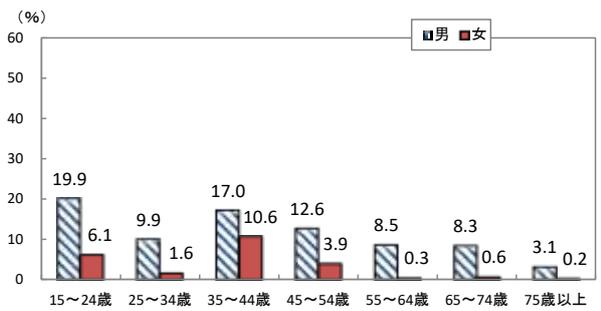
ジョギング・マラソン



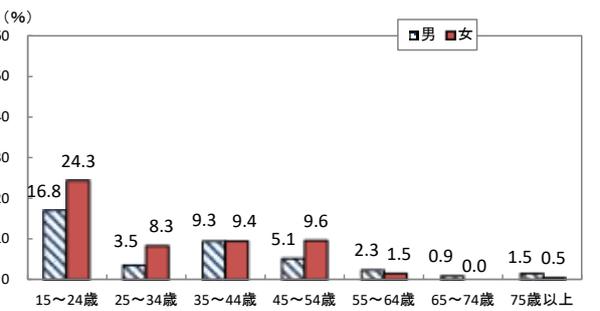
登山・ハイキング



つり



バドミントン



- ・ 25歳以上は男女とも「ウォーキング・軽い体操」の行動者率が最も高い
- ・ 「15～24歳」の男性は「ジョギング・マラソン」の行動者率が最も高い

男女別年齢階級別に行動者率の高い種類をみると、男女とも25歳以上のすべての年齢階級において、「ウォーキング・軽い体操」が最も高くなっている。次いで、男性は「25～44歳」および「55～74歳」で「器具を使ったトレーニング」が2位、女性は「25～54歳」で「ヨガ」、55歳以上で「器具を使ったトレーニング」が2位となっている。

また、男性は「15～24歳」で「ジョギング・マラソン」が最も高くなっているほか、「45～54歳」で「ゴルフ」、「75歳以上」で「グラウンドゴルフ」が2位となっている。〔表20〕

表20 「スポーツ」の男女別、年齢階級別行動者率 上位3位（2021年）

年齢階級		1位		2位		3位	
			行動者率(%)		行動者率(%)		行動者率(%)
15～24歳	男	ジョギング・マラソン	25.0	ウォーキング・軽い体操	24.5	野球(キャッチボールを含む)	22.3
	女	ウォーキング・軽い体操	40.7	バドミントン	24.3	バレーボール	19.9
25～34歳	男	ウォーキング・軽い体操	32.4	器具を使ったトレーニング	22.6	ジョギング・マラソン	15.8
	女	ウォーキング・軽い体操	43.4	ヨガ	11.3	器具を使ったトレーニング	10.9
35～44歳	男	ウォーキング・軽い体操	31.1	器具を使ったトレーニング	20.8	つり	17.0
	女	ウォーキング・軽い体操	46.5	ヨガ	13.9	登山・ハイキング	13.2
45～54歳	男	ウォーキング・軽い体操	36.6	ゴルフ(練習場を含む)	15.9	つり	12.6
	女	ウォーキング・軽い体操	43.5	ヨガ	10.0	バドミントン	9.6
55～64歳	男	ウォーキング・軽い体操	37.0	器具を使ったトレーニング	12.6	ゴルフ(練習場を含む)	10.2
	女	ウォーキング・軽い体操	47.4	器具を使ったトレーニング	11.2	ヨガ	9.6
65～74歳	男	ウォーキング・軽い体操	43.9	器具を使ったトレーニング	10.5	ゴルフ(練習場を含む)	9.7
	女	ウォーキング・軽い体操	50.8	器具を使ったトレーニング	10.0	ヨガ	6.9
75歳以上	男	ウォーキング・軽い体操	38.1	グラウンドゴルフ	9.2	ゴルフ(練習場を含む)	5.2
	女	ウォーキング・軽い体操	30.3	器具を使ったトレーニング	5.5	グラウンドゴルフ	3.2

※順位は「その他」を除く

#### 4 趣味・娯楽

- ・ 「趣味・娯楽」の行動者率は85.2%、5年前より0.2ポイント低下
- ・ 男性が86.5%、女性が84.0%と男性が女性より2.5ポイント高い

「趣味・娯楽」の行動者数は577千人となり、行動者率は85.2%となった。2016年との比較では、行動者率は0.2ポイント低下した。全国と比較すると1.1ポイント低く、全国第16位で、比較可能な1996年以降、常に全国を下回っている。〔図66〕

行動者率を年齢階級別にみると、「15～24歳」が94.2%と最も高く、全国と同様、年齢が高くなるにつれて低下する傾向がみられる。2016年との比較では、「15～24歳」および「45～54歳」を除くすべての年齢階級において低下している。〔図67〕

図66 「趣味・娯楽」の行動者率の推移（1996年～2021年）

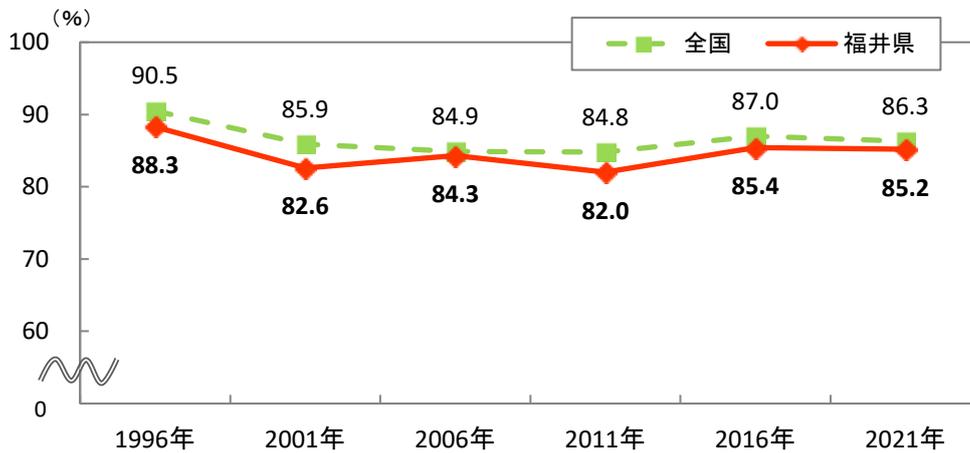
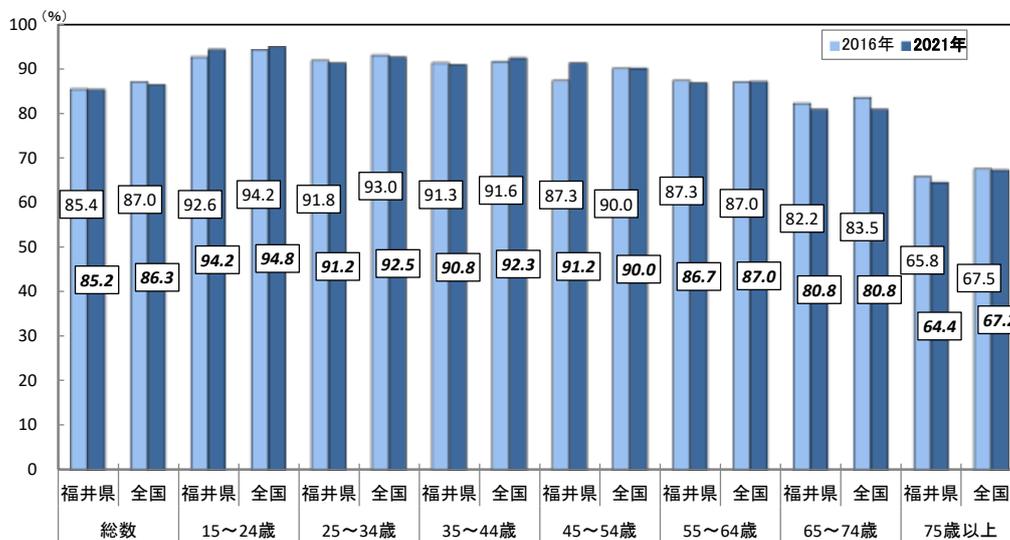


図67 「趣味・娯楽」の年齢階級別行動者率（2016年、2021年）



男女別にみると、行動者数は男性が287千人、女性が290千人となり、行動者率は男性が86.5%、女性が84.0%となった。男性の行動者率が女性より2.5ポイント高くなっており、2016年と比べると、男性は同じ、女性は0.4ポイント低下した。〔図68〕

行動者率を男女別年齢階級別にみると、34歳以下において女性のほうが高くなっているが、45歳以上では男性が女性より高くなっている。〔図69〕

図68 「趣味・娯楽」の男女別行動者率の推移（1996年～2021年）

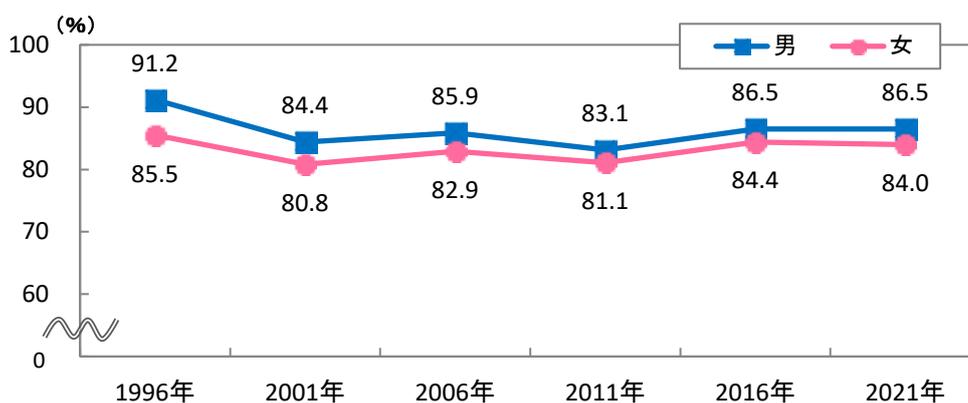
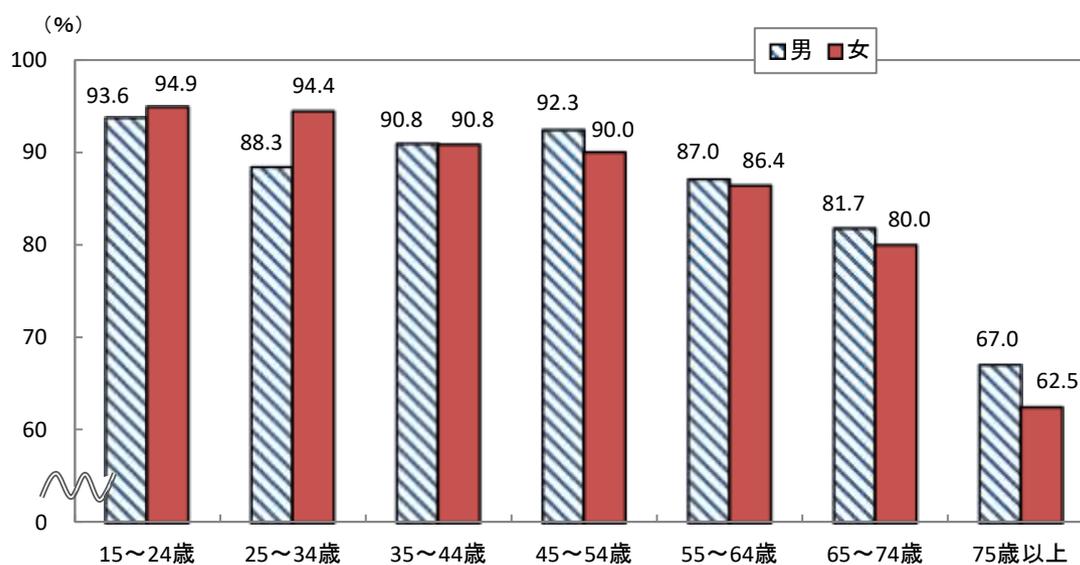


図69 「趣味・娯楽」の男女別、年齢階級別行動者率（2021年）

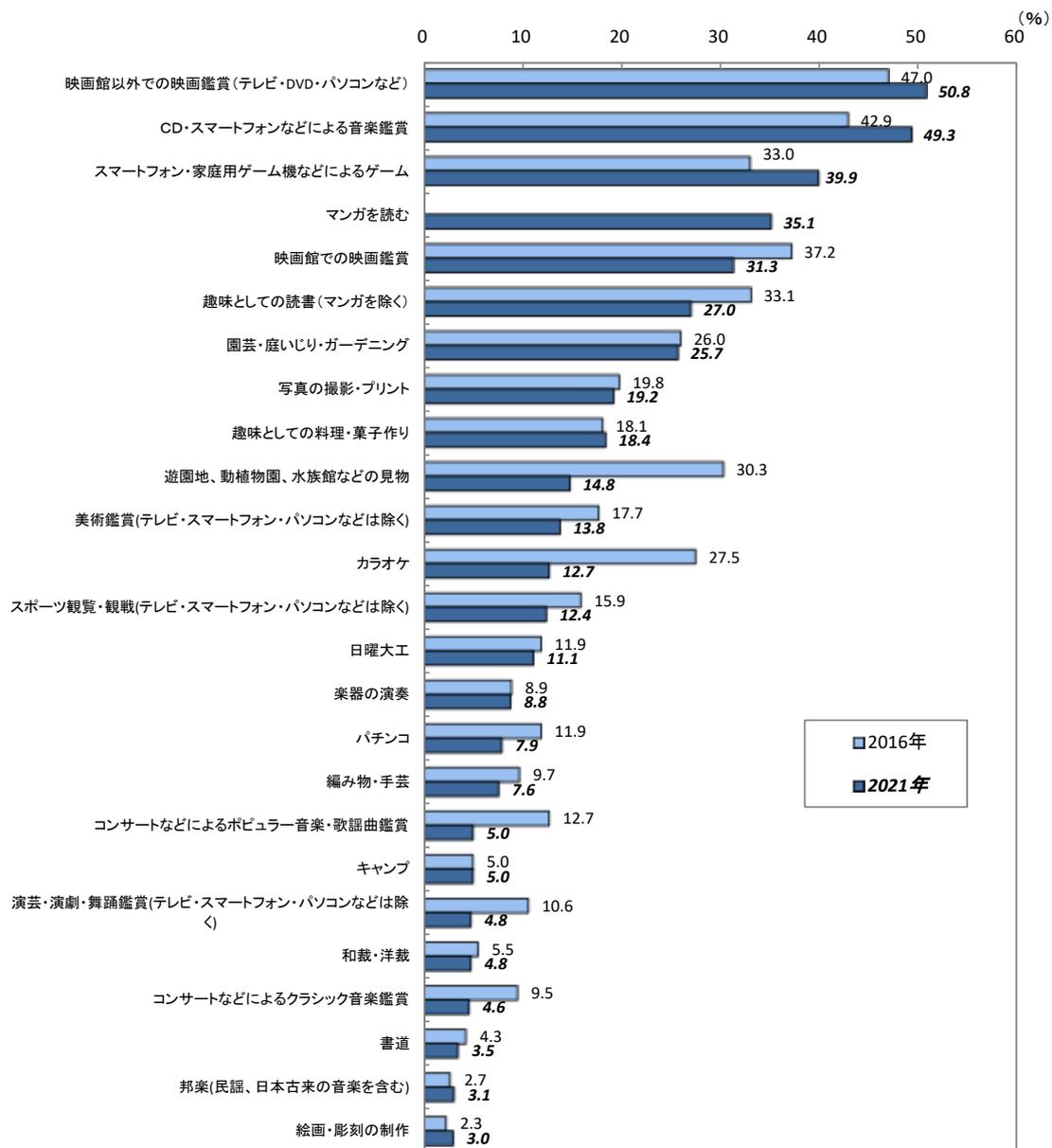


- 「映画館以外での映画鑑賞」、「CD・スマートフォンなどによる音楽鑑賞」、「スマートフォン・家庭用ゲーム機などによるゲーム」などは行動者率が5年前より上昇した一方、「遊園地、動植物園、水族館などの見物」や「カラオケ」の行動者率は大幅に低下

「趣味・娯楽」の種類別行動者率をみると、「映画館以外での映画鑑賞」が50.8%と最も高く、次いで「CD・スマートフォンなどによる音楽鑑賞」が49.3%、「スマートフォン・家庭用ゲーム機などによるゲーム」が39.9%などとなっている。2016年との比較では、「映画館以外での映画鑑賞」が3.8ポイント上昇、「CD・スマートフォンなどによる音楽鑑賞」が6.4ポイント上昇などとなっている。一方、「遊園地、動植物園、水族館などの見物」や「カラオケ」、「コンサートなどによるポピュラー音楽・歌謡曲鑑賞」、「演芸・演劇・舞踊鑑賞(テレビ・スマートフォン・パソコンなどは除く)」は大幅に低下した。〔図70-1〕

図70-1 「趣味・娯楽」の種類別行動者率(2016年、2021年)

注)「趣味・娯楽」のうち主な種類を表彰

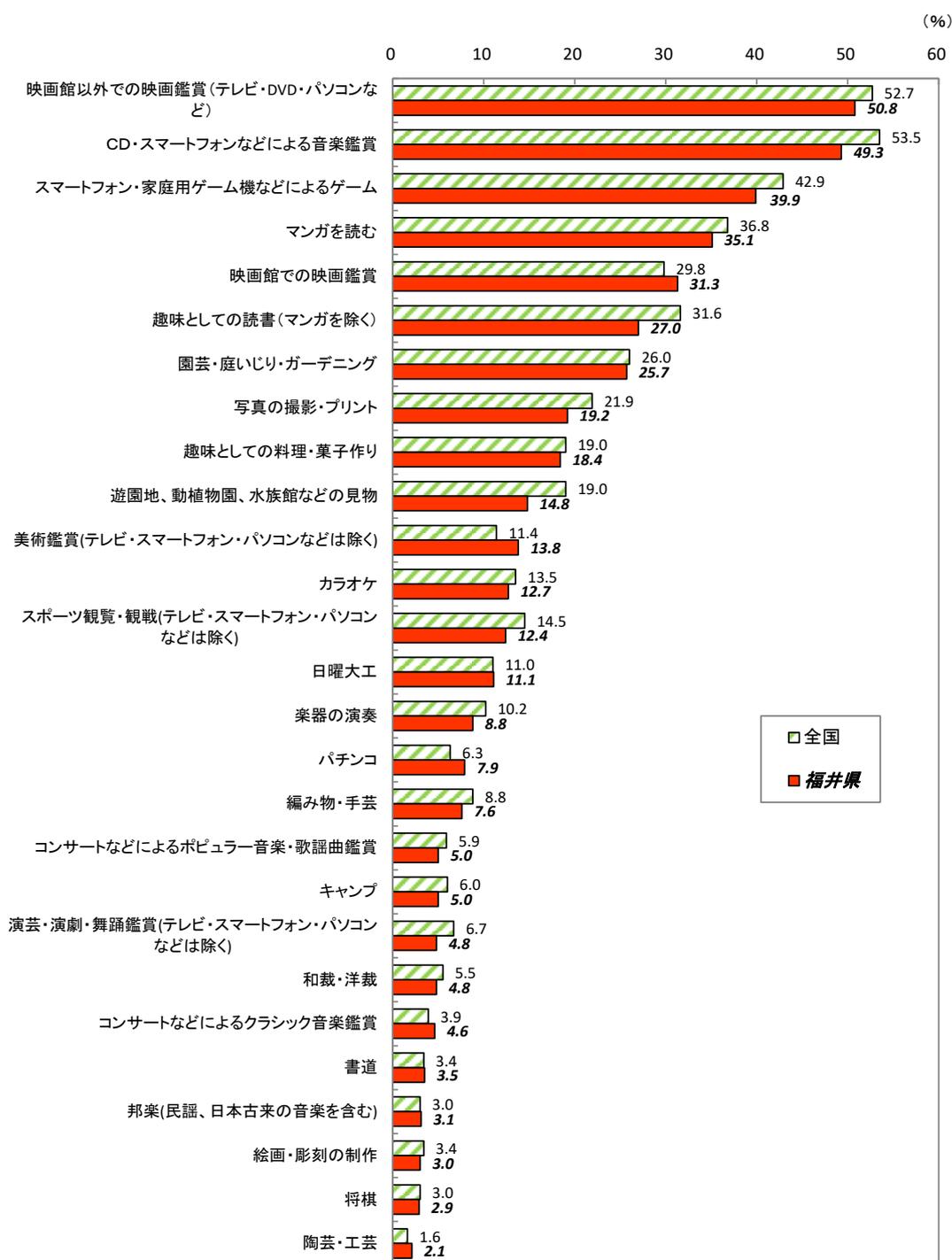


・ 「陶芸・工芸」の行動者率が全国第1位

全国と比較すると、多くの種類において全国を下回っているが、「陶芸・工芸」が2.1%と全国(1.6%)に比べて高く、全国第1位となった。〔図70-2〕

図70-2 「趣味・娯楽」の種類別行動者率(2021年)

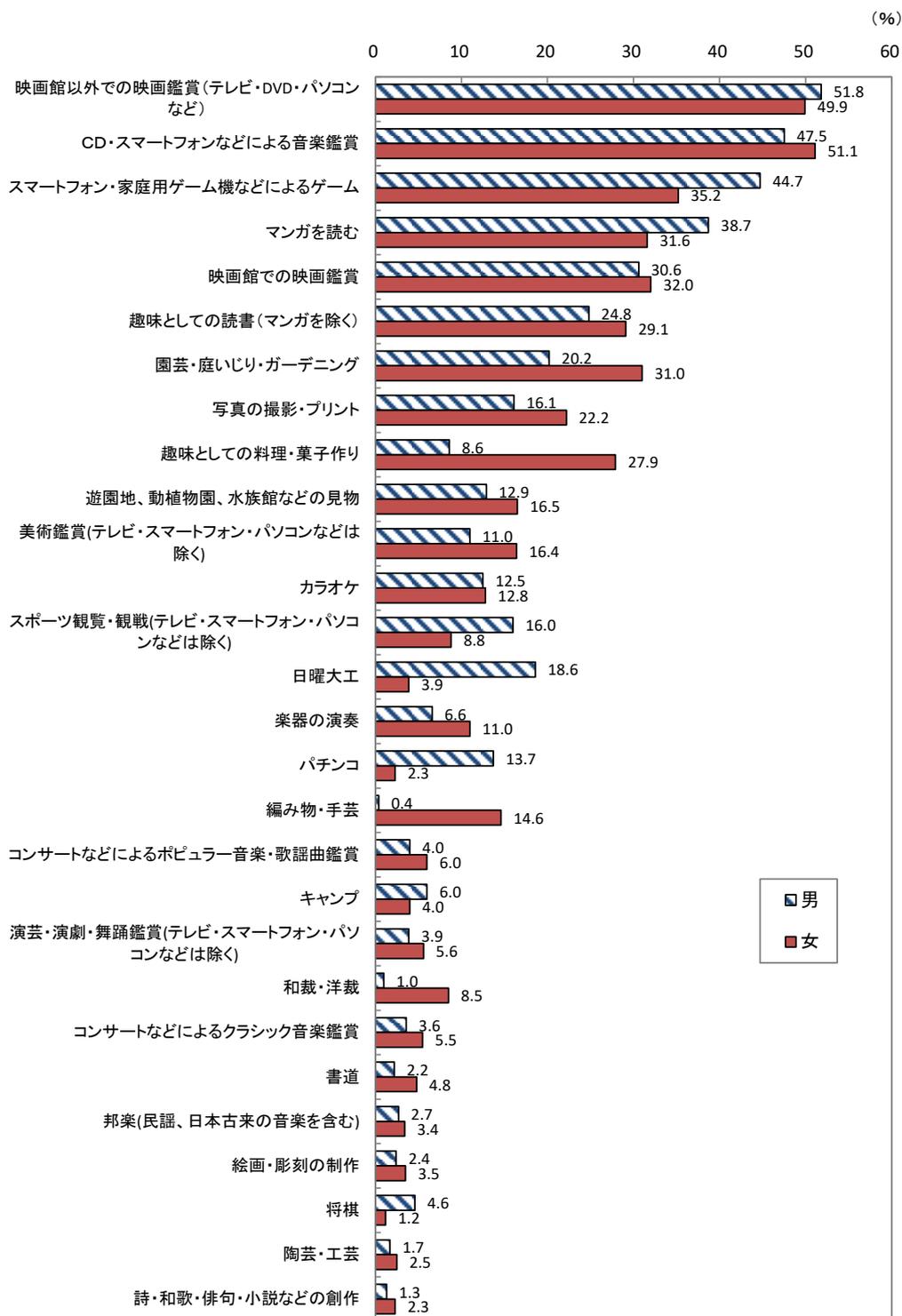
注)「趣味・娯楽」のうち主な種類を表彰



男女別にみると、男性は「映画館以外での映画鑑賞」が51.8%、女性は「CD・スマートフォンなどによる音楽鑑賞」が51.1%で最も高くなっている。男女差の大きいものとして、「日曜大工」は、男性が女性を14.7ポイント上回る18.6%、他方、「趣味としての料理・菓子作り」は女性が男性を19.3ポイント上回る27.9%となった。〔図71〕

図71 「趣味・娯楽」の種類、男女別行動者率（2021年）

注）「趣味・娯楽」のうち主な種類を表彰



- ・ 44 歳以下の男性は「スマートフォン・家庭用ゲーム機などによるゲーム」の行動者率が最も高く、女性は「CD・スマートフォンなどによる音楽鑑賞」の行動者率が最も高い
- ・ 「75 歳以上」は「園芸・庭いじり・ガーデニング」の行動者率が最も高い

行動者率が上昇した主な「趣味・娯楽」の種類について、年齢階級別に 2016 年と比べると、「スマートフォン・家庭用ゲーム機などによるゲーム」はすべての年齢階級で上昇している。「CD・スマートフォンなどによる音楽鑑賞」は、35 歳以上において上昇している。〔図 72〕

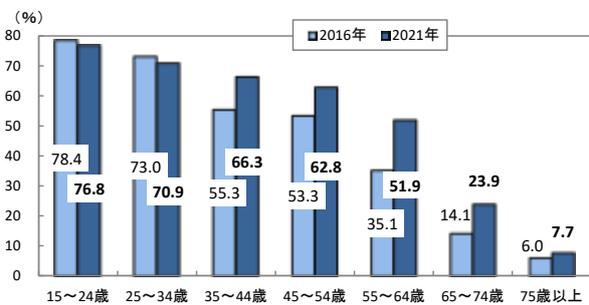
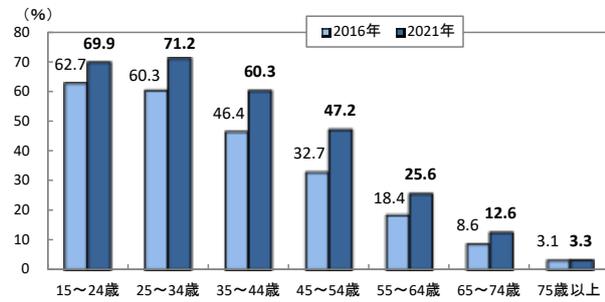
行動者率が高い種類について男女別に見ると、「映画館以外での映画鑑賞」、「CD・スマートフォンなどによる音楽鑑賞」ともに、54 歳以下の年齢階級では女性が男性を上回っているが、55 歳以上になると男性が女性を上回っている。〔図 73〕

年齢階級別に最も行動者率が高い種類をみると、男性は、44 歳以下では「スマートフォン・家庭用ゲーム機などによるゲーム」、45～74 歳になると「映画館以外での映画鑑賞」となり、女性は、54 歳以下で「CD・スマートフォンなどによる音楽鑑賞」となっている。また、「75 歳以上」では男女とも「園芸・庭いじり・ガーデニング」が最も高くなっている。〔図 73、表 21〕

図 7 2 行動者率が上昇した主な「趣味・娯楽」の種類別、年齢階級別行動者率（2016 年、2021 年）

スマートフォン・家庭用ゲーム機などによるゲーム

CD・スマートフォンなどによる音楽鑑賞



映画館以外での映画鑑賞（テレビ・DVD・パソコンなど）

絵画・彫刻の制作

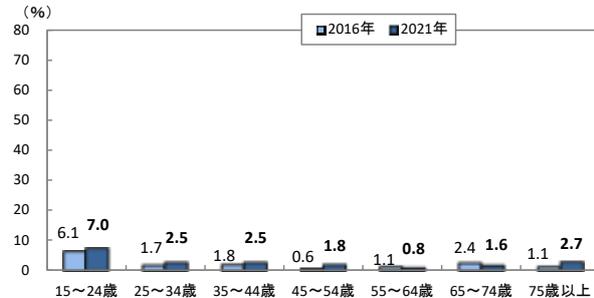
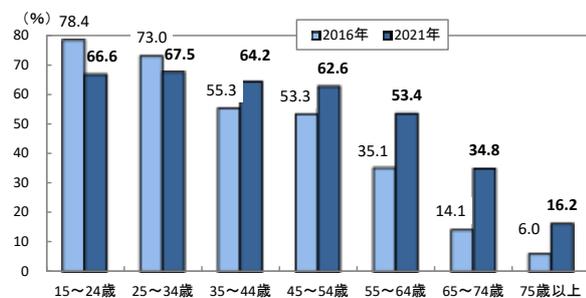
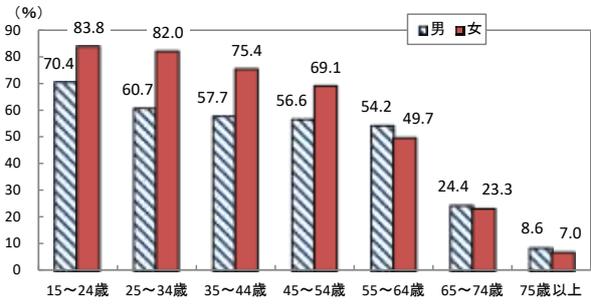
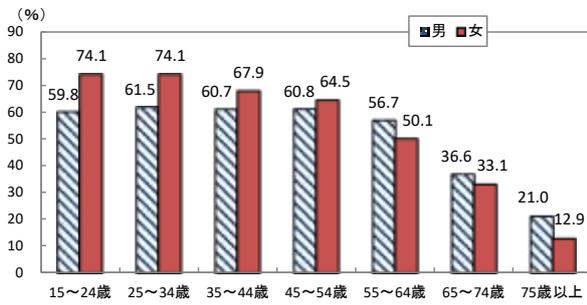
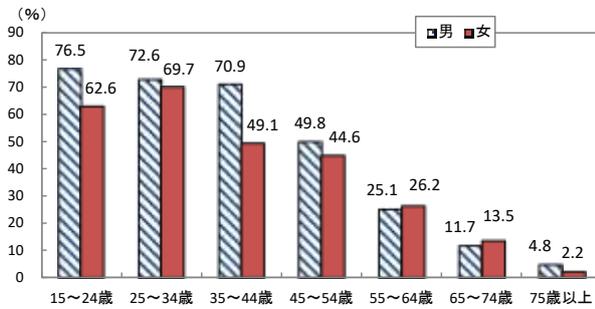


図 7 3 主な「趣味・娯楽」の種類別、男女別、年齢階級別行動者率（2021 年）

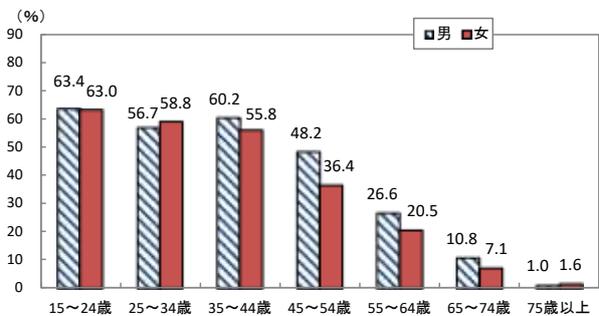
映画館以外での映画鑑賞（テレビ・DVD・パソコンなど） C D・スマートフォンなどによる音楽鑑賞



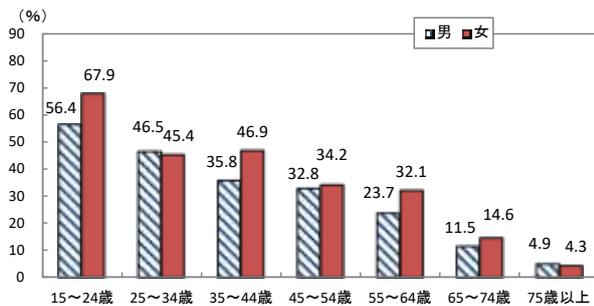
スマートフォン・家庭用ゲーム機などによるゲーム



マンガを読む



映画館での映画鑑賞



趣味としての読書（マンガを除く）

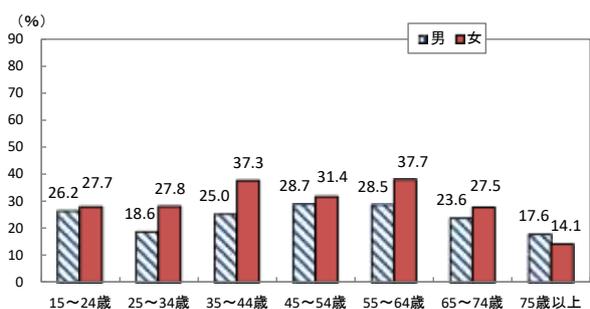


表 2 1 「趣味・娯楽」の年齢階級別、男女別にみた最も行動者率が高い種類（2021 年）

年齢階級	男性		女性	
		行動者率(%)		行動者率(%)
15～24歳	スマートフォン・家庭用ゲーム機などによるゲーム	76.5	CD・スマートフォンなどによる音楽鑑賞	83.8
25～34歳	スマートフォン・家庭用ゲーム機などによるゲーム	72.6	CD・スマートフォンなどによる音楽鑑賞	82.0
35～44歳	スマートフォン・家庭用ゲーム機などによるゲーム	70.9	CD・スマートフォンなどによる音楽鑑賞	75.4
45～54歳	映画館以外での映画鑑賞（テレビ・DVD・パソコンなど）	60.8	CD・スマートフォンなどによる音楽鑑賞	69.1
55～64歳	映画館以外での映画鑑賞（テレビ・DVD・パソコンなど）	56.7	映画館以外での映画鑑賞（テレビ・DVD・パソコンなど）	50.1
65～74歳	映画館以外での映画鑑賞（テレビ・DVD・パソコンなど）	36.6	園芸・庭いじり・ガーデニング	52.7
75歳以上	園芸・庭いじり・ガーデニング	32.8	園芸・庭いじり・ガーデニング	37.4

## 5 旅行・行楽

- ・ 「旅行・行楽」の行動者率は44.3%となり、5年前より29.3ポイントの大幅な低下

「旅行・行楽」の行動者数は300千人、行動者率は44.3%となり、2016年に比べ、行動者率は29.3ポイントの大幅な低下となった。また、全国と比べて行動者率は5.2ポイント低く、減少幅は5.3ポイント大きかった。〔図74〕

行動者率を年齢階級別にみると、「15～24歳」が52.7%と最も高く、64歳以下の年齢階級では50%前後であったものが、「65～74歳」では40.7%、「75歳以上」になると24.1%となっている。2016年と比べてみると、すべての年齢階級において大きく低下している。また、全国と比較すると、「55～64歳」を除くすべての年齢階級において全国を下回っている。〔図75〕

図74 「旅行・行楽」の行動者率の推移（1996年～2021年）

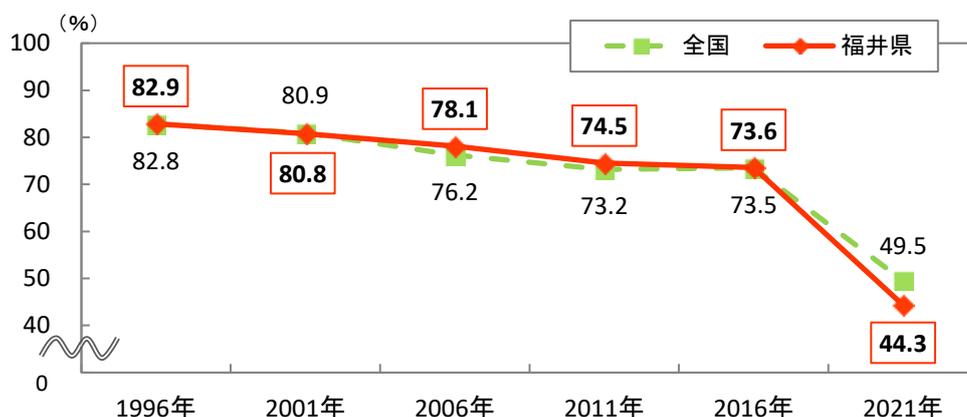
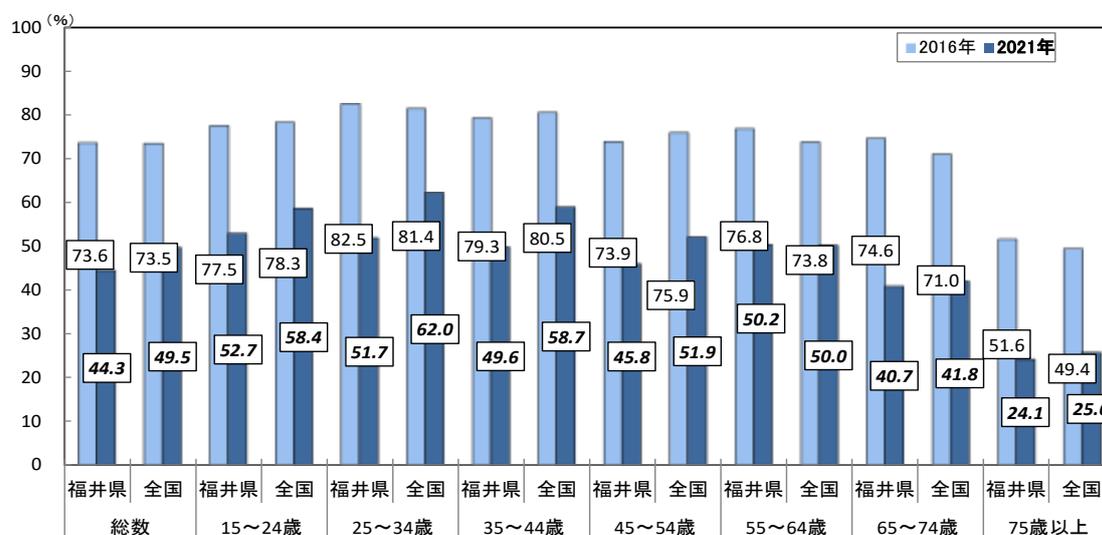


図75 「旅行・行楽」の年齢階級別行動者率（2016年、2021年）



男女別にみると、行動者数は男性が144千人、女性が155千人となり、行動者率は男性が43.5%、女性が45.0%となった。女性の行動者率が男性より1.5ポイント高くなっており、2016年と比べて減少幅は、男性は26.7ポイント、女性は31.8ポイントとなっている。〔図76〕

行動者率を男女別年齢階級別にみると、男女ともに「15～24歳」が最も高い（男性47.5%、女性58.5%）。また、64歳未満の年齢階級では女性のほうが高く、65歳以上の年齢階級では男性の方が高くなっている。〔図77〕

図76 「旅行・行楽」の男女別行動者率の推移（1996年～2021年）

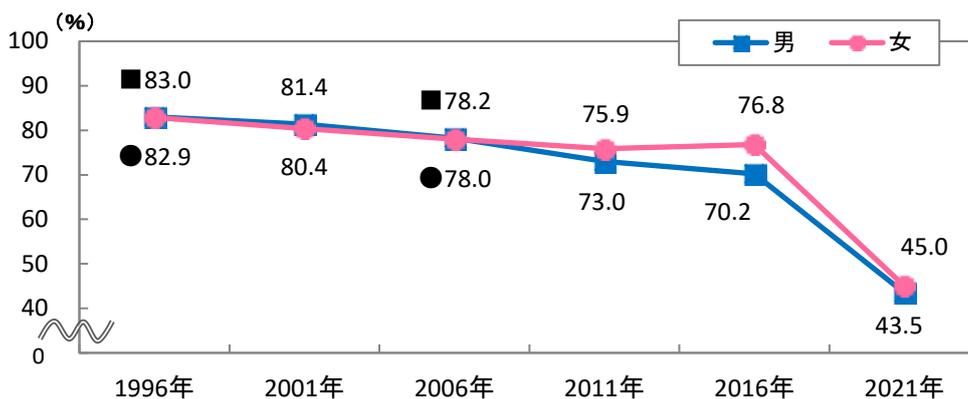
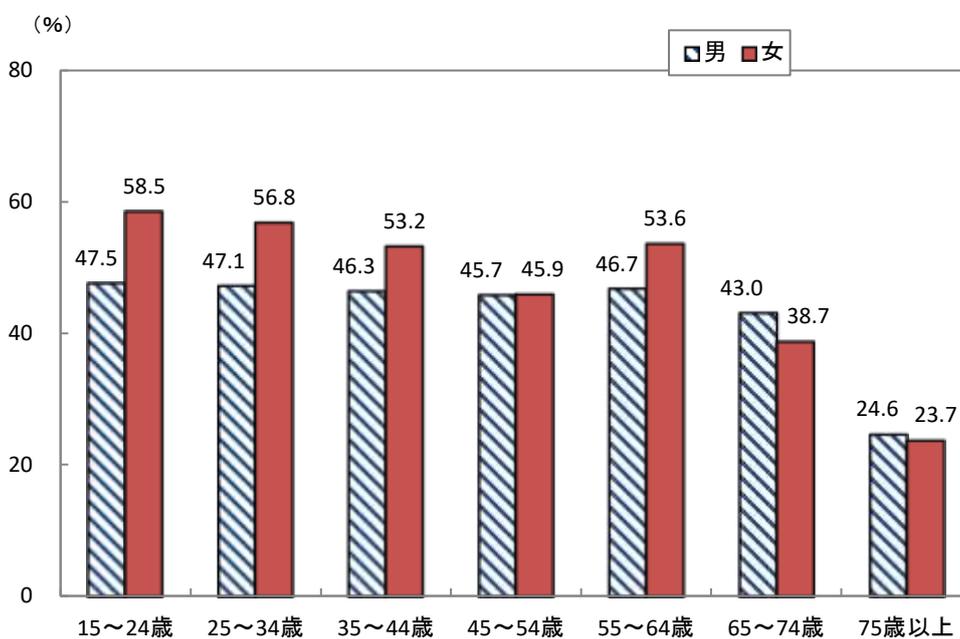


図77 「旅行・行楽」の男女別、年齢階級別行動者率（2021年）



・ 「行楽（日帰り）」の行動者率が最も高く、頻度は「年10回以上」が最も高い

「旅行・行楽」の種類別に行動者率をみると、「行楽（日帰り）」が37.7%、旅行（1泊2日以上）では国内が23.8%、海外が0.4%などとなっている。2016年と比べると、すべての種類で大幅に低下している〔図78〕

男女別にみると、すべての種類において女性のほうが高くなっており、「行楽（日帰り）」では男性36.8%に対し女性が38.5%と、女性のほうが1.7ポイント高い。〔図79〕

図78 「旅行・行楽」の種類別行動者率（2016年、2021年）

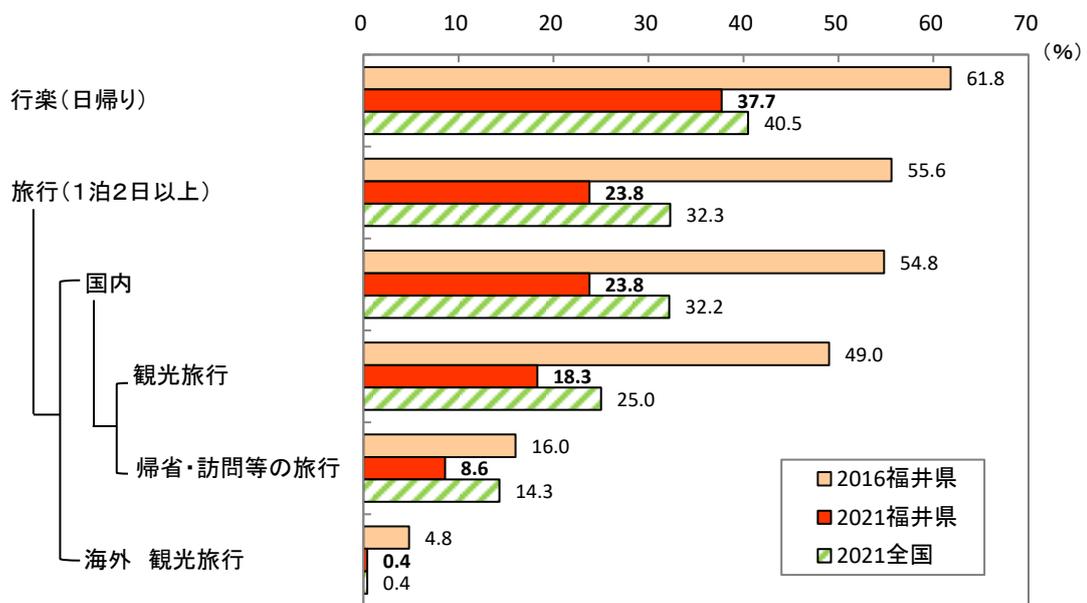
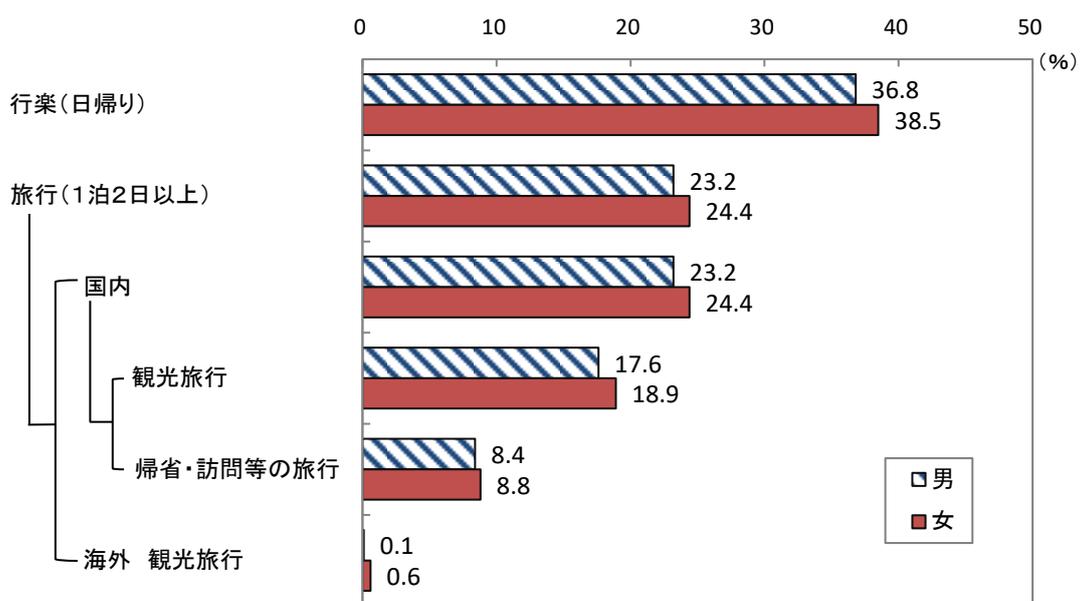


図79 「旅行・行楽」の種類別、男女別行動者率（2021年）



「観光旅行（国内）」の行動者率を男女別年齢階級別にみると、男性は「15～24 歳」が最も高く、女性は「35～44 歳」が最も高くなっている。2016 年と比べると、男女ともにすべての年齢階級で大幅に低下している。〔図 80〕

「旅行・行楽」の種類ごとにその頻度をみると、「行楽（日帰り）」は「年に 10 回以上」が 9.1% と最も高く、「観光旅行（国内）」は「年に 1 回」が 7.8% と最も高くなっている。〔図 81〕

図 8 0 「観光旅行（国内）」の男女別、年齢階級別行動者率（2016 年、2021 年）

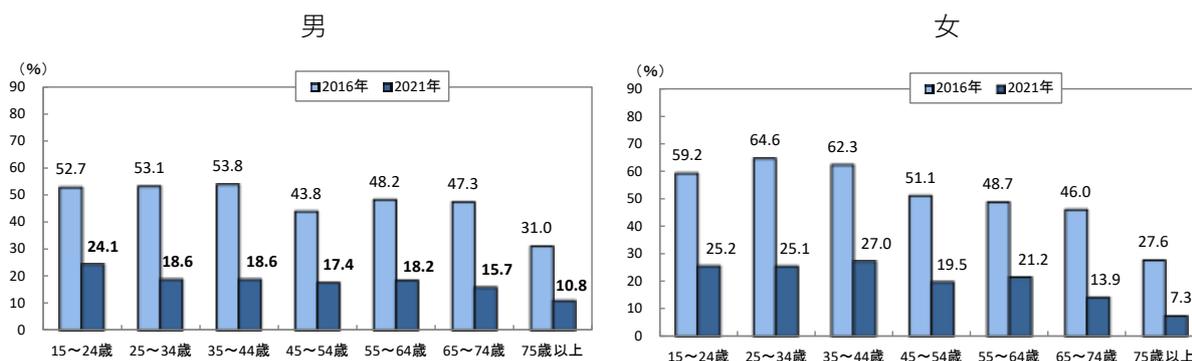
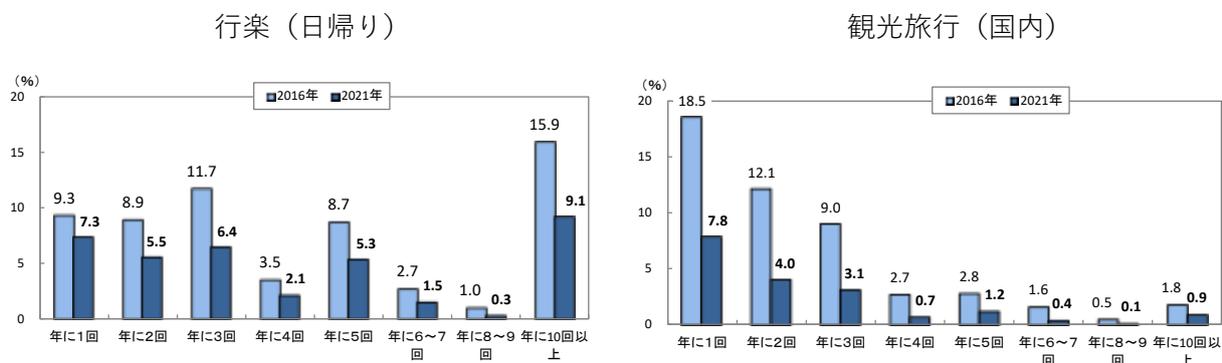


図 8 1 「旅行・行楽」の種類別、頻度別行動者率（2016 年、2021 年）



## 令和 3 年社会生活基本調査の概要

### 1 調査の目的

社会生活基本調査は、国民の生活時間の配分および自由時間における主な活動（「学習・自己啓発・訓練」、「ボランティア活動」、「スポーツ」、「趣味・娯楽」および「旅行・行楽」）について調査し、仕事や家庭生活に費やされる時間、地域活動等へのかかわりなどの実態を明らかにし、各種行政施策の基礎資料を得ることを目的としている。昭和 51 年以来 5 年ごとに実施しており、令和 3 年社会生活基本調査はその 10 回目当たる。

### 2 調査の期日

調査は、令和 3 年 10 月 20 日現在で実施した。

ただし、生活時間については、10 月 16 日から 10 月 24 日までの 9 日間のうち、調査区ごとに指定した連続する 2 日間について調査した。

### 3 調査の地域

平成 27 年国勢調査の調査区のうち、総務大臣の指定する 7,576 調査区において調査を行った。このうち、「調査票 A」を用いた調査区は 7,152 調査区、「調査票 B」を用いた調査区は 424 調査区である。

なお、福井県では、池田町を除く 16 市町で 131 調査区（調査票 A：128 調査区、調査票 B：3 調査区）が対象となった。

### 4 調査の対象

全国の指定調査区の中から選定した約 91,000 世帯に居住する、10 歳以上の世帯員約 19 万人を対象とした。

なお、福井県では、池田町を除く 16 市町で 1,572 世帯（調査票 A：1,536 世帯、調査票 B：36 世帯）が対象となった。

### 5 調査事項

調査票の種類	調査事項	
	※下線部は調査票 A のみ	
調査票 A および 調査票 B	(1)すべての世帯員に関する事項	ア 世帯主との続柄 イ 出生の年月または年齢 ウ 在学、卒業等教育または保育の状況
	(2)10 歳未満の世帯員に関する事項	育児支援の利用の状況

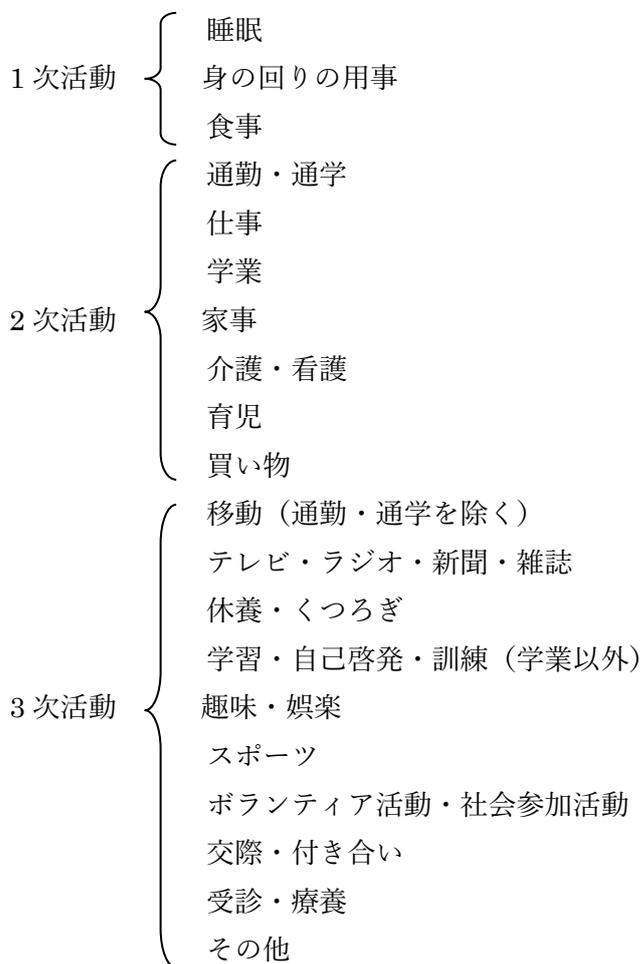
調査票の種類	調査事項 ※下線部は調査票 A のみ	
調査票 A および 調査票 B	(3)10 歳以上の世帯員に関する事項	ア 氏名 イ 男女の別 ウ 配偶の関係 エ ふだんの健康状態 オ <u>学習・研究活動の状況</u> カ <u>ボランティア活動の状況</u> キ <u>スポーツ活動の状況</u> ク <u>趣味・娯楽活動の状況</u> ケ <u>旅行・行楽の状況</u> コ <u>生活時間配分</u>
	(4)15 歳以上の世帯員に関する事項	ア 慢性的な病気及び長期的な健康問題の状態 イ 日常生活への支障の程度 ウ 介護の状況 エ 就業状態 オ <u>就業希望の状況</u> カ 従業上の地位 キ 勤務形態 ク 年次有給休暇の取得日数 ケ 仕事の種類 コ <u>所属の企業全体の従業者数</u> サ ふだんの 1 週間の就業時間 シ 希望する 1 週間の就業時間 ス 仕事からの年間収入
	(5)世帯に関する事項	ア 世帯の種類 イ 10 歳以上の世帯員数 ウ 10 歳未満の世帯員数 エ 世帯の年間収入 オ 不在者の有無

## 用語の説明

### I. 生活時間関係

#### 1 行動の種類

この調査では、1日の行動を20種類に分類し、時間帯（15分単位）別の行動状況（同時に2種類以上の行動をした場合は、主なもの一つ）を調査した。20種類の行動は大きく3つの活動にまとめ、1次活動（睡眠、食事など生理的に必要な活動）、2次活動（仕事、家事など社会生活を営む上で義務的な性格の強い活動）および3次活動（1次活動、2次活動以外で各人が自由に使える時間における活動）とした。



また、必要に応じ次の区分を用いた。

- ・家事関連.....「家事」、「介護・看護」、「育児」および「買い物」
- ・仕事等.....「通勤・通学」、「仕事」および「学業」
- ・自由時間.....「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」、「休養・くつろぎ」、「学習・自己啓発・訓練（学業以外）」、「趣味・娯楽」、「スポーツ」および「ボランティア活動・社会参加活動」

## 2 平均時間

行動の種類別平均時間は、一人1日当たりの平均行動時間数で、次の種類がある。

- ・総平均.....該当する種類の行動をしなかった人を含む全員についての平均
  - ・行動者平均.....該当する種類の行動をした人のみについての平均
- 
- ・曜日別平均.....調査の曜日ごとに平均値を算出したもの。平日平均（月曜日～金曜日の平均値）、月曜日～日曜日平均がある。
  - ・週全体平均.....次の式により曜日別結果を平均して算出した。  
$$(\text{月曜日平均} + \dots + \text{日曜日平均}) / 7$$
ただし、ある曜日に当該属性を持つ客体が存在しない場合は以下のとおり算出した。
    - ・週全体の総平均時間  
$$(5 \times \text{平日平均} + \text{土曜日平均} + \text{日曜日平均}) / 7$$
    - ・週全体の行動者平均時間  
$$(\text{月曜日平均} + \dots + \text{日曜日平均}) * / \text{月曜日～日曜日の当該行動者のいる曜日数}$$\*：当該行動者のいる曜日のみ

## 3 平均時刻

連続する2日間の時間帯別の行動の状況から、主な行動の開始または終了時刻を1日目の午前0時からの経過時間数とし、次の式により平均時刻を算出した。なお、結果表章に用いている曜日は1日目の曜日である。

$$\Sigma (\text{1日目の午前0時からの経過時間数} \times \text{行動者数}) / \text{行動者数}$$

各行動の開始または終了時刻は、次のとおりとした。

- ・起床時刻.....12時前に始まり、60分を超えて続く最初の睡眠の終了時刻。なお、睡眠と睡眠の間の睡眠以外の行動が30分以内の場合は睡眠が続いているとした。
- ・朝食開始時刻.....4時以降、11時前に始まる最初の食事開始時刻
- ・夕食開始時刻.....16時以降、24時（翌日0時）前に始まる最初の食事開始時刻
- ・就寝時刻.....17時以降、36時（翌日12時）前に始まり、60分を超えて続く睡眠の開始時刻。該当の睡眠が2行動以上ある場合は、睡眠継続時間が最長の睡眠（継続時間が同じ場合は、早く現れる方の睡眠）の開始時刻とした。また、睡眠と睡眠の間の睡眠以外の行動が30分以内の場合は、睡眠が続いているとした。

## II. 生活行動関係

### 1 過去1年間に行った行動

この調査では、自由時間における「学習・自己啓発・訓練」、「ボランティア活動」、「スポーツ」、「趣味・娯楽」および「旅行・行楽」について、過去1年間の活動状況をそれぞれの種類別に「行ったか否か」、また、行った場合には、1年間の活動の「頻度」や「目的」、「方法」、「共にした人」などを調査した。

#### (1) 学習・自己啓発・訓練

個人の自由時間の中で行う学習、自己啓発や訓練をいう。社会人の職場研修や、児童・生徒・学生が学業（授業、予習、復習）として行うものは除き、クラブ活動や部活動は含む。「学習・自己啓発・訓練」については、その内容を次の9種類に分類し調査した。

- ・英語
- ・英語以外の外国語
- ・パソコンなどの情報処理
- ・商業実務・ビジネス関係
- ・介護関係
- ・家政・家事（料理・裁縫・家庭経営など）
- ・人文・社会・自然科学（歴史・経済・数学・生物など）
- ・芸術・文化
- ・その他

#### (2) ボランティア活動

報酬を目的としないで、自分の労力、技術、時間を提供して地域社会や個人・団体の福祉増進のために行っている活動をいう。「ボランティア活動」については、対象や目的を次の11種類に分類し調査した。

- ・健康や医療サービスに関係した活動（献血、入院患者の話し相手、安全な食品を広めることなど）
- ・高齢者を対象とした活動（高齢者の日常生活の手助け、高齢者とのレクリエーションなど）
- ・障害者を対象とした活動（手話、点訳、朗読、障害者の社会参加の協力など）
- ・子供を対象とした活動（子供会の世話、子育て支援ボランティア、学校行事の手伝いなど）
- ・スポーツ・文化・芸術・学術に関係した活動（スポーツを教えること、日本古来の文化を広めること、美術館ガイド、講演会・シンポジウム等の開催など）
- ・まちづくりのための活動（道路や公園等の清掃、花いっぱい運動、まちおこしなど）
- ・安全な生活のための活動（防災活動、防犯活動、交通安全運動など）
- ・自然や環境を守るための活動（野鳥の観察と保護、森林や緑を守る活動、リサイクル運動、ゴミを減らす活動など）
- ・災害に関係した活動（災害を受けた人に食べものや着るものを送ること、炊き出しなど）
- ・国際協力に関係した活動（海外支援協力、難民支援、日本にいる外国人への支援活動など）
- ・その他（人権を守るための活動、平和のための活動など）

### (3) スポーツ

個人の自由時間の中で行う「スポーツ」をいう。なお、職業スポーツ選手が仕事として行うものや、児童・生徒・学生が体育の授業で行うものは除き、クラブ活動や部活動は含む。「スポーツ」については、次の23種類に分類し調査した。

- ・ 野球 (キャッチボールを含む)
- ・ ソフトボール
- ・ バレーボール
- ・ バスケットボール
- ・ サッカー (フットサルを含む)
- ・ 卓球
- ・ テニス
- ・ バドミントン
- ・ ゴルフ (練習場を含む)
- ・ グラウンドゴルフ
- ・ 柔道
- ・ 剣道
- ・ ボウリング
- ・ つり
- ・ 水泳
- ・ スキー・スノーボード
- ・ 登山・ハイキング
- ・ サイクリング
- ・ ジョギング・マラソン
- ・ ウォーキング・軽い体操
- ・ ヨガ
- ・ 器具を使ったトレーニング
- ・ その他のスポーツ

### (4) 趣味・娯楽

仕事、学業、家事などのように義務的に行う活動ではなく、個人の自由時間の中で行うものをいう。「趣味・娯楽」については、次の35種類に分類し調査した。

- ・ スポーツ観覧・観戦 (テレビ・スマートフォン・パソコンなどは除く)
- ・ 美術鑑賞 (テレビ・スマートフォン・パソコンなどは除く)
- ・ 演芸・演劇・舞踊鑑賞 (テレビ・スマートフォン・パソコンなどは除く)
- ・ 映画館での映画鑑賞
- ・ 映画館以外での映画鑑賞 (テレビ・DVD・パソコンなど)
- ・ コンサートなどによるクラシック音楽鑑賞
- ・ コンサートなどによるポピュラー音楽・歌謡曲鑑賞
- ・ CD・スマートフォンなどによる音楽鑑賞
- ・ 楽器の演奏
- ・ 邦楽 (民謡、日本古来の音楽を含む)
- ・ コーラス・声楽
- ・ カラオケ
- ・ 邦舞・おどり
- ・ 洋舞・社交ダンス
- ・ 書道
- ・ 華道
- ・ 茶道
- ・ 和裁・洋裁
- ・ 編み物・手芸
- ・ 趣味としての料理・菓子作り
- ・ 園芸・庭いじり・ガーデニング
- ・ 日曜大工
- ・ 絵画・彫刻の制作
- ・ 陶芸・工芸
- ・ 写真の撮影・プリント
- ・ 詩・和歌・俳句・小説などの創作
- ・ 趣味としての読書 (マンガを除く)
- ・ マンガを読む
- ・ 囲碁
- ・ 将棋
- ・ パチンコ
- ・ スマートフォン・家庭用ゲーム機などによるゲーム
- ・ 遊園地、動植物園、水族館などの見物
- ・ キャンプ
- ・ その他の趣味・娯楽

## (5) 旅行・行楽

旅行は、1泊2日以上にわたって行うすべての旅行をいい、日帰りの旅行を除く。行楽は、日常生活圏を離れて宿泊を伴わず、半日以上かけて行う日帰りのものをいい、夜行日帰りを含む。「旅行・行楽」については、国内・海外および旅行目的を次の4種類に分類し調査した。

- ・行楽（半日以上の日帰りをいい、夜行日帰りを含む）
- ・国内観光旅行（レクリエーション・スポーツなどのための旅行を含む）
- ・国内帰省・訪問などの旅行
- ・海外観光旅行（レクリエーション・スポーツなどのための旅行を含む）

## 2 行動者数、行動者率

### (1) 行動者数

過去1年間に該当する種類の活動を行った人（10歳以上）の数。なお、数値は母集団における行動者数の推定値である。

### (2) 行動者率

10歳以上人口に占める行動者数の割合。次の式により算出した。

$$\text{行動者率} = \text{行動者数} \div \text{各属性の10歳以上人口} \times 100 (\%)$$

福井県地域戦略部統計調査課

〒910-8580

福井市大手3丁目17番1号

電話 0776-20-0273(ダイヤルイン)

0776-21-1111(代表)

内線 2376(人口統計グループ)

統計調査課ホームページ

<http://www.pref.fukui.lg.jp/doc/toukei-jouhou/>